

---

# JD Edwards EnterpriseOne 収益性 分析 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.  
Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.  
Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.  
This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.  
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).  
This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).  
This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.  
This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.



# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xvii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xvii
アプリケーションの基礎.....	xvii
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xviii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xviii
追加情報.....	xviii
表記規則.....	xx
表記規則.....	xx
注意事項の表示.....	xxi
国、地域、業種の表記.....	xxi
通貨コード.....	xxii
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxii
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxii

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析 – まえがき.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxv
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxv

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のビジネス・プロセス.....	2
JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の統合.....	3
JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の導入.....	6
グローバル導入の手順.....	7

## 第 2 章

収益性分析の設定.....	9
収益性分析の設定について.....	9

事前設定.....	9
収益性分析の設定.....	9
固定情報の設定.....	11
固定情報の設定について.....	11
固定情報の設定に使用するフォーム.....	12
コスト・オブジェクトと活動基準原価計算の有効化.....	12
製造原価明細の有効化.....	13
コスト・オブジェクト編集コードの設定.....	14
コスト・オブジェクト編集コードの設定について.....	14
事前設定.....	14
コスト・オブジェクト編集コードの設定に使用するフォーム.....	15
コスト・オブジェクト編集コードの設定.....	15
ビジネスユニット別勘定科目 (P0901) の処理オプションの設定.....	16
コスト・オブジェクト・タイプの設定.....	16
コスト・オブジェクト・タイプの設定について.....	16
コスト・オブジェクト・タイプの設定に使用するフォーム.....	16
コスト・オブジェクト・タイプの設定.....	16
原価要素別AAIの設定.....	19
原価要素別AAIの設定について.....	19
製造原価明細作成のためのAAIについて.....	20
事前設定.....	20
原価要素別AAIの設定に使用するフォーム.....	20
原価要素別AAIの設定.....	20
流通AAI(P40950)の処理オプションの設定.....	22
任意勘定科目の設定.....	23
任意勘定科目について.....	23
任意勘定科目形式の定義規則について.....	24
勘定科目情報について.....	24
任意勘定科目の設定に使用するフォーム.....	24
任意勘定科目の設定.....	25
コスト・アナライザ・ビューの設定.....	26
コスト・アナライザ・ビューの設定について.....	26
コスト・アナライザ・ビューの設定に使用するフォーム.....	26
コスト・アナライザ・ビューの設定.....	26
収益性分析のユーザー定義コードの設定.....	27
収益性分析のユーザー定義コードについて.....	27
原価プールについて.....	29
ユーザー定義コード(P0004A)の処理オプションの設定.....	30

**第 3 章**

<b>管理会計と活動基準原価計算について</b> .....	<b>31</b>
管理会計と活動基準原価計算.....	31
管理会計と活動基準原価計算.....	31
活動基準原価計算のデータ・モデルの概要.....	32
意思決定プロセス.....	32

**第 4 章**

<b>ドライバの設定</b> .....	<b>35</b>
ドライバについて.....	35
ドライバの設定について.....	35
ドライバの設定.....	35
事前設定.....	36
自動ドライバの定義.....	36
自動ドライバの定義に使用するフォーム.....	36
自動ドライバの定義.....	36
手動ドライバの定義.....	38
手動ドライバの定義に使用するフォーム.....	38
手動ドライバの定義.....	38

**第 5 章**

<b>活動の設定</b> .....	<b>39</b>
活動の設定.....	39
活動の設定について.....	39
事前設定.....	39
活動の設定に使用するフォーム.....	40
活動グループの定義.....	40
グループへの活動の割当.....	40
ABCワークベンチ(P1640)の処理オプションの設定.....	40

**第 6 章**

<b>コスト・オブジェクトのトラッキングについて</b> .....	<b>43</b>
コスト・オブジェクトのトラッキング.....	43
プロジェクト予算の計算および管理.....	44
コスト・オブジェクトおよび構成部品別の購買価格差異のトラッキング.....	44
運賃の管理.....	44

**第 7 章**

一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....	47
一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	47
総勘定元帳のコスト・オブジェクトの情報の更新について.....	47
仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	48
仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	48
仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	48
仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	48
仕訳入力(P0911)の処理オプションの設定.....	49

**第 8 章**

売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....	51
売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	51
標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	51
標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	52
標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	52
スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	53
スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	53
スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	53
スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	53
バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	54
バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	55
バッチ請求書の処理.....	55
定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	55
定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	56
定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	56
定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	56

**第 9 章**

買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....	59
買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	59
標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	59
標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	59
標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	60
標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	60
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	61
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	61
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	61

スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	61
複数会社伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	62
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	63
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	63
スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	63
複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	64
複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	64
複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	64
複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	64
定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	65
定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	65
定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	66
定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力.....	66

## 第 10 章

コスト・オブジェクトのトラッキングにおけるオフライン処理の使い方.....	67
オフライン処理について.....	67
一般会計について.....	67
一般会計.....	67
買掛管理について.....	68
オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	68
オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	68
事前設定.....	68
オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	68
オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	69
オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	70
オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて.....	70
事前設定.....	70
オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	70
オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	70
オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて.....	71
オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	71
オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	71
オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	71
オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	71
オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	72
オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	72
オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて.....	72
オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	73

オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	73
オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて.....	73
オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード.....	73
<b>第 11 章</b>	
<b>製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....</b>	<b>75</b>
製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	75
作業オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力.....	78
製造会計における原価情報の更新.....	78
<b>第 12 章</b>	
<b>調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....</b>	<b>81</b>
調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	81
陸揚費用へのコスト・オブジェクト情報の入力について.....	84
購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	85
購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	85
購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	85
購買オーダー見出しへのコスト・オブジェクト情報の入力.....	85
入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	87
入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	87
入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	88
入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	88
購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力.....	88
入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	88
購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	89
購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力.....	89
伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	89
伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力について.....	90
事前設定.....	90
伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム.....	90
伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力.....	91
<b>第 13 章</b>	
<b>受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....</b>	<b>93</b>
受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング.....	93
受注オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力.....	96
売上更新時のコスト・オブジェクト情報の更新.....	96

**第 14 章**

<b>輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方</b> .....	<b>97</b>
輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて.....	97
輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方.....	97

**第 15 章**

<b>在庫評価元帳更新におけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方</b> .....	<b>99</b>
在庫評価元帳更新におけるコスト・オブジェクト・トラッキングについて.....	99
在庫評価元帳更新プログラム (R39130) の実行.....	99
在庫評価元帳更新 (R39130) の処理オプションの設定.....	100

**第 16 章**

<b>コスト・アナライザ残高の使い方</b> .....	<b>103</b>
コスト・アナライザ残高について.....	103
事前設定.....	104
コスト・アナライザ情報の更新.....	104
コスト・アナライザ情報の更新について.....	104
コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記.....	105
コスト・アナライザ残高への転記 (R1602) の処理オプションの設定.....	105
コスト・アナライザ残高の表示.....	105
コスト・アナライザ残高の確認について.....	105
コスト・アナライザ情報の表示に使用するフォーム.....	108
コスト・アナライザの照会を使用した残高の表示.....	108
コスト・アナライザの照会 (P1602) の処理オプションの設定.....	110
勘定科目別コスト・アナライザの照会 (P16021) を使用した残高の表示.....	110
勘定科目別コスト・アナライザの照会 (P16021) の処理オプションの設定.....	110
コスト・アナライザ取引明細の照会を使用した残高の表示.....	113
コスト・アナライザ取引明細の照会 (P16200) の処理オプションの設定.....	114
コスト・アナライザ残高の除去.....	115
コスト・アナライザ残高の除去について.....	115
コスト・アナライザの除去の実行.....	115
コスト・アナライザの除去 (R1602P) の処理オプションの設定.....	115
コスト・オブジェクト別収益性の検討.....	116
品目収益性レポートの実行.....	116
品目収益性レポート (R16022) の処理オプションの設定.....	116

**第 17 章**

<b>外部コスト・アナライザ残高の処理</b> .....	117
外部コスト・アナライザ残高の処理について.....	117
外部コスト・アナライザ残高の処理.....	117
外部コスト・アナライザ残高のインポートについて.....	117
外部コスト・アナライザ残高の除去について.....	133
外部コスト・アナライザ残高の手入力.....	133
外部コスト・アナライザ残高の手入力について.....	133
外部コスト・アナライザ残高の手入力に使用するフォーム.....	134
外部コスト・アナライザ残高の手入力.....	134
外部コスト・アナライザ残高の確認および変更.....	135
外部コスト・アナライザ残高の確認および変更について.....	135
外部コスト・アナライザ残高の確認および変更使用するフォーム.....	135
外部コスト・アナライザ残高の確認および変更.....	135
外部コスト・アナライザ残高のアップロード.....	135
外部コスト・アナライザ残高のアップロードについて.....	136
外部コスト・アナライザ残高の処理 (R1602Z1) の処理オプションの設定.....	136

**第 18 章**

<b>ドライバ残高の計算</b> .....	139
ドライバ情報の入力.....	139
ドライバ情報の入力について.....	139
基準テーブルについて.....	140
事前設定.....	141
ドライバ情報の入力および変更使用するフォーム.....	141
ドライバ情報の入力.....	142
ドライバ情報の変更.....	142
ドライバ・ボリュームの改訂 (P1632) の処理オプションの設定.....	143
ドライバの選択.....	143
ドライバの選択に使用するフォーム.....	143
ドライバの選択.....	143
ドライバ計算の実行.....	144
ドライバ計算について.....	144
ドライバ計算の実行.....	145
自動ドライバ計算 (R1632) の処理オプションの設定.....	145
ドライバ残高の確認.....	146
ドライバ残高の確認使用するフォーム.....	146
ドライバ残高の確認.....	146
ドライバ残高の除去.....	147

ドライバ残高の除去について.....	147
ドライバ残高の除去.....	148
ドライバ残高の除去(R1632P)の処理オプションの設定.....	148
<b>第 19 章</b>	
<b>外部ドライバ残高の処理.....</b>	<b>149</b>
外部ドライバ残高の処理について.....	149
外部ドライバ残高のインポートについて.....	149
外部ドライバ残高の手動入力.....	156
外部ドライバ残高の手動入力について.....	156
外部ドライバ残高の手動入力に使用するフォーム.....	157
外部ドライバ残高の手動入力.....	157
外部ドライバ残高の確認と改訂.....	157
外部ドライバ残高の確認と改訂について.....	158
外部ドライバ残高の確認と改訂に使用するフォーム.....	158
外部ドライバ残高の確認と改訂.....	158
外部ドライバ残高のアップロード.....	158
外部ドライバ残高のアップロードについて.....	159
外部ドライバ残高のアップロードに使用するフォーム.....	159
外部ドライバ残高の処理(R1632Z1I)の処理オプションの設定.....	159
外部ドライバ残高の除去.....	159
外部ドライバ残高の除去について.....	160
外部ドライバ残高の除去に使用するフォーム.....	160
外部ドライバ残高の除去プログラム(R1632Z1P)の実行.....	160
外部ドライバ残高の除去(R1632Z1P)の処理オプションの設定.....	160
<b>第 20 章</b>	
<b>活動の確認.....</b>	<b>161</b>
活動について.....	161
活動別プロジェクトの実際原価のトラッキングについて.....	162
活動別プロジェクト・プロファイルの定義について.....	162
活動別時間入力について.....	162
活動の確認.....	163
活動の確認について.....	163
ABCワークベンチについて.....	163
活動の確認に使用するフォーム.....	164
活動原価の照会.....	164
活動原価照会(P1641)の処理オプションの設定.....	165

活動の確認.....	166
活動マスター・レポートの検討.....	166
活動マスター・レポート(R1640)の処理オプションの設定.....	167
<b>第 21 章</b>	
<b>割当の処理.....</b>	<b>169</b>
割当について.....	169
割当の設定について.....	170
繰返し割当について.....	174
レートの設定.....	176
レートの設定について.....	176
レートの設定に使用するフォーム.....	177
レートの設定.....	177
割当の設定.....	178
割当について.....	178
インデックス計算の設定について.....	180
変数配賦の設定について.....	180
レート計算の設定について.....	182
レート基準の設定について.....	184
インデックス計算、変数配賦、レート計算、レート基準計算の設定に使用するフォーム.....	187
計算の設定.....	187
繰返し割当の設定.....	190
繰返し割当の設定について.....	190
繰返し割当の設定に使用するフォーム.....	190
繰返し割当の設定.....	190
最大繰返ししきい値の指定.....	191
最大繰返ししきい値について.....	191
最大繰返ししきい値の指定に使用するフォーム.....	191
最大繰返ししきい値の指定.....	191
コスト・オブジェクト照合の使い方.....	191
コスト・オブジェクト照合について.....	191
コスト・オブジェクト照合を使用した割当の設定に使用するフォーム.....	192
コスト・オブジェクト照合を使用した割当の設定.....	192
コスト割当の改訂.....	193
コスト割当計算の改訂.....	194
コスト割当計算の改訂に使用するフォーム.....	194
コスト割当計算の改訂.....	194
コスト割当計算の実行.....	194
割当の計算プログラムについて.....	194

割当の計算プログラム(R16103)の実行.....	195
割当の計算(R16103)の処理オプションの設定.....	195
コスト割当取引の確認.....	196
コスト割当取引の確認について.....	196
コスト割当取引の確認に使用するフォーム.....	196
コスト割当取引の確認.....	196
割当計算レポートの確認.....	198
割当計算レポートについて.....	198
割当計算レポートの確認.....	198

## 第 22 章

<b>収益性分析のための収益性分析財務レポートの検討.....</b>	<b>199</b>
収益性分析財務レポートについて.....	199
事前設定.....	199
収益性分析財務レポート.....	199
複数プロジェクトの収益性の比較.....	200
コスト・オブジェクト別収益性レポートの検討.....	200
コスト・オブジェクト別収益性レポートについて.....	200
コスト・オブジェクト別収益性レポートの実行.....	200
コスト・オブジェクト別収益性(R16023)の処理オプションの設定.....	200
コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの検討.....	201
コスト・オブジェクト別損益計算書レポートについて.....	201
コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの実行.....	202
コスト・オブジェクト別損益計算書(R16024)の処理オプションの設定.....	202
コスト・オブジェクト別試算表レポートの検討.....	203
コスト・オブジェクト別試算表レポートについて.....	203
コスト・オブジェクト別試算表レポートの実行.....	203
コスト・オブジェクト別試算表(R16025)の処理オプションの設定.....	203
コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの検討.....	206
コスト・オブジェクト別試算表レポートについて.....	206
コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの実行.....	206
コスト・オブジェクトの主科目別試算表(R16026)の処理オプションの設定.....	207

## 第 23 章

<b>残高調整のための収益性分析監査レポートの検討.....</b>	<b>211</b>
収益性分析監査レポートについて.....	211
履歴レポート - 資源から活動レポートの検討.....	211
履歴レポート - 資源から活動レポートの実行.....	212

履歴レポート – 資源から活動 (R16111) の処理オプションの設定.....	212
履歴レポート – 割当別レポートの検討.....	212
履歴レポート – 割当別レポートの実行.....	212
履歴レポート – 割当別 (R16112) の処理オプションの設定.....	213
履歴レポート – 資源からコスト・オブジェクト・レポートの検討.....	213
履歴レポート – 資源からコスト・オブジェクト・レポートの実行.....	213
履歴レポート – 資源からコスト・オブジェクト (R16113) の処理オプションの設定.....	213
履歴レポート – 活動からコスト・オブジェクト・レポートの検討.....	213
履歴レポート – 活動からコスト・オブジェクト・レポートの実行.....	214
履歴レポート – 活動からコスト・オブジェクト (R16114) の処理オプションの設定.....	214
<b>第 24 章</b>	
<b>顧客収益性レポートの検討.....</b>	<b>215</b>
顧客収益性レポートについて.....	215
顧客収益性レポート.....	215
事前設定.....	216
顧客収益性レポートの実行.....	216
顧客収益性レポート (R16028) の処理オプションの設定.....	216
<b>JD Edwards EnterpriseOne用語集.....</b>	<b>219</b>
<b>索引 .....</b>	<b>235</b>

# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要となる情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお勧めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ)

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせて使う操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

表記規則

### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

### 国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されません。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。 空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。 A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。 D: バッチが正常に転記されています。 E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。
	<p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

# JD Edwards EnterpriseOne収益性分析 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算および製造会計
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

### この製品ガイドで使用する共通フィールド

#### 原価タイプ

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して追加または変更できます。コスト・オブジェクトとコスト・オブジェクト・タイプを入力して、任意勘定セグメントを標準フォーマット・セグメントに関連付けます。

#### データ項目

情報単位を識別および定義するコードを入力します。最大8文字の英数字のコードで、空白および特殊文字(%、&、+など)は使用できません。新

しいデータ項目を作成するには、システム・コード55から59までを使用します。エイリアスは変更できません。

## 伝票タイプ

伝票のタイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめ予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプは事前定義されているため、変更しないようにしてください。

- P: 買掛金
- R: 売掛金
- T: 給与計算
- I: 在庫
- O: 購買オーダー処理
- J: 一般会計/共有利息請求
- S: 受注オーダー処理

## 2重通貨元帳タイプ

2重通貨フラグがアクティブなときに、2重通貨が使用される元帳タイプ(UDC 09/LT)を入力します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプXAが2重通貨に使用されます。

## 元帳タイプ

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)を入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

## IPI課税対象額

IPI課税対象となる金額を入力します。

## FIFO(先入先出)階層の積上げ

残りのFIFO階層を年度末処理で積み上げるかどうかを入力します。LIFO評価では、必ずすべての階層が年度末に積み上げられ、翌年度の期首残高に単一の階層として集計されます。FIFO評価で1つの階層に積み上げる場合は、このオプションに「1」を入力します。入力しなかった場合は、FIFO評価は1つの階層に積み上げられません。値は次のとおりです。

ブランク: 残りのFIFO階層を積み上げない。

1: 残りのFIFO階層を積み上げる。

## 補助元帳タイプ

補助元帳タイプを識別するために「補助元帳」フィールドで使用されるユーザー定義コード(00/ST)を入力し、補助元帳の編集方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。値は次のとおりです。

- A: 英数字フィールド(編集なし)
- N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)
- C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)

## トランザクションの種類

税金用途に3文字のコードを入力し、トランザクションの種類を指定します。トランザクションの種類のコッド値を入力するには、次の規則を使用します。X.YYのXは、トランザクションの発生元を表します(インバウンドまたはアウトバウンド)。Xの有効な値は次のとおりです。

- 1: インバウンド、州内

- 2: インバウンド、他州
- 3: インバウンド、輸入
- 5: アウトバウンド、州内
- 6: アウトバウンド、他州
- 7: アウトバウンド、輸出。YYは、販売トランザクションなど、トランザクション全体の内容を表します。

トランザクションの種類のコ드의例: 511(州内での販売)、611(他州での販売)

**バージョンID**

使用される総勘定元帳仕訳入力プログラムのバージョンを入力します。この処理オプションをblankにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

**ビューNo.**

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10までの番号で入力します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911のレコードが転記対象として設定されていると、PM01がPIに更新されます。



# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne収益性分析 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の概要
- JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の統合
- JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の概要

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムは、管理会計および活動基準原価計算の基盤となるシステムです。ビジネス・プロセスに基づいて設計された統合的なコンポーネント・ブロックで構成されています。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、従来の原価計算、活動基準原価計算、または両方の組合せを使用してデータを分析できます。従来の原価計算と活動基準原価計算を組み合わせることにより、より柔軟にビジネスを管理できます。

従来の原価計算と活動基準原価計算は、活動基準原価計算がGAAP(一般に公正妥当と認められた会計原則)に従う必要がない点が異なります。活動基準原価計算では、貸借が一致する必要はありません。このため、ビジネス全体ではなく一部に集中した分析を行うことができます。

通常、活動基準原価計算は、間接費をより正確にコスト・オブジェクトに配賦する必要がある場合に使用します。

一般にコスト・オブジェクトは、顧客と製品という2つの主要カテゴリに分類されます。顧客と製品の詳細レベルは、各企業の必要性に応じて設定できます。

管理会計は、経営管理者が組織運営の計画と統制に使用する情報を提供します。財務会計では組織レベルで分析が行われるのに対し、管理会計ではプロフィット・センターレベルで分析が行われます。たとえば、管理会計では、マーケティング、総務、製造など、組織に関する分析ではなく、顧客および製品に関する情報を分析します。

管理会計システムにおいて、従来の財務会計システムは、モデリング、シミュレーション、および仮定条件分析に使用するデータベースを提供します。間接原価プールを使用して、すべての収益と費用をプロフィット・センターレベルに割り当てます。このプロセスで、製品ライン、顧客の収益性、マーケティング戦略、組織再編成、コスト削減プロジェクトなど、重要な経営意思決定に必要な情報が提供されます。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、経営意思決定のために必要なレポートを作成できます。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析を使用すると、財務情報を独自の形式で表示することにより、同じ売上高でも、出荷量、梱包方法、客先仕様、製品ミックスによって売上高総利益率が大幅に変わることがわかります。

これらのニーズに対応するため、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では次の処理を実行できます。

- コスト・アナライザ・テーブルの財務情報の詳細分析
- コスト・オブジェクトを使用した取引のトラッキングと割当
- 数量情報の取得
- コスト・ドライバに基づくコストの再割当

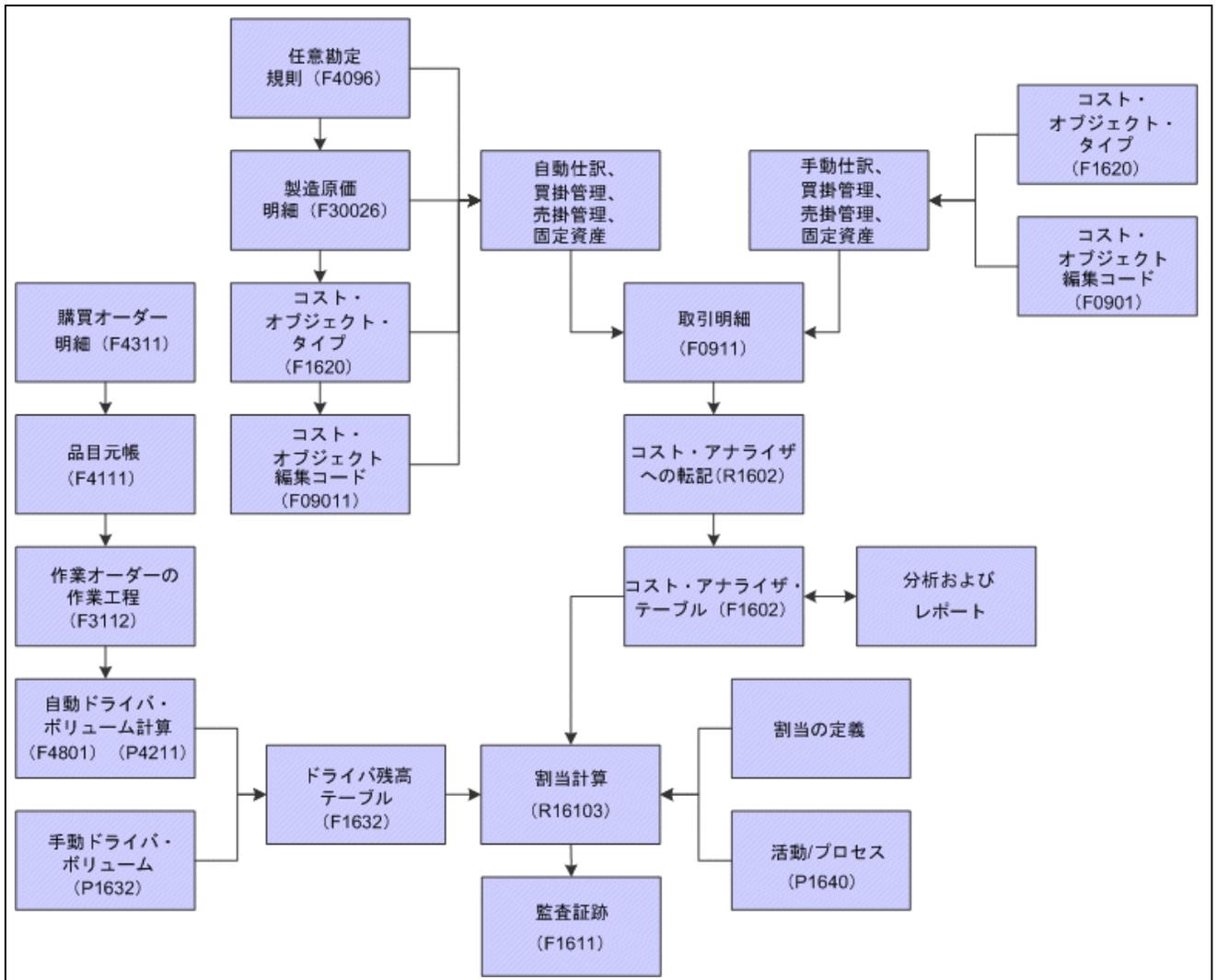
活動基準原価計算を行うことにより、原因結果分析を使用して特定の製品または顧客の直接費または間接費を把握できます。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、活動を集めて、トラッキングし、特定のコスト・オブジェクトに割り当てることができます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の機能を示しています。

機能	用途
コスト・オブジェクト・トラッキング	取引を発生元のコスト・オブジェクトに直接割り当てることができます。コスト・オブジェクトは、コストの計算やトラッキングを行う最も下位の階層になります。コスト・オブジェクトの例としては、顧客、品目番号、受注オーダー番号があります。
コスト・アナライザ	財務会計情報に影響を与えることなく、管理会計情報の編集と分析ができます。
製造原価明細	自動仕訳を作成する際に、製造原価明細を把握できます。原材料、労務費、間接費などの分析に、製造原価明細を使用します。
ドライバ計算	取引情報に基づいてボリュームを計算できます。たとえば、顧客別に受注オーダーの行数を計算できます。ドライバ・ボリュームは、間接費をコスト・オブジェクトに再割当するのに使用されます。
コストの割当と配賦	コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に対して、管理会計だけでなく活動基準原価計算用の計算処理を実行できます。ビジネス・ニーズに応じて配賦を定義できます。計算の監査証跡が記録され、振替ごとにその残高を取得できます。
活動基準原価計算	コスト・オブジェクト、活動、プロセスを定義し、それらの相互関係を作成できます。また、ビジネス・プロセスのコストを分析することもできます。

## JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のビジネス・プロセス

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のビジネス・プロセスを表しています。



収益性分析のプロセス・フロー

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

## JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の統合

他のシステムで取引を処理する場合、活動基準原価計算または管理会計に関する情報は、そのアプリケーションの設定方法に基づいて、任意勘定科目による会計規則(任意勘定規則)またはコスト・オブジェクト規則を使用して取得できます。

**注意:** オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムおよび流通管理システムについてはAAI(自動仕訳)の設定方法を使用する必要があります。その他の方法を使用する場合は、対象となるシステムに適合するかどうかを確認する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムは、その他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連動して機能し、すべての情報が総勘定元帳に完全に取り込まれます。統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトを参照してください。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムと統合されているシステムを示しています。

アプリケーション	統合
JD Edwards EnterpriseOne買掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne売掛管理	<p>JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、コスト・オブジェクト情報を手動で入力することも、自動的に設定することもできます。コスト・オブジェクト・フィールドは、収益性分析固定情報テーブル (F1609) の“コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合に入力可能となり、情報を入力できます。</p> <p>任意勘定規則を使用して、転記前の伝票および支払の処理で相殺仕訳を作成する際に、どのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を自動設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>• 該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>• 主科目の設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>
JD Edwards EnterpriseOne一般会計	<p>JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、手動入力の取引に対し、コスト・オブジェクトを入力できます。コスト・オブジェクト・フィールドは、収益性分析固定情報テーブル (F1609) の“コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合に入力可能です。</p>
JD Edwards EnterpriseOne在庫管理	<p>JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、品目追加原価要素テーブル (F30026) を使用して、在庫管理に関する原価を確定し、コスト・タイプ別に情報を取り込むことができます。在庫固定情報テーブル (F41001) の製品原価明細フィールドがアクティブの場合、標準原価原価計算方法 (07) を使用する必要があります。製品原価明細フィールドが非アクティブの場合は、原価計算方法01から06、および08を使用できます。原価の計算は、品目原価テーブル (F4105) に基づいて行われます。</p> <p>任意勘定規則を使用して、自動仕訳の作成時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>• 該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>• AAIの設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>

アプリケーション	統合
JD Edwards EnterpriseOne 製造会計	<p>任意勘定規則を使用して、自動仕訳の作成時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>• 該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>• AAIの設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>
JD Edwards EnterpriseOne 製造原価計算	<p>任意勘定規則を使用して、自動仕訳時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を自動設定するかを指定します。製品原価明細フィールドが非アクティブの場合、原価計算方法01から06、および08を使用できます。原価の計算は、品目原価テーブル(F4105)を使用して行われます。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>• 該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>• AAIの設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>
JD Edwards EnterpriseOne 調達管理	<p>JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、手動入力の取引に対し、コスト・オブジェクトを入力できます。コスト・オブジェクト・フィールドは、収益性分析固定情報テーブル(F1609)の“コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合に入力可能です。任意勘定規則を使用して、自動仕訳の作成時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>• 該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>• AAIの設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>

アプリケーション	統合
JD Edwards EnterpriseOne受注管理	<p>任意勘定規則を使用して、仕訳の作成時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>“コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>AAIの設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul> <p>JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、品目追加原価要素テーブル(F30026)を使用して、在庫管理に関する原価を確定し、コスト・タイプ別に情報を取り込むことができます。在庫固定情報テーブル(F41001)の製品原価明細フィールドがアクティブの場合、標準原価原価計算方法(07)を使用する必要があります。製品原価明細フィールドが非アクティブの場合は、原価計算方法01から06、および08を使用できます。原価の計算は、品目原価テーブル(F4105)に基づいて行われます。</p>
JD Edwards EnterpriseOne輸送管理	<p>任意勘定規則を使用して、仕訳の作成時にどのようにコスト・オブジェクト・フィールドに値を設定するかを指定します。任意勘定規則は、次の場合に参照されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>“コスト・オブジェクトを使用可能にする”フィールドがアクティブの場合</li> <li>該当するアプリケーションの設定方法が指定されている場合</li> <li>設定方法に対する任意勘定規則が存在する場合</li> </ul>

## JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析について、どのESU(電子ソフトウェア更新)をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

## グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	
2. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	
3. 一般会計固定情報を設定します。	
4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」</li> <li>JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」</li> </ul>
5. 元帳タイプ規則を設定します。	
6. 住所録レコードを入力します。	
7. 固定情報を設定します。	<u>第 2 章、「収益性分析の設定」、「固定情報の設定」、11ページ</u>
8. コスト・オブジェクト・タイプを設定します。	<u>第 2 章、「収益性分析の設定」、「コスト・オブジェクト・タイプの設定」、16ページ</u>
9. 活動を設定します。	<u>第 5 章、「活動の設定」、「活動の設定」、39ページ</u>



## 第 2 章

# 収益性分析の設定

この章では、収益性分析の設定の概要と、次の方法について説明します。

- 固定情報の設定
- コスト・オブジェクト編集コードの設定
- コスト・オブジェクト・タイプの設定
- 原価要素別AAIの設定
- 任意勘定科目の設定
- コスト・アナライザ・ビューの設定
- 収益性分析のユーザー定義コードの設定

---

## 収益性分析の設定について

この項では、収益性分析の設定の概要および事前設定について説明します。

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、事前に該当する製造AAIを検討して設定します。

#### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide、ユーザー定義コードに関する項

### 収益性分析の設定

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析を経営意思決定ツールとして活用するためには、システムを正しく設定することが不可欠です。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の設定を正しく行うことによって、仮定データを作成して直接費をトラッキングし、統合された既存システムの実績データに基づいて的確な意思決定を下すことができます。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、販売、会計、購買、製造、輸送の各システムからの取引データと、販売および作業オーダー・システムからの活動または資源の需要量の測定データ(ドライバ・ボリューム)に基づいて、収益およびコストに関する詳細情報を作成できます。

#### 固定情報

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析と他のシステムを連動して使用するには、固定情報を設定して、情報の表示方法と処理方法を指定する必要があります。固定情報を設定するには、次の情報を指定します。

- コスト・オブジェクトのフィールドを表示するかどうか。

- 活動基準原価計算のフィールドを表示するかどうか。
- 収益や売上原価などの製造原価の明細を表示するかどうか。

## コスト・オブジェクト

コスト・オブジェクトは、コストや収益を計算したりトラッキングしたりする最終(最下位)のレベルです。たとえば、コスト・オブジェクトは顧客や品目番号になる場合があります。コストや収益をトラッキングするための会計処理のレポートを作成するには、オブジェクトの識別、原価のトラッキング方法の設定、AAI(自動仕訳)の定義、および任意勘定科目による会計規則(任意勘定規則)の定義を行う必要があります。

コスト・オブジェクトを設定すると、分析するデータの種類と分析方法を定義できます。コスト・オブジェクトは、ユーザー定義で4つのタイプを設定できます。品目マスター(F4101)には、あらかじめ1つのコスト・オブジェクト・タイプが定義されています。コスト・オブジェクト・タイプには、顧客、仕入先、製品ラインなどがあります。

コストや収益に関する情報は、コスト・オブジェクト・タイプを使用して収集します。この情報に基づいて、コストが業務や収益にどのように影響を与えるかを判断できます。たとえば、現在費している送料や運賃を顧客別に分析するとします。この場合は、コスト・オブジェクト・タイプを“顧客”に設定します。ある顧客について送料や運賃が発生するたびに、該当する顧客の住所録番号がJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムのコスト・オブジェクト・フィールドに入力されます。この情報に基づいて、担当する顧客の送料や運賃をトラッキングできます。

コスト・オブジェクト・タイプは、いつでも定義を追加できます。収集するデータに一貫性を持たせるには、分析対象のコストのタイプについて十分に注意する必要があります。

コスト・オブジェクトは、次のいずれかの方法で値を入力できます。

- JD Edwards EnterpriseOne 作業オーダー管理、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理、JD Edwards EnterpriseOne 固定資産管理など、他のシステムで使用されるJD Edwards EnterpriseOne収益性分析の取引のAAIと任意勘定規則を設定する。
- 買掛管理システムや一般会計システムなどに直接手入力する。
- カスタム・プログラムを作成する。

## コスト・オブジェクト編集コード

コスト・オブジェクト編集コードを使用すると、管理者が設定および定義したコスト・オブジェクト・タイプが関連システムで使用されます。関連システムには、データが一貫して入力されるため、分析対象の収集データの整合性が保たれます。

編集コードを設定して有効にすると、フィールドへのデータ入力に対して設定した規則(コスト・オブジェクトの入力を必須にするか、フィールドがブランクの状態を許可するかなど)が適用されます。特定のコスト・オブジェクトの入力を必須にするように編集コードを設定した場合、買掛管理システムや他の関連システムで取引を入力する際にコスト・オブジェクトを入力しないと、エラー・メッセージが表示されます。

## ビュー

活動基準原価計算や管理会計の計算結果を参照するには、コスト・アナライザのビューを定義する必要があります。コスト・アナライザ・ビューでは、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に集計形式または明細形式でデータを転記できます。

また、コスト・アナライザ・ビューでは、異なる年度や同じ年度で集計されたデータも参照できます。ビューを定義する場合は、参照するデータの会計年度と会計期間パターンを指定します。また、元帳タイプ、データのビジネスユニット、コスト・オブジェクトなど、参照するデータの詳細レベルも定義します。

## 活動

活動基準原価計算でJD Edwards EnterpriseOne収益性分析を使用する場合は、計算を実行するためのプロセスと活動を設定します。活動とは、ビジネス・プロセスで発生するタスクまたはイベントを表します。たとえば、請求書を送信して承認を得ることは、仕入先への支払というプロセスの中の1つの活動です。また、各プロセスおよび活動に対して、計算タイプ、計算の順序、残高の取得先、計算基準、計算結果の保存先を定義できます。

## AAIおよび任意勘定規則

AAI(自動仕訳)は、日次業務、勘定科目表、財務レポートをリンクさせます。特定の勘定科目へ転記を行うプログラムでは、AAIを使用して仕訳が作成されます。製造原価明細に基づいてデータを分析する場合は、AAIを設定して製造原価明細を取り込んだ仕訳を作成する必要があります。

設定した任意勘定規則に従って、収益性分析用の補助元帳および補助元帳タイプの入力に使用するコスト・オブジェクト情報が取り込まれます。入力形式は柔軟に設定できるため、補助元帳に入力する情報を任意に定義できます。たとえば、顧客番号、販売区域、製品カテゴリ、および製品からなる形式を作成できます。

## ドライバ

ドライバとは、コストや収益に影響を与える活動または資源の需要量を測定する手段です。需要量や数量の計算に必要なデータをどのテーブルから取得するかを指定するには、自動ドライバを設定します。JD Edwards EnterpriseOneシステムに保存されていないデータの計算を実行するには、手動ドライバを設定します。

## 原価プール

原価プールとは、原価要素をグループ化したものです。原価プールを設定すると、同種の原価に関するデータを収集して、それぞれの原価をまとめて計算できます。

たとえば、原価プールを使用すると、定期給与、超過勤務手当、賞与などの特定のビジネス・プロセスに関連する労務費のデータを収集できます。特定のビジネス・プロセスに関連するすべての労務費を収集することにより、そのビジネス・プロセスに関連する収益と労務費を比較して、発生した利益に対して労務費が妥当であるかどうかを判断できます。

---

## 固定情報の設定

この項では、固定情報の設定の概要と、次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクトと活動基準原価計算の有効化
- 製造原価明細の有効化

## 固定情報の設定について

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムと他のシステムを連動して使用するには、情報の処理方法を標準化するためのパラメータを設定する必要があります。情報の処理方法を指定するには、固定情報を設定します。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムの原価計算機能を使用するには、コスト・オブジェクトを有効にする必要があります。また、活動基準原価計算の機能を有効にして、合計原価と製造原価明細のどちらを使用するかを事業所ごとに定義します。事業所固定情報を設定すると、製造システムおよび流通システムで事業所ごとに取引の日時処理をカスタマイズできます。

## 任意勘定規則

自動仕訳の作成時のコスト・オブジェクト・フィールドの入力方法を指定するには、任意勘定規則を使用します。

収益性分析システムでは、次のテーブルが使用されます。

- F4105 (品目原価)
- F30026 (品目追加原価要素)

## 作業場レベルの差異

作業場レベルでの差異を記録するには、製造固定情報プログラム (P3009) の「製造固定情報の改訂」フォームにある「作業場別原価」チェックボックスを選択する必要があります。

差異の記録には、そのタイプに応じて標準、現行、予定、実際、完了、仕損などの原価を組み合わせた計算式が使用されます。次の表は、差異のタイプと計算式を示しています。

差異のタイプ	計算式
設計	標準 - 現行
計画	現行 - 予定
実際	予定 - 実際
その他	標準 - (完了 + 仕損)

## 固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
収益性分析固定情報の入力/変更	W1609A	「システム・セットアップ」(G1641)、「収益性分析固定情報」	コスト・オブジェクトに関連する機能を有効にします。 活動基準原価計算を使用するかどうかを指定します。
事業所固定情報	W41001B	「在庫管理設定」(G4141)、「事業所固定情報」 「事業所固定情報の処理」フォームで、レコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	製造原価明細を有効にします。

## コスト・オブジェクトと活動基準原価計算の有効化

「収益性分析固定情報の入力/変更」フォームにアクセスします。

収益性分析固定情報 - 収益性分析固定情報の入力/変更 i ? M

OK(O) 取消(L) ツール(T)

**コスト・オブジェクト・フラグ**

コスト・オブジェクトをアクティブにする

**ABC(活動原価計算)**

ABC有効

**繰返しコスト割当て**

最大繰返しきり値

「収益性分析固定情報の入力/変更」フォーム

## 製造原価明細の有効化

「事業所固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 事業所固定情報

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

事業所	75	Distribution Center
住所No.	75	Cascades, Ltd.
略式品目番号の識別記号	/	<input checked="" type="checkbox"/> バックオーダー許可
第2品目番号の識別記号		<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計インターフェイス
第3品目番号の識別記号	*	<input type="checkbox"/> 総勘定元帳への数量書込み
顧客仕入先の識別記号	#	<input type="checkbox"/> 保管場所制御
セグメント品目の識別記号	@	<input type="checkbox"/> 倉庫管理制御
セグメント区切り文字		<input type="checkbox"/> 品質制御
引当方法	1	<input type="checkbox"/> 製造原価明細の使用
指定引当(日数)	999	<input type="checkbox"/> 他社デポ
年間日数	260	<input checked="" type="checkbox"/> 在庫ロットの作成
顧客相互参照コード	C	<input type="checkbox"/> 保管場所セグメント制御
仕入先相互参照コード	VN	
購買原価方式	02	購買オーダー発注費用 <input type="text" value="12.00"/>
原価計算方法(売上/在庫)	02	在庫維持費(%) <input type="text" value=".100"/>
現行在庫期間	6	仕訳摘要の指定 <input type="text" value="1"/>
部品生産国コード		承認経路コード <input type="text" value="DEMO"/>

「事業所固定情報」フォーム

**事業所**

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

**製品原価明細の使用**

JD Edwards EnterpriseOne 流通管理システムの製品原価明細を有効にするには、このチェックボックスを選択します。このチェックボックスの選択を解除すると、明細原価ではなく合計原価が使用されます。

---

## コスト・オブジェクト編集コードの設定

この項では、コスト・オブジェクト編集コードの設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト編集コードの設定
- ビジネスユニット別勘定科目の処理オプションの設定

### コスト・オブジェクト編集コードの設定について

コスト・オブジェクト編集コードを設定する場合、勘定科目表を編集するための規則を定義できます。勘定科目表は総勘定元帳の勘定科目の構造を示し、勘定科目タイプ、勘定科目名、勘定科目コードが一覧表示されます。一般的に、勘定科目表の表記順序は、資産勘定、負債勘定、資本勘定、収益勘定、費用勘定になります。

勘定科目表を作成する場合、勘定科目セグメントの長さを定義する必要があります。これらのセグメントは、ビジネスユニット.主科目.補助科目です。JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析システムでは、特定の勘定科目のコスト・オブジェクト・フィールドに編集コードを指定することもできます。コスト・オブジェクト編集コードでは、オブジェクトの入力が必須かどうか、値の編集を行うかどうか、コスト・オブジェクトに特定の値を使用するかどうかを定義します。

製品番号またはカタログ番号を使用する場合は、それぞれの番号に対応するコスト・オブジェクト・タイプを設定します。次に、コスト・オブジェクト編集コードを設定して“指定”を選択し、コスト・オブジェクト・タイプを入力します。前述の設定を行うことにより、コスト・オブジェクト・タイプと勘定科目が関連付けられます。

---

**注意:** 勘定科目表でコスト・オブジェクト編集コードを改訂すると、主科目と補助科目を他のビジネスユニットにコピーできます。勘定科目表にコスト・オブジェクト編集コードを設定して改訂すると、新しいビジネスユニットに新規コスト・オブジェクト・フィールドの編集コード・フラグがコピーされます。

---

## 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、コスト・オブジェクト・トラッキング機能を有効にして、補足のフォームにアクセスできるようにします。

## コスト・オブジェクト編集コードの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目マスター - 管理会計	W09015A	「組織と勘定科目の設定」(G09411)、「勘定科目の検討と改訂」  「勘定科目の処理」フォームで行を選択し、「ロー」メニューの「ACA」を選択します。	コスト・オブジェクト編集コードを設定します。

## コスト・オブジェクト編集コードの設定

「勘定科目マスター - 管理会計」フォームにアクセスします。

勘定科目の検討と改訂 - 勘定科目マスター - 管理会計

OK(O) 取消(L) ツール(T)

勘定科目コード: 1.1001 Current Assets

	編集なし	入力不可	入力必須	指定
コスト・オブジェクト編集コード 1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
コスト・オブジェクト編集コード 2	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コスト・オブジェクト編集コード 3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
コスト・オブジェクト編集コード 4	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
品目編集コード 1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>

「勘定科目マスター - 管理会計」フォーム

コスト・オブジェクト編集コードを設定するには、次の手順に従います。

1. それぞれのコスト・オブジェクト編集コードに対して、次の中からオプションを選択します。

- 編集なし
- 入力不可
- 入力必須
- 指定 (特定のコスト・オブジェクト・タイプを指定する場合)

品目編集コードで「入力必須」オプションを選択すると、略式品目番号が使用されます。第2品目番号または第3品目番号(製品番号またはカタログ番号)を使用する場合は、品目編集コードを設定せず、別のコスト・オブジェクトを定義します。

2. 「OK」をクリックします。

## ビジネスユニット別勘定科目 (P0901) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### セキュリティ

主科目、補助科目、カテゴリ・コード21、カテゴリ・コード22、カテゴリ・コード23 法務会計情報を含むフィールドの値を保護するには、対応するフィールドに「1」を入力します。

## コスト・オブジェクト・タイプの設定

この項では、コスト・オブジェクト・タイプの設定の概要と設定方法について説明します。

### コスト・オブジェクト・タイプの設定について

コスト・オブジェクトは、コストや収益を計算したりトラッキングしたりする最下位のレベルです。コスト・オブジェクトのトラッキングでは、毎日の取引をその元となるコスト・オブジェクトに割り当てることができます。たとえば、顧客、品目番号、受注オーダー番号別に情報をトラッキングする場合、それらの各情報がコスト・オブジェクト・タイプになります。

伝票や請求書の仕訳などのコスト・オブジェクト情報に対応する取引を検証するには、編集ルールを設定する必要があります。編集ルールによって、住所録マスター (F0101) などのマスター・テーブルまたはユーザー定義コード・テーブルの情報と自動的に照合されます。たとえば、顧客をトラッキングする場合は、コスト・オブジェクト・タイプ「C」を設定して、コスト・オブジェクト・フィールドの情報と住所録マスターを照合するための編集ルールを定義し、検索タイプ情報に特定の値が設定されていることを確認します。情報をフォーマットする場合も編集ルールを使用できます。

ユーザー定義のコスト・オブジェクト・タイプを設定するには、このプログラムを使用します。新しく設定したコスト・オブジェクト・タイプは、手入力による仕訳入力、伝票、および請求書で使用できます。コスト・オブジェクト・タイプは、任意勘定規則およびドライバ定義を設定する際にも使用できます。「コスト・オブジェクトの入力」フォーム上のフィールドは、選択した編集ルールの値によって異なります。

### コスト・オブジェクト・タイプの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コスト・オブジェクトの入力	W1620B	「システム・セットアップ」 (G1641)、「コスト・オブジェクト・タイプ」  「コスト・オブジェクト・タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	テーブルに対する検証が行われるコスト・オブジェクト・タイプを設定します。  ユーザー定義コードに対する検証が行われるコスト・オブジェクト・タイプを設定します。  編集を行わないコスト・オブジェクト・タイプを設定します。

### コスト・オブジェクト・タイプの設定

「コスト・オブジェクトの入力」フォームにアクセスします。

「コスト・オブジェクトの入力」フォーム

**注意:** 編集なしのコスト・オブジェクト・タイプを設定するには、「コスト・オブジェクト・タイプ」、「記述」、「編集ルール」の各フィールドのみを指定します。

**コスト・オブジェクト・タイプ** コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル (F1620) に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム (P1620) を使用して追加または変更できます。

**編集ルール** コスト・オブジェクトの編集方法およびフォーマット方法を指定するユーザー定義コード (16/ER) を入力します。値は次のとおりです。

E: コスト・オブジェクト・フィールドに入力した値が「コスト・オブジェクトの入力」フォームの「基準テーブル」フィールドで指定したテーブルにあるかどうかを検証します。

T: コスト・オブジェクト・フィールドに入力した値が「コスト・オブジェクトの入力」フォームの「基準テーブル」フィールドで指定したテーブルにあるかどうかを検証します。次に、「コスト・オブジェクトの入力」フォームの「データ項目」フィールドに指定された値とユーザーが入力した値を比較します。

U: 指定したユーザー定義コードに対する検証が行われます。

A: 検証しません (左揃え文字フィールド)。

R: 検証しません (右揃え文字フィールド)。

N: 検証しません (ゼロ詰め数字フィールド)。

C: 検証しません (ブランク詰め文字フィールド)。

### 検証するテーブル/データ項目

このグループ・ボックスは、テーブルに対して検証を行うコスト・オブジェクト・タイプの設定に使用します。

<b>基準テーブル</b>	<p>ドライバ定義プログラム (P1630) でドライバを追加する際に、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析で使用するテーブルを入力します。このテーブルによって、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析によるドライバ計算時にどのフィールドを使用するかなど、ドライバ計算の基準が決まります。</p> <p>自動ドライバ計算の基準を指定します。</p> <p>テーブル・オプションを有効にするには、「フォーム」メニューの「機能別テーブル」を選択します。</p>
<b>データ項目</b>	<p>情報単位を識別および定義するコードを入力します。最大8文字の英数字コードで、空白および特殊文字(%、&amp;、+など)は使用できません。新しいデータ項目を作成するには、システム・コード55から59までを使用します。エイリアスは変更できません。</p> <p>基準テーブルのデータ項目を選択するには、「フォーム」メニューの「テーブル別データ項目」を選択します。</p>
<b>比較演算子</b>	<p>表示する差異の範囲を示すユーザー定義コード(00/VA)を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>EQ: 等しい</p> <p>LT: より小さい</p> <p>LE: 以下</p> <p>GT: より大きい</p> <p>GE: 以上</p> <p>NE: 等しくない</p> <p>NL: より小さくない</p> <p>NG: より大きくない</p> <p>CT: 含む (Open Query File機能の項目選択でのみ使用可)</p> <p>CU: 入力データがすべて大文字に変換される以外はCTと同じ</p>
<b>データ項目の値</b>	<p>基準テーブルの項目と比較する値を入力します。このフィールドは、編集ルール「T」を使用している場合にものみ入力します。</p>
<b>検証するユーザー定義コード</b>	<p>このグループ・ボックスは、ユーザー定義コードに対して検証を行うコスト・オブジェクト・タイプの設定に使用します。</p>
<b>システム・コード</b>	<p>システムを識別するユーザー定義コード(98/SY)を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>01: JD Edwards EnterpriseOne住所録</p> <p>03B: JD Edwards EnterpriseOne売掛管理</p> <p>04: JD Edwards EnterpriseOne買掛管理</p> <p>09: JD Edwards EnterpriseOne一般会計</p> <p>11: JD Edwards EnterpriseOne多通貨処理</p>
<b>ユーザー定義コード</b>	<p>ユーザー定義コードが格納されているテーブルを識別するコードを入力します。このテーブルは、UDCタイプと呼ばれることもあります。</p>

## 原価要素別AAIの設定

この項では、原価要素別AAIの設定と製造原価明細作成のためのAAIの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 原価要素別AAIの設定
- 流通AAIの処理オプションの設定

### 原価要素別AAIの設定について

AAI(自動仕訳)は、日次業務、勘定科目表、財務レポートをリンクさせます。AAIは、自動作成する仕訳の勘定科目を決定する際に使用されます。たとえば、受注管理システムでは、ある品目を顧客に販売する場合の在庫、売上原価(COGS)、収益の各取引の記録方法をAAIで指定します。AAIは、流通/製造AAI値テーブル(F4095)に保存されます。

特定の勘定科目へ転記を行うプログラムでは、AAIを使用して仕訳が作成されます。AAIは会社、取引、伝票タイプ、および元帳クラスの組合せごとに設定できます。製造システムのAAIの場合も原価タイプが使用されます。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムでは、資材費、労務費、間接費などの原価要素別に棚卸資産勘定と売上原価勘定を区分できます。

**注意:** 流通システムで製造原価明細情報を利用するには、棚卸資産と売上に対する売上原価の計算に標準原価計算方法(07)を使用する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムでは、すべてのタイプのAAI項目を使用しますが、ここでは流通および製造システム内でJD Edwards EnterpriseOne収益性分析が使用するAAI項目について説明します。

AAI項目は、会社番号、伝票タイプ、および元帳クラス・コードの組合せごとに定義できます。仕訳を作成する前に、一連の検索ステップに従って適切なAAI規則が検索されます。AAI規則が見つからない場合、指定した会社、伝票タイプ、および元帳クラス・コードの組合せに該当する規則番号が見つからないという内容のエラー・メッセージが表示されます。

AAI規則は、次のステップに従って検索されます。

- 会社番号が「00001」、伝票タイプが「SO」、元帳クラス・コードが「IN20」の場合、最初に会社番号「00001」と元帳クラス・コード「IN20」の組合せに該当する規則が検索されます。
- 規則が見つからない場合、会社番号「00001」と元帳クラス・コード「\*\*\*\*」の組合せに該当する規則が検索されます。
- 規則が見つからない場合、会社番号「00000」と元帳クラス・コード「IN20」の組合せに該当する規則が検索されます。
- 規則が見つからない場合、会社番号「00000」と元帳クラス・コード「\*\*\*\*」の組合せに該当する規則が検索されます。
- それでも規則が見つからない場合は、仕訳は作成されず、AAI規則が定義されていないため無効であるという内容のエラー・メッセージが表示されます。

在庫インターフェイス規則を使用して元帳クラス・コードを検索することもできます。製造および流通システムで作成された取引では、オーダー行タイプごとの在庫インターフェイス規則を使用します。この規則によって元帳クラス・コードを検索できます。次に、見つかった元帳クラス・コードを使用して、該当するAAI規則を検索します。

在庫インターフェイス規則を検索するには、行タイプ固定情報プログラム(P40205)を使用します。各行タイプには、在庫インターフェイス規則が設定されています。各規則による元帳クラス・コードの検索方法は、次のとおりです。

- 「Y」および「D」の場合は、品目に対する元帳クラス・コードを事業所品目から検索して使用します。
- 「N」の場合は、在庫インターフェイスがないため、元帳クラス・コードを使用しません。
- 「A」の場合は、行タイプ別の品目の購買価格差異に対する元帳クラス・コードを使用します。
- 「B」の場合は、品目の購買価格差異に対する元帳クラス・コードを事業所品目から検索して使用します。

品目の購買時に入荷原価と実際原価に差異がある場合、AAIを使用して仕訳が作成されます。この値が行タイプに使用され、在庫インターフェイス規則には「A」または「B」が指定されます。価格差異が発生した場合に価格差異AAI規則を使用して仕訳を作成するには、該当する行タイプの「伝票照合差異勘定」チェックボックスを選択する必要があります。

## 製造原価明細作成のためのAAIについて

製造原価明細を使用する事業所の仕訳を作成するには、次のAAIのみを使用します。

AAI	説明
4122	貸借対照表上の在庫評価勘定
4124	費用勘定または売上原価勘定
4240	貸方計上する棚卸資産勘定

## 事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、流通AAIの原価タイプ処理オプションが有効になっていることを確認します。

## 原価要素別AAIの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の改訂	W40950D	「在庫管理設定」(G4141)、 「AAI(自動仕訳)」  「AAIの処理」フォームで、 レコードを選択して、「選 択」ボタンをクリックします。	原価要素別AAIを設定 します。

## 原価要素別AAIの設定

「勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

AAI(自動仕訳) - 勘定科目の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

AAIテーブル番号 4122 Inventory

レコード 1 - 10 > < グリッドのカスタマイズ

	会社番号	伝票タイプ	記述	元帳クラス	記述	原価タイプ	事業所	主科目	補助科目
<input checked="" type="radio"/>	00000	IA	在庫調整	IN30	製造完成品		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	IA	在庫調整	IN99	在庫		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	II	在庫出庫	IN30	製造完成品		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	II	在庫出庫	IN99	在庫		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	IM	作業オーダーに請求す...	IN30	製造完成品		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	IM	作業オーダーに請求す...	IN99	在庫		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	IT	在庫移動	IN30	製造完成品		1	1411	
<input type="radio"/>	00000	IT	在庫移動	IN99	在庫		1	1411	
<input type="radio"/>	00001	IA	在庫調整	IN20	製造半組立品		40	1411	
<input type="radio"/>	00001	ID	ブレンド管理への在庫...	****			1	1411	

「勘定科目の改訂」フォーム

### 会社番号

特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードは会社固定情報テーブル(F0010)に設定済で、完全な貸借対照表を備えた財務報告対象組織を指している必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができます。

**注意:** 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。

### 伝票タイプ

取引の発生元と目的を識別するユーザー定義コード(00/DT)を入力します。伝票、請求書、入荷確認書、タイムシートなどの伝票タイプ用に、いくつかのプレフィックスがあらかじめ予約されています。各コードに予約済の伝票タイプのプレフィックスは、次のとおりです。

P: JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理

R: JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

T: JD Edwards EnterpriseOne 時間および給与

I: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理

O: JD Edwards EnterpriseOne 購買オーダー

S: JD Edwards EnterpriseOne 受注オーダー

### 元帳クラス

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定を識別するユーザー定義コード(41/9)を入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(\*\*\*\*)入力してください。

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システム、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システム、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムについては、AAI(自動仕訳)を使用して、自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。

IN20: 直送オーダー

IN60: 転送オーダー

IN80: 在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を一度販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫(借方) xxxxx.xx

売掛在庫販売(貸方) xxxxx.xx

転記カテゴリ: IN80

在庫品目(借方) xxxxx.xx

在庫売上原価(貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

### 原価タイプ

品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。

A1: 購買原材料

B1: 作業工程直接労務費積上げ

B2: 作業工程段取労務費積上げ

C1: 作業工程変動間接費積上げ

C2: 作業工程固定間接費積上げ

Dx: 作業工程外注費積上げ

Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費

通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加間接費)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。

### 補助科目

主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

---

**注意:** 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

---

このフィールドを空白にすると、作業オーダーの原価コード・フィールドに入力した値が使用されます。

## 流通AAI(P40950)の処理オプションの設定

処理オプションの設定により、プログラムとレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト情報

#### AAIテーブル番号

勘定科目情報の順序設定と取得に使用される番号です。

流通AAIテーブルに対して使用可能にする 4122、4124、4134、4136、4220、4240および4310の流通AAIテーブルに対して「原価タイプ」フィールドを使用可能にするには、「1」を入力します。

## 任意勘定科目の設定

この項では、任意勘定科目、任意勘定科目形式の定義規則、および勘定科目情報の概要と、任意勘定科目の設定方法について説明します。

### 任意勘定科目について

任意勘定科目では、収益性分析用の補助元帳および補助元帳タイプの入力に使用するコスト・オブジェクト情報の取得方法を定義します。任意勘定科目形式を使用すると、どのフィールドの値をどの補助元帳に記入するかを指定する規則を定義できます。たとえば、顧客番号、販売区域、製品カテゴリ、および製品からなる形式を使用できます。

JD Edwards EnterpriseOneの標準の勘定科目は、次のセグメントから構成されています。

- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳
- コスト・オブジェクト1
- コスト・オブジェクト2
- コスト・オブジェクト3
- コスト・オブジェクト4
- 品目

任意形式の勘定科目の場合も同様のセグメントを使用します。セグメントの長さは90文字以下である必要があります。各セグメントの文字数には、次の制限があります。

任意勘定科目形式のセグメント	制限文字数
ビジネスユニット	12文字
主科目	6文字
補助科目	8文字
補助元帳	8文字
コスト・オブジェクト1から4	12文字
品目	8文字

任意勘定科目コードを作成するには、前述のセグメントの1つ以上を設定する必要があります。セグメントを設定するには、各セグメントに1つ以上の情報を関連付ける必要があります。セグメントの各情報はフィールドと関連付けられ、「任意売上勘定科目の改訂」フォームの「ロー」メニューをクリックして表示されるテーブルのいずれかに保存されます。コスト・オブジェクト1から4の場合、「コスト・タイプ」フィールドは入力必須です。このフィールドに入力する値は、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)で定義します。さらに、任意勘定規則に関連付けるコスト・オブジェクトを「コスト・オブジェクト」カラムに指定する必要があります。

セグメントと各情報を関連付けるには、あらかじめ定義されているテーブルの各フィールドに対応するデータ項目名を確認しておく必要があります。

主科目セグメントは定義できません。主科目の定義はAAI(自動仕訳)で行います。

補助元帳はオンラインでは表示されませんが、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。

売上更新プログラム(R42800)の処理オプションで、任意売上勘定科目を使用できるように設定します。

## 任意勘定科目形式の定義規則について

各コスト・オブジェクトに定義できる補助元帳タイプは1つのみです。任意勘定科目形式を定義する場合は、任意勘定科目コードについて次の規則を考慮してください。

- 各セグメントに関連付けられた情報は、JD Edwards EnterpriseOneのフィールドに対応します。これらのフィールドはすべてユーザー定義コード・テーブルにハードコードされています。このユーザー定義コード・テーブルには、アプリケーション別使用可能機能プログラム(P1690)からアクセスできます。このプログラムでは、任意勘定規則に使用できるテーブルとフィールドの両方を参照できます。これらのテーブルに存在しないフィールドを使用するには、プログラムをカスタマイズする必要があります。
- 任意勘定規則は、この規則の使用が有効になっているアプリケーションに対してのみ定義できます。これらのアプリケーションは、コスト・オブジェクト規則設定方法プログラム(P1691)で参照できます。
- AAIで使用する勘定科目の検索では、任意売上勘定科目設定テーブル(F4096)が次の手順で検索されます。
- 特定のAAIと会社に対して定義された任意勘定科目コードがチェックされます。
- 特定のAAIおよび特定の会社に勘定科目が定義されていない場合には、特定のAAIと会社00000に対して定義された勘定科目がチェックされます。

## 勘定科目情報について

総勘定元帳へ転記する必要のある取引を処理する際、該当する更新プログラムの処理オプションが設定されている場合にのみ、任意勘定科目情報が検索されます。

## 任意勘定科目の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
任意売上勘定科目の改訂	W40296C	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「任意売上勘定科目の設定」 「任意売上勘定科目の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	任意勘定科目を設定します。

## 任意勘定科目の設定

「任意売上勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

任意勘定規則を品目補助元帳に関連付けるには、「品目」カラムに「X」を入力します。

### AAIテーブル番号

勘定科目情報の順序指定と取得に使用する番号を入力します。

### 伝票タイプ

伝票のタイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめJD Edwards EnterpriseOneによって予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

次の伝票タイプはJD Edwards EnterpriseOneで事前定義されているため、変更しないようにしてください。

P: JD Edwards EnterpriseOne買掛管理

R: JD Edwards EnterpriseOne売掛管理

T: JD Edwards EnterpriseOne Payroll

I: JD Edwards EnterpriseOne在庫管理

O: JD Edwards EnterpriseOne調達管理

J: JD Edwards EnterpriseOne一般会計/共有利息請求

O: JD Edwards EnterpriseOne受注処理

### テーブルID

テーブルのIDを入力します。たとえば、勘定科目マスターは「F0901」になります。テーブルIDはすべて「F」で始まります。

セグメントに関連付けるテーブルIDを入力します。

### コスト・オブジェクト

イベント・ポイントの処理フラグ04です。

「コスト・オブジェクト」フィールドの有効値は、1、2、3および4です。この値は、特定のセグメントに入力されるコスト・オブジェクトを示しています。

### コスト・タイプ

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して追加または変更できます。

コスト・オブジェクトとコスト・オブジェクト・タイプを入力して、任意勘定セグメントを標準フォーマット・セグメントに関連付けます。

### データ項目

セグメントに関連付けるデータ項目を入力します。

### データ・タイプ

任意売上勘定科目の設定で住所の識別に使用されるコードを入力します。値は次のとおりです。

1: 請求先

2: 出荷先

3: 親住所

このコードは「データ項目」フィールド(SFIT)とともに使用されます。データ項目が住所録マスターの項目である場合、「データ・タイプ」フィールドは必須になります。

特定のプログラムで任意勘定規則を有効にするには、この規則に対応する処理オプションに値を入力します。任意勘定科目が有効になっているプログラムの一覧は、コスト・オブジェクト規則設定方法プログラム(P1691)で表示できます。

## コスト・アナライザ・ビューの設定

この項では、コスト・アナライザ・ビューの設定の概要と設定方法について説明します。

### コスト・アナライザ・ビューの設定について

コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する情報を定義すると、総勘定元帳の取引を集計できます。コスト・アナライザ・ビューでは、ビュー番号、会計年度、期間パターン・コードを組み合わせて、固有のビューを定義できます。たとえば、会計年度が2008年度の顧客ごとの収益性を判断するためにビューを定義する場合、会計年度「2008」、ビュー番号「1」、会計期間パターン・コード「R」を設定すると、これと同じ会計年度、ビュー番号、会計期間パターン・コードで2つ目のビューは定義できません。

コスト・アナライザ・ビューには、次の規則が適用されます。

- 各会計年度に最大10までのビューが定義可能
- ビュー番号は1から10まで割当可能
- ビューの定義の重複(同じ会計年度に同一のビュー番号がある)は不可
- 各ビューに対して有効な期間パターン・コードの設定が必要

特定のビューと会計年度に対して取引を転記した後にそのビューの定義を変更する場合は、転記した情報を削除して再度作成する必要があります。

### コスト・アナライザ・ビューの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コスト・アナライザ・ビューの入力	W1603A	「コスト・アナライザ」(G1612)、「コスト・アナライザ・ビューの設定」 「コスト・アナライザ・ビューの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	コスト・アナライザ・ビューを設定します。

### コスト・アナライザ・ビューの設定

「コスト・アナライザ・ビューの入力」フォームにアクセスします。

ビューNo.

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10までの番号で入力します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。

たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911のレコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

### 会計年度

会計年度を示す数値を入力します。通常、このフィールドに数値を入力することも、ブランクにして「会社の設定」フォームで定義した現行会計年度を使用することもできます。

会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。

### 会計期間パターン、元帳タイプの集計、ビジネスユニットの集計、主科目の集計、補助科目の集計、補助元帳/タイプの集計、コストオブジェクト1/タイプの集計、品目No.の集計

期間パターンを識別するためのコードを入力します。15のコードのいずれか1つを入力します。4-4-5(13)期間会計用の特殊コード(文字AからN)、または、業務環境に固有の期間パターンを他に設定する必要があります。デフォルト・コードの「R」は、通常のカレンダ・パターンを示しています。

**注意:** これらのチェックボックスの設定により、ビューの明細データ・レベルを設定できます。チェックボックスを選択すると、そのチェックボックスに対応する明細データはビューに組み込まれません。また、選択したチェックボックスに関連する取引も、そのビューから除外されます。

チェックボックスの設定を変更するたびに、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に新しいレコードが作成されます。チェックボックスを設定しない場合は、取引明細テーブル(F0911)から取り込まれる取引ごとに1つの残高レコードがコスト・アナライザ残高テーブルに作成されます。

## 収益性分析のユーザー定義コードの設定

この項では、収益性分析のユーザー定義コードおよび原価プールの概要と、ユーザー定義コードの処理オプションの設定方法について説明します。

### 収益性分析のユーザー定義コードについて

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムの機能を使用する前に、収益性分析に必要な情報を定義する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムでは、多くのフィールドでユーザー定義コードが使用されています。ユーザー定義コードを業務に合わせて設定することにより、各フィールドをカスタマイズできます。

ユーザー定義コード・プログラム(P0004A)を使用すると、様々な情報に対するコードの定義テーブルを作成および管理できます。ユーザー定義コードは、システムとコード・タイプで分類されます。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムでは、次のユーザー定義コードを使用します。

コード・タイプ	説明
ドライバ・カテゴリ・コード	<p>処理の原因またはコストの割当方法を識別するには、ドライバを設定します。ドライバにカテゴリ・コードを設定するには、次のユーザー定義コード・テーブルを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 16/01</li> <li>• 16/02</li> <li>• 16/03</li> <li>• 16/04</li> <li>• 16/05</li> </ul>
活動属性	<p>活動基準原価計算を使用する場合は、活動を設定する必要があります。活動とは、組織内で実行された処理をグループ化したものです。活動に属性を定義するには、次のユーザー定義コード・テーブルを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 16/06</li> <li>• 16/07</li> <li>• 16/08</li> <li>• 16/09</li> <li>• 16/10</li> </ul>
活動カテゴリ・コード	<p>活動基準原価計算を使用する場合は、活動を設定する必要があります。活動とは、組織内で実行された処理をグループ化したものです。カテゴリ・コード別に活動を分類するには、次のユーザー定義コード・テーブルを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 16/11</li> <li>• 16/12</li> <li>• 16/13</li> <li>• 16/14</li> <li>• 16/15</li> </ul>
原価プール (16/CP)	<p>共通のドライバを使用する原価要素のグループを識別するには、原価プールを設定します。</p>
コスト・オブジェクト・タイプ (00/ST)	<p>コスト・オブジェクトは、収益とコストを計算またはトラッキングする最下位レベルです。収益性分析タイプを識別するには、コスト・オブジェクトを設定します。</p>
編集ルール (16/ER)	<p>コスト・オブジェクトの入力時に、このテーブルの値に基づいてコスト・オブジェクトの編集方法とフォーマット方法を特定する規則を識別します。</p> <p><b>重要:</b> このユーザー定義コード・テーブルの値は、システムであらかじめ定義されています。これらの値を変更すると、エラーが発生する可能性があります。</p>

コード・タイプ	説明
コスト・オブジェクト規則設定方法 (16/SM)	コスト・オブジェクト編集ルールの入力時に、コスト・オブジェクトの編集方法とフォーマット方法を指定します。  <b>重要:</b> このユーザー定義コード・テーブルの値は、システムであらかじめ定義されています。これらの値を変更すると、エラーが発生する可能性があります。
収益性分析方法 (16/TF)	ユーザー定義コード(16/TF)、およびアプリケーション別使用可能機能プログラムで使用可能なテーブルに対して、機能タイプを設定します。  <b>重要:</b> このユーザー定義コード・テーブルの値は、システムであらかじめ定義されています。これらの値を変更すると、エラーが発生する可能性があります。
ドライバ計算方法 (16/CM)	ドライバの設定時に、コストを活動に再割当する方法を定義します。このユーザー定義コード・テーブルにより、ドライバの計算を自動と手動のどちらで行うかを指定します。  <b>重要:</b> このユーザー定義コード・テーブルの値は、システムであらかじめ定義されています。これらの値を変更すると、エラーが発生する可能性があります。
ドライバ結果タイプ (16/RT)	ドライバの計算方法の設定時に、このテーブルを使用して、取引件数や金額などのボリューム・タイプを指定します。  <b>重要:</b> このユーザー定義コード・テーブルの値は、システムであらかじめ定義されています。これらの値を変更すると、エラーが発生する可能性があります。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide、ユーザー定義コードに関する項

## 原価プールについて

活動およびドライバ計算に対するユーザー定義コードの他に、原価プールを設定できます。原価プールは、原価要素をグループ化したものです。レートを設定する場合、ドライバまたは活動を1つの原価プールに割り当てることができます。たとえば、賃金給与、超過勤務手当、福利厚生費などの従業員の活動に付随して発生する費用を集計して、従業員経費という原価プールを作成できます。この場合、各活動に設定する作業時間をドライバとすることができます。

必要に応じて次の設定も可能です。

- 勘定科目を原価割当定義のデータ・ソースとして指定できます。  
この場合、すべての勘定科目が共通のドライバを持つ必要があります。
- 勘定科目カテゴリ・コードを使用して、同じ原価プールに関連付けられている勘定科目をリンクできます。  
原価割当の定義では、配賦元定義がカテゴリ・コード・グループ、つまり原価プールとなります。たとえば、従業員経費(PE)や建物構築費(BL)などの勘定科目カテゴリ・コード・グループを設定できます。勘定科目マスター(F0901)で関連する勘定科目にカテゴリ・コードを割り当てることで、勘定科目を異なる原価プールでグループ化できます。

- 原価プールに特定の勘定科目を作成し、原価割当を使用して、残高を当初の勘定科目から、原価プール費用を集計するために設定した勘定科目に振り替えることができます。

## ユーザー定義コード(P0004A)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. システム・コードを入力してください。 JD Edwards EnterpriseOneシステムを識別するユーザー定義コード(98/SY)を入力します。
2. レコード・タイプを入力してください。 デフォルトのユーザー定義コード(UDC)を指定します。「システム・コードを入力してください。」処理オプションで入力した製品コードに該当するユーザー定義コードのみを入力します。

## 第 3 章

# 管理会計と活動基準原価計算について

この章では、管理会計と活動基準原価計算について説明します。

---

## 管理会計と活動基準原価計算

この項では、管理会計と活動基準原価計算の概要と次の項目について説明します。

- 管理会計と活動基準原価計算
- 活動基準原価計算のデータ・モデルの概要
- 意思決定プロセス

## 管理会計と活動基準原価計算

管理会計では、企業組織が業務の計画および統制に使用する情報が処理されます。管理会計では、マーケティング、総務、製造などの組織レベルではなく、顧客および製品などのプロフィット・センターレベルで分析を行います。

活動基準原価計算では、複数の部門および企業内部の情報と原価を分析して、ビジネス・プロセスを改善できます。活動基準原価計算を使用することで、活動、プロセス、コスト・オブジェクトを識別することが可能になり、原因結果分析を使用してコスト・オブジェクト別の合計原価と単位原価を計算できます。

この10年間のビジネス慣習の著しい進展に比べ、原価計算の手法は従来の原価計算の枠から抜け出すことはありませんでした。競争が激しく、また変化の著しい今日の経営環境においては、企業は従来の原価計算システムによる分析手法から抜け出し、より詳細な原価構造を分析する機能を必要としています。

すべての企業が、費用(無駄)の削減または売上の増大を通して最大の利益を出すことを追求しています。多くの場合、費用増大の原因は複数部門にまたがるプロセスにあります。こうした無駄の原因を特定することは容易ではありませんが、必須事項です。

収益を増大させるためには、収益性の最も高い顧客を見極めることが重要であり、そのためには顧客ごとの損益情報を収集することが必要です。製造業では、ジャスト・イン・タイム、オートメーション化、品質管理、アウトソーシングなどの手法を導入して、資材費および労務費といった直接費の削減を達成してきましたが、間接費の増大はその犠牲にせざるを得ませんでした。

このような環境の変化は、複数部門にまたがるプロセスの原価に多大な影響を与えました。市場競争とグローバル化により、ビジネスの経営と調整はさらに複雑になり、その結果、サポート業務も必要になりました。今日のこうした市場の変化により、企業は、顧客収益力には関係なく、企業全体としての売上を増大させるために、直接費や無償サービスよりも、間接費や、部門間のプロセス、顧客収益力に重点を置く必要性が生じています。

## 活動基準原価計算のデータ・モデルの概要

会社200は、自転車と自転車用部品を製造、販売する企業です。この会社は、自転車市場での競争優位性を向上させたいと考えています。売上高は毎年増加していますが、企業全体としての収益力は低下しています。そのため、会社は顧客分析と製品収益性分析に基づいたパフォーマンス向上プロジェクトを開始します。

この会社は、顧客、製品ファミリー、および販売マーケティング・チャネルごとに収益性を分析することで、全体の収益が低下している原因を明らかにすることができると考えています。分析では、次の点に焦点が当たりました。

- 自転車用バッグの調達過程において認識されていないコストを明らかにし、不要なコストの削減と収益効率の増大を図る。
- 顧客、製品ライン、販売マーケティング・チャネルに販売促進費用を割り当て、最も収益性の高い顧客、製品、チャネルに対してマーケティングおよび販売の重点を置くようにする。
- 自転車のフレーム塗装の標準原価を検討する。塗装作業のやりなおしのために、標準原価が適切ではなくなっているようです。そのため、自転車のモデル別にフレーム塗装の再作業を分析し、フレーム塗装の標準原価を改訂したいと考えています。

## 意思決定プロセス

次の例は、意思決定プロセスを示しています。

会社200は、自転車と自転車用部品を製造、販売するのに次のビジネスユニットを使用しています。

- M30(自転車の製造)
- D30(自転車の販売)

会社200は、卸売業者および小売業者に対して製品を販売しています。各顧客に固有の住所録番号を設定し、会社200は流通チャネルに各顧客を割り当てます。多くのチャネルがありますが、会社200では次のチャネルを使用します。

- 卸売り
- 小売り
- 専門店
- 割引

自転車と自転車用部品には、固有の在庫品目番号が設定されています。自転車および自転車用部品には多くの種類がありますが、この会社では3種類の自転車と2種類の自転車用バッグに重点を置いています。自転車の種類は次のとおりです。

- ツーリング
- マウンテン
- 子供用

黒の自転車用バッグには、ロゴを印刷することも、何も印刷しないでおくこともできます。会社が自転車を販売する場合、顧客はロゴなしの黒、標準のロゴ入り、または特注のロゴ入りの中からバッグを選ぶことができます。バッグの種類は次のとおりです。

- 輸入バッグ
- 黒ロゴ入り
- 黒ロゴなし

- 国産バッグ: 黒ロゴなし

製品を計画ファミリー別に分類します。この事例では、次の2種類のファミリー・コードに焦点を当てます。

- 自転車
- 自転車用部品

流通ビジネスユニットD30では、取引開始時の費用に加えて、ロイヤリティと倉庫保管費用が発生します。このビジネスユニットでは、各原価要素をトラッキングするために標準原価(在庫および販売方法7)を採用しています。タイプによって、自転車とバッグには次の原価要素が含まれます。

- 資材費 - 構成タイプA1
- ロイヤリティ - 構成タイプX4
- 倉庫費用 - 構成タイプX6

会社は、調達、製造、販売サイクルにおいて認識されていないコストが存在すると考えています。そのため、仕入先、製品ファミリー、販売チャネルごとの自転車の製造費用および仕入先原価に関連する内部プロセス費用だけでなく、顧客、製品ファミリー、販売チャネルそのものの収益性の分析を考えています。



## 第 4 章

# ドライバの設定

この章では、ドライバの概要、ドライバの設定、および次の方法について説明します。

- 自動ドライバの定義
- 手動ドライバの定義

---

## ドライバについて

ドライバとは、コストや収益に影響を与える活動または資源の需要量を測定する手段です。活動ドライバとは、コスト・オブジェクト別に活動に設定される需要の頻度と効果を測定する手段です。活動ドライバには、顧客からの受注オーダーの合計数などがあります。資源ドライバとは、活動で消費した資源を測定する手段です。資源ドライバには、活動に費やされた時間数などがあります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析には、自動ドライバと手動ドライバの2種類のドライバがあります。自動ドライバは、受注オーダー、購買オーダー、作業オーダーの行数など、システムの既存データから抽出されます。手動ドライバは、自転車の塗装に要する作業時間数や工場の床面積など、各オーダーに関連する数量を手作業で入力します。

たとえば、自転車を製造する会社が、単一色の自転車よりも2色調の自転車の製造原価が高いと判断し、それぞれの自転車の実際原価を分析するとします。この場合、2色調と単一色それぞれの自転車の塗装に要する作業時間数と工場床面積をドライバとして設定できます。これらの資源をドライバとして使用すると、自転車の種類ごとに実際原価を把握できます。

ドライバ定義の設定では、ドライバの数量計算に必要なデータをどのテーブルから取得するかを指定します。ドライバは、ユーザーが定義し、分析する原価のタイプによって異なります。ドライバは、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析の割当ツールにおいて重要な役割を果たします。JD Edwards EnterpriseOneシステムは統合されているため、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理、JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー管理などの他のシステムからもドライバの情報を迅速かつ正確に取得できます。

---

## ドライバの設定について

この項では、ドライバの設定の概要と事前設定について説明します。

### ドライバの設定

自動ドライバの場合、ドライバ定義プログラム(P1630)を使用して、ドライバ定義と計算指示の作成と更新を行います。ドライバ・ボリュームを集計レベルで計算する方法を定義できます。

手動ドライバの場合、ドライバ定義プログラムを使用して、自動ドライバでは取得できないデータを定義して更新します。たとえば、特定の部門での作業時間数や床面積などに対して、手動ドライバを定義できます。

データの更新後に、ドライバ計算を使用してドライバ・ボリュームのコストを自動計算するか、手作業でドライバを入力します。原価の配賦または再割当時に、ドライバによって、活動、プロセス、およびコスト・オブジェクトに対して原価が論理的に再割当されます。

## 事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、ドライバ・ボリュームの改訂プログラム(P1632)の処理オプションで、ドライバ定義のデフォルト設定を自動と手動のどちらにするかを指定します。

## 自動ドライバの定義

自動ドライバでは、受注オーダー明細テーブル(F4211)や作業オーダー・マスター(F4801)などのテーブルのデータを照会し、設定基準に適合するレコード数や、指定したフィールドの値を集計して、ドライバ・ボリュームを自動計算します。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析で使用されるドライバの大部分は自動計算されます。これは、ドライバ計算に必要なデータのほとんどが、これらのテーブルから取得されるためです。

この項では、自動ドライバの定義方法について説明します。

### 自動ドライバの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ドライバの処理	W1630A	「ドライバ」(G1614)、「ドライバの定義」	自動ドライバの検索と削除を行います。
ドライバ定義の入力/変更	W1630B	「ドライバの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	自動ドライバを追加します。

### 自動ドライバの定義

「ドライバ定義の入力/変更」フォームにアクセスします。

**ドライバ・コード** JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のドライバを識別するコードを入力します。

**ドライバ計算方法** このドライバの計算をドライバ計算プログラム(R1632)で自動的に行うか、手作業で入力するかを指定するユーザー定義コード(16/CM)を入力します。値は次のとおりです。

- 1: ドライバは自動的に計算されます。
- 2: ドライバを手動で入力します。

**結果タイプ** 計算されるドライバ・ボリュームの分類に使用するユーザー定義コード(16/RT)を入力します。値は次のとおりです。

- 1: 金額
- 2: 取引件数
- 3: 数量
- 4: パーセント
- 5: 継続時間

---

**注意:** 選択した結果タイプによって、フィールドが追加表示される場合があります。

---

### 基準テーブル

ドライバ定義プログラム (P1630) でドライバを追加する際に、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析で使用するテーブルを入力します。このテーブルによって、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析によるドライバ計算時にどのフィールドを使用するかなど、ドライバ計算の基準が決まります。

自動ドライバ計算の基準を指定します。

テーブル・オプションを有効にするには、「フォーム」メニューの「機能別テーブル」を選択します。

### データ項目

情報単位を識別および定義するコードを入力します。最大8文字の英数字コードで、空白および特殊文字(%、&、+など)は使用できません。新しいデータ項目を作成するには、システム・コード55から59までを使用します。エイリアスは変更できません。

このフィールドには、基準テーブルに存在するデータ項目を入力します。

### 計算機能

収益性分析システムでのドライバの計算方法を定義する演算子を入力します。値は次のとおりです。

カウント: 基準テーブルのレコード数をカウントします。

追加: ドライバ規則で指定したデータ項目の内容を集計します。

### 日付データ項目

データ項目の名前を入力します。ドライバ計算では、このフィールドに日付を表すデータ項目を入力する必要があります。

### 関連テーブル1

テーブル名を入力します。ドライバ計算では、コスト・オブジェクトの内容の定義に使用するテーブル名になります。

---

**注意:** 関連テーブルが「計算の詳細」タブで指定した基準テーブルと同じ場合は、このフィールドを空白にします。関連テーブルが住所録マスター (F0101) の場合、住所録のデータ項目を入力します。

---

### フィールド1

データ項目の汎用名を入力します。ドライバ計算では、このフィールドはコスト・オブジェクト・フィールドにロードされる値になります。

### タイプ1

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル (F1620) に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム (P1620) を使用して追加または変更できます。

## 手動ドライバの定義

手動ドライバを計算するには、ドライバ計算ごとに固定情報と変数データを手入力する必要があります。手動ドライバでは、システム内のデータベース・テーブルにない情報を入力して計算を行います。たとえば、資源ドライバを部署別の床面積とした場合、その値を入力する必要があります。

この項では、手動ドライバの概要と定義方法について説明します。

### 手動ドライバの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ドライバ定義の入力/変更	W1630B	「ドライバ」(G1614)、「ドライバの定義」 「ドライバの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	手動ドライバを定義します。

### 手動ドライバの定義

「ドライバ定義の入力/変更」フォームにアクセスします。

手動ドライバを定義するには、次の手順に従います。

1. 「ドライバ定義の入力/変更」フォームで、「ドライバ・コード」、「記述」、「ドライバ計算方法」、「結果タイプ」の各フィールドに値を入力します。  
計算方法は“手作業”を選択します。  
選択した結果タイプによって、フィールドが追加表示される場合があります。  
計算の詳細は入力できません。
2. 「コスト・オブジェクト」タブをクリックし、「品目」チェックボックスおよび「活動」チェックボックスの選択/選択解除を設定し、「補助元帳タイプ」フィールドおよび「補助元帳」フィールドに値を入力して、集計レベルを指定します。
3. 「タイプ1」、「タイプ2」、「タイプ3」、「タイプ4」の各フィールドに値を入力して集計レベルを指定します(省略可)。
4. 「カテゴリ・コード」タブをクリックし、「値1」、「値2」、「値3」、「値4」、「値5」の各フィールドに値を入力して、カテゴリ・コードを指定します。
5. 「OK」をクリックします。

## 第 5 章

# 活動の設定

この章では、活動の概要と設定方法について説明します。

---

## 活動の設定

この項では、活動の設定の概要と、次の方法について説明します。

- 活動グループの定義
- グループへの活動の割当
- ABCワークベンチの処理オプションの設定

### 活動の設定について

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムで活動基準原価計算を実行する場合は、活動を設定する必要があります。活動とは、組織内で実行される処理をグループ化したものです。活動の特徴は、次のとおりです。

- 通常、プロセスの一部または成果物である。
- 資源を消費する。
- 付加価値活動や非付加価値活動など、ユーザー定義の属性別に細分化できる。
- 通常、製品関連と顧客関連の2つのカテゴリに分類される。
- プロセスと同等の場合もある。

---

**注意:** 階層型のプロセスを作成するには、活動またはサブプロセスをグループに関連付けます。この場合、最初に活動とサブプロセスを親グループに割り当てます。活動とグループは、同じ方法で設定できます。次に、属性、カテゴリ・コード、ドライバ・コードを活動またはグループのいずれかに割り当てます。

---

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、収益性分析固定情報の活動基準原価計算オプションが有効になっていることを確認します。

## 活動の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
活動の入力/変更	W1640B	「活動基準原価計算」(G1616)、「ABCワークベンチ」 「活動原価計算ワークベンチの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	活動グループを定義します。 活動をグループに割り当てます。

## 活動グループの定義

「活動の入力/変更」フォームにアクセスします。

活動グループを定義するには、次の手順に従います。

1. 「活動の入力/変更」フォームで、「活動コード」、「記述」、「活動レベル・コード」の各フィールドに値を入力します。
2. 活動グループを指定するには、「グループ」オプションを選択します。
3. 「ドライバ・コード」フィールドに値を入力して、このレベルで取得するコスト情報を指定します。
4. 「活動属性1」、「活動属性2」、「活動属性3」、「活動属性4」、「活動属性5」の各フィールドに値を入力して、活動グループの属性を指定します。
5. 「カテゴリ・コード」タブをクリックし、「カテゴリ・コード1」、「カテゴリ・コード2」、「カテゴリ・コード3」、「カテゴリ・コード4」、「カテゴリ・コード5」の各フィールドに値を入力して、活動グループのカテゴリ・コードを指定します。
6. 「OK」をクリックします。

## グループへの活動の割当

「活動の入力/変更」フォームにアクセスします。

グループに活動を割り当てるには、次の手順に従います。

1. 「活動の入力/変更」フォームで、「活動コード」、「記述」、「活動レベル・コード」の各フィールドに値を入力します。
2. この処理を活動として指定するには、「活動」オプションを選択します。
3. 「親グループ」フィールドに値を入力して、この活動を活動グループに割り当てます。  
親グループの番号に基づいて、活動レベル・コードが割り当てられます。
4. 「ドライバ・コード」フィールドに値を入力して、ドライバを指定します。
5. 「活動属性1」、「活動属性2」、「活動属性3」、「活動属性4」、「活動属性5」の各フィールドに値を入力して、活動属性を指定します。
6. 「カテゴリ・コード」タブをクリックし、「カテゴリ・コード1」、「カテゴリ・コード2」、「カテゴリ・コード3」、「カテゴリ・コード4」、「カテゴリ・コード5」の各フィールドに値を入力して、カテゴリ・コードを指定します。
7. 「OK」をクリックします。

## ABCワークベンチ(P1640)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルトオプション

### 1. 開始レベル

ABCワークベンチ・プログラムで表示する最上位の活動レベル・コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、レベル1以下の活動が表示されます。

## 処理

### 1. 入力時の自動検索

フォームにデータを自動的にロードするかどうかを指定します。

この機能は、取り込むレコードが少ない場合にのみ使用してください。レコードが多いとシステムのパフォーマンスが低下する可能性があります。この処理オプションを空白にすると、「活動原価計算ワークベンチの処理」フォームのデータを手動で検索する必要があります。値は次のとおりです。

空白: 手動検索

1: 自動検索



## 第 6 章

# コスト・オブジェクトのトラッキングについて

この章では、コスト・オブジェクトのトラッキングの概要と次の方法について説明します。

- プロジェクト予算の計算および管理
- コスト・オブジェクトおよび構成品別の購買価格差異のトラッキング
- 運賃の管理

---

## コスト・オブジェクトのトラッキング

コスト・オブジェクトのトラッキングはJD Edwards EnterpriseOne収益性分析(ACA)で最も重要な機能です。コストが詳細に監視されていないと、管理会計や活動基準原価計算に必要な情報を取得できません。特定の顧客、製品、品目番号、その他の条件に該当するすべての取引には、適切なコスト・オブジェクト値を設定する必要があります。

コスト・オブジェクトのトラッキングを行うには、収益性分析固定情報でコスト・オブジェクトを有効にします。コスト・オブジェクトを有効にすると、収益性分析システムで使用できる5種類のコスト・オブジェクト用のフィールドが表示され、取引の入力時にコスト・オブジェクトも入力できるようになります。また、コスト・オブジェクト編集コードもコスト・オブジェクトのトラッキングにおいて重要です。コスト・オブジェクト編集コードが正しく設定されていないと、出力データは信頼性の低いものになります。

たとえば、ABC社が個別の製品ラインについてその収益性を検討すると仮定します。収益性分析システムを使用すると、各製品ラインにコスト・オブジェクトを設定し、製品ごとのコストと収益をトラッキングできます。また、倉庫床面積などのビジネス・ドライバに基づいて間接費を配賦することもできます。製品レベルでコストと収益がすべて計上されるため、製品ごとの収益性が把握できます。

コスト・オブジェクト情報は、購買オーダー、入金、請求などの他のシステムで入力した取引データから入手できます。仕訳を作成すると、コスト・オブジェクト情報を更新、検証、転記できます。これらの取引は、コスト・アナライザ・テーブルを使用して、管理会計または活動基準原価計算で利用可能なデータとなります。この処理は収益性分析の実行過程で最も重要です。これは、収益性分析システムでは、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムやJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムなど、収益性分析システムとデータをやり取りする他のシステム上にあるコスト・オブジェクト情報を使用して、取引レコードを更新するためです。

---

## プロジェクト予算の計算および管理

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、プロジェクトの予算を計算して実際のコストや費用と比較し、そのプロジェクトが予算内であるかどうかを判断できます。コスト・オブジェクト別にコストの内訳を出すことにより、プロジェクト内で予算どおり、予算超過、予算内の箇所を判断できます。この情報に基づいて、資源を追加する部分や削減する部分など、将来の生産について効果的な意思決定を下すことができます。また、製造プロセスの原価構造を調整する必要があるかどうかを判断することもできます。

たとえば、コスト・オブジェクトを分析して、自転車の製造に使用する材料が予算超過であると判明したとします。その場合は、予算に見合った廉価な材料を提供する仕入先を探してコストを抑えることができます。また、材料費は予算を超過しているが人件費が予算を下回っているため、調整の必要はないと判断できる場合もあります。このように、コスト・オブジェクトの分析から得た情報に基づいて、プロジェクト予算をより効率的に管理できます。

---

## コスト・オブジェクトおよび構成部品別の購買価格差異のトラッキング

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのデータを使用して、コスト・オブジェクトと構成部品別に購買価格差異をトラッキングします。

品目マスター・レコードには、製造プロセス用に購入する各構成品の単位原価が格納されています。この構成品の単位原価を使用して、コスト・オブジェクトの購買価格を決定できます。コスト・オブジェクトの購買価格を決定した後でも、価格の変動に応じて変更できます。コスト・オブジェクトを分析して差異の原因となる構成部品を特定できるため、適切な情報に基づいて購買に関する意思決定を下すことができます。

---

## 運賃の管理

製造施設への資材の輸送や顧客への商品の配送は、製造および流通会社にとって最もコストがかかる要素です。これらのコストを効率的に管理することは、会社の収益性を大きく左右します。

コスト・オブジェクトに運賃を割り当てて収益性分析を行うことにより、その分析結果に基づいて運賃に関連した意思決定を的確に行うことができます。

運賃の管理は、次の3段階のプロセスで実行されます。

1. コスト・オブジェクトへの運賃の割当
2. コスト・オブジェクト別の運賃差異のトラッキング
3. 受注オーダーへの運賃の追加

### コスト・オブジェクトへの運賃の割当

運賃は、仕入先から請求が回ってくる場合と流通業者に課金する場合があります。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、運賃をコスト・オブジェクトに割り当てることができます。運賃を計上した後、特定モデルの自転車の送料など、コスト・オブジェクトに関連付けられた運賃をトラッキングできます。

## コスト・オブジェクト別の運賃差異のトラッキング

輸送管理システムで伝票を入力したら、未決済運賃/伝票照合プログラム(P0411)を使用して伝票の金額と未決済送料を照合できます。伝票に入力した金額と仕入先から受け取った請求書の金額が異なる場合、運賃監査履歴の処理プログラム(P4981)を使用して、その差異の調整を入力できます。

差異の調整を入力すると、運賃監査履歴テーブル(F4981)に調整レコードが書き込まれます。次に、そのレコードを取引明細テーブル(F0911)に転記します。伝票照合プログラム(P4314)では、取り込んだ調整レコードを使用してJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムに伝票を作成します。

## 受注オーダーへの運賃の追加

ある商品を販売する際に、顧客へ配送するための送料(運賃)を請求する場合があります。受注オーダーに運賃を追加することにより、顧客に商品を提供するのに実際にかかるコストを判断できます。運賃のコスト・ドライバは、F4981テーブルのドライバを基に定義します。



## 第 7 章

# 一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの概要と、次の方法について説明します。

- 総勘定元帳のコスト・オブジェクト情報の更新
- 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

---

## 一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでは、すべての会計データを確実に総勘定元帳に記録する必要があります。これにより、柔軟で正確な会計レポートを作成できます。請求、伝票、入金、支払などの取引データは通常、他の JD Edwards EnterpriseOne システムで作成しますが、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムで取引データを直接入力することもできます。

---

## 総勘定元帳のコスト・オブジェクトの情報の更新について

仕訳のバッチを検討して承認したら、仕訳の転記(事前転記)プログラムを使用して、各タイプの取引を編集して転記します。このプログラムでは、取引明細テーブル(F0911)用の取引バッチを編集し、バッチ状況を更新して勘定残高テーブル(F0902)への転記を可能にします。編集中にエラーが発生した場合は、バッチにエラー状況が割り当てられ、転記は行われません。

仕訳の転記時に勘定科目を動的に作成すると、コスト・オブジェクトに対する編集コード・フラグがコピーされます。

システムにより、次の処理が行われます。

- データ選択で指定した条件に一致するバッチの中から、承認済で未転記のバッチを選択します。
- 各取引を検証して次の項目を確認します。
- 勘定科目が勘定科目マスター(F0901)に存在し、転記対象の勘定科目であるか。
- ビジネスユニットがビジネスユニット・マスター(F0006)に存在するか。
- 元帳日付が有効か。
- 会社間設定が正しく設定されているか(該当する場合)。
- 会社間取引で多通貨が設定されているか。
- 各バッチが貸借一致しており、承認済であるかどうかを検証します。

- エラーのある取引と貸借が一致していないバッチに対して電子メールでメッセージを送信します。
- バッチの貸借が一致していない場合、転記エラーレポートを出力します。
- エラーのある取引が1つでも存在する場合は、バッチ全体をエラーとします。
- 取引日別に相殺仕訳を作成します。
- 勘定残高テーブルに取引を転記します。
- 取引明細テーブルの転記コードを転記済に更新し、勘定残高テーブルに残高レコードを作成します。
- バッチ制御テーブル (F0011) の各転記済バッチの状況を更新します。
- 国内通貨金額を実績金額元帳 (AA) に転記し、外貨建て金額 (外貨建て取引の場合) を外貨金額元帳 (CA) に転記します。
- 必要に応じて、会社間決済処理を実行します。
- 必要に応じて、逆仕訳を作成します。
- 仕訳の転記レポートを出力します。

## 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、次の方法について説明します。

- 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力
- 仕訳入力の処理オプションの設定

### 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について

基本仕訳を使用して様々な取引を入力できます。貸借一致が必須の元帳タイプを使用して仕訳を入力する場合、借方と貸方の金額を一致させる必要があります。

仕訳の入力時には、仕訳が総勘定元帳で有効になる日付など、各仕訳を識別するための情報を入力する必要があります。

仕訳入力が完了すると、自動的に割り当てられたバッチ番号と伝票番号が表示されます。これらの番号を使用して、仕訳の検索や検討を行うことができます。バッチ番号と伝票番号は、自動採番によって割り当てられます。

### 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕訳入力	W0911A	「仕訳入力、レポート、照会」(G0911)、「仕訳入力」 「仕訳入力の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報を入力します。

### 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

「仕訳入力」フォームにアクセスします。

**注意:** バッチ制御使用時は「バッチ制御」フォームが表示されます。その場合、このフィールドでバッチ日付と予想合計を入力します。

1. 「仕訳入力」フォームで、仕訳の情報を入力します。
2. 次のフィールドに値を入力して「OK」をクリックし、コスト・オブジェクト情報を入力します。
  - タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
  - 品目記述

## 仕訳入力(P0911)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

1. **バッチ・タイプ**                      バッチで作成される仕訳のシステムとタイプを指定します。一般会計は「G」、伝票入力は「V」、請求書は「IB」などです。この処理オプションを空白にすると、すべてのバッチ・タイプが処理されます。

### 表示

1. **借方/貸方形式**                      仕訳を借方/貸方形式で表示するかどうかを指定します。

### バージョン

1. **仕訳入力MBFバージョン(P0900049)**      仕訳入力で使用される仕訳入力MBFのバージョンを変更するかどうかを指定します。P0900049のバージョンを指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。  
この処理オプションは、システムのセットアップ担当者が変更してください。

### 検証

1. **固定資産ID**                      勘定科目が資産のAAI勘定科目範囲内にある場合、資産IDを必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 資産IDの入力を必須にしない。  
1: 資産IDの入力を必須にする。



## 第 8 章

# 売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの概要と、次の方法について説明します。

- 標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力
- スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力
- バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力
- 定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

---

## 売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

売掛管理システムを使用すると、売掛管理部門全体の日常業務を合理化できます。入金処理が簡素化されて迅速に処理できるようになり、最新の情報を共有することで、請求、与信、回収の各部門間の効率的な連携が可能になります。請求書の入力時にコスト・オブジェクト情報の検討や入力ができるだけでなく、管理会計や活動基準原価計算の関連情報を取得することもできます。

---

## 標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

請求書入力の機能は、顧客への請求書を手入力で作成する場合に柔軟に対応します。通常、請求書は受注管理システムで作成しますが、売掛管理システムで作成することもできます。

この項では、標準請求書にコスト・オブジェクト情報を入力する方法について説明します。

## 標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書の入力	W03B2002A	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「請求書入力」 「売掛金元帳照会の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	標準請求書にコスト・オブジェクト情報を入力します。
勘定科目情報	W03B11C	「フォーム」メニューの「勘定科目情報」をクリックします。	コスト・オブジェクト情報を入力します。

## 標準請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

「請求書の入力」フォームにアクセスします。

請求書入力 - 請求書の入力

削除(ⓧ) 取消(ⓧ) フォーム(E) ロー(E) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ] バッチNo. \* 8103

顧客 [ ]

会社番号 [ ]

請求書日付 [ ] 元帳日付 [ ]  割引率

通貨 [ ] 為替レート [ ] 支払条件 基本   外貨

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

<input checked="" type="checkbox"/>	支払項目	総額	備考	支払条件	割引率	割引可能額	課税対象額	税額	未決済金額
<input checked="" type="checkbox"/>	001	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

総額 [ ] 割引 [ ] 税額 [ ] 課税対象 [ ]

「請求書の入力」フォーム

標準請求書にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

- 「請求書の入力」フォームで、標準請求書の情報を入力します。
- 「勘定科目情報」フォームで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3

- コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目 No.
3. 「OK」をクリックします。

## スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

### スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について

単純な内容の請求書を大量に入力する場合、標準請求書のかわりにスピード請求書を使用できます。スピード請求書の入力では、請求書と勘定科目情報を1つのフォームで入力します。スピード請求書は、次のような請求書を入力する場合に便利です。

- 支払項目が1つ(支払期日、税率/税域が1つだけで構成されている)の請求書
- 仕訳が単純

標準請求書と同様に、スピード請求書の情報は次のテーブルに保存されます。

- 売掛金元帳 (F03B11)
- 取引明細 (F0911)
- バッチ制御レコード (F0011)

スピード請求書の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。コスト・オブジェクトを入力すると、勘定科目マスター (F0901) に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター (F4101) のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

### スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スピード請求書入力	W03B11SIA	「顧客および請求書の入力」(G03B11)、「スピード請求書入力」	スピード請求書にコスト・オブジェクト情報を入力します。

### スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

「スピード請求書入力」フォームにアクセスします。

「スピード請求書入力」フォーム

スピード請求書にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード請求書入力」フォームで、スピード請求書の情報を入力します。
2. 次のフィールドに、コスト・オブジェクト情報を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

## バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、バッチ請求書の処理方法について説明します。

## バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について

バッチ請求書の検討と訂正を行ったら、売掛金元帳に請求書レコードを作成するための処理を行います。バッチ請求書の処理準備が完了したら、バッチ請求処理プログラム (R03B11Z1A) を実行します。バッチ請求書は、テスト・モードまたは最終モードで処理できます。

モード	説明
テスト・モード	<p>テスト・モードでは、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データの検証</li> <li>レポートの作成</li> <li>コスト・オブジェクト情報の検証</li> </ul>
最終モード	<p>最終モードでは、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>売掛金元帳テーブル (F03B11) に請求書、取引明細テーブル (F0911) に仕訳を作成</li> <li>伝票番号およびバッチ番号の割当</li> <li>ブランク・フィールドへの値の入力</li> <li>請求書入力のエラーのチェック</li> <li>例外レポートの作成</li> <li>コスト・オブジェクト情報の検証</li> </ul>

バッチ請求書を処理したら、エラー・メッセージが電子メールで届いていないかを確認します。電子メールが届いている場合は、そのエラー・メッセージから売掛管理フォームにアクセスできます。このフォームで、問題の特定と訂正を対話形式で行うことができます。エラーがない場合は、処理したすべての取引のレポートが作成されます。

バッチ請求書にエラーがあった場合は、最終モードで処理する前にエラーを訂正します。JD Edwards EnterpriseOne 以外のシステムで請求書が作成されている場合、訂正した請求書を伝送する前に、エラーのあるレコードを必ず除去してください。これにより、レコードの重複を回避できます。

請求書の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。バッチ請求書の処理中にコスト・オブジェクト情報が検出されると、勘定科目マスター (F0901) に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター (F4101) のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

バッチ請求書を処理したら、総勘定元帳とコスト・アナライザに転記します。

### バッチ請求書の処理

「バッチ請求書処理」(G03B311) の「バッチ請求書処理」を選択します。

---

## 定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

## 定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力について

定期的に同額の請求書を顧客へ送付する場合、定期請求書を入力します。定期請求書を入力すると、伝票タイプ「RR」が請求書に割り当てられます。

請求書を入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。定期請求書の場合、請求書が作成されるたびに、コスト・オブジェクト・タイプ、コスト・オブジェクト編集コード、品目の各フィールドの値がコピーされ、勘定科目マスター（F0901）に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター（F4101）のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

## 定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目情報	W03B2002A	「その他の請求書入力方式」(G03B111)、「請求書入力」 「ロー」メニューの「勘定科目情報」を選択します。	定期請求書にコスト・オブジェクト情報を入力します。

## 定期請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力

「勘定科目情報」フォームにアクセスします。

請求書入力 - 勘定科目情報

取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社: 3035 RI 00050 バッチ番号: 4411

顧客: 150 摘要: Actual Revenue - Materials  
元帳日付: 2005/04/30  
通貨: USD 為替レート: 基本: USD 外貨

勘定科目コード	勘定科目名	金額	摘要-備考-	税トラッキング	税率/税域	税目コード	課税対象品目No.	期間
6100.5587	Actual Revenue - Materials	9,197.68-	Actual Revenue - Materials	0				0

金額: 9,197.68-

「勘定科目情報」フォーム

定期請求書にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

- 「勘定科目情報」フォームで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2

- オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目 No.
2. 「OK」をクリックします。



## 第 9 章

# 買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの概要と、次の方法について説明します。

- 標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力
- スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力
- 複数会社伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力
- 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力
- 定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

---

## 買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムを使用すると、買掛管理部門の日常業務を合理化できます。部門間の連絡も迅速になり、効率的な連携が可能になります。伝票の入力時にコスト・オブジェクト情報の検討や入力ができるだけでなく、管理会計や活動基準原価計算の関連情報を取得することもできます。

---

## 標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

### 標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について

標準伝票は、仕入先からの請求書に対する伝票を作成する場合に柔軟に対応します。標準伝票は、伝票を変更、削除、無効にする場合に使用します。伝票を入力すると、割り当てられた伝票タイプと伝票番号が表示されます。この情報を使用して、伝票を検索、検討できます。

伝票には、バッチ・タイプ「V」が割り当てられます。標準伝票を入力すると、取引明細テーブル(F0911)と買掛金元帳テーブル(F0411)に未転記のレコードとして伝票が保存されます。標準伝票を転記すると、勘定残高テーブル(F0902)が更新され、取引明細テーブルと買掛金元帳テーブルの伝票は転記済に更新されます。

標準伝票の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。コスト・オブジェクトを入力すると、勘定科目マスター(F0901)に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

## 標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力 - 支払情報	W0411A	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「標準伝票入力」 「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	標準伝票にコスト・オブジェクト情報を入力します。
勘定科目情報	W0411K	「フォーム」メニューの「勘定科目情報」をクリックします。	コスト・オブジェクト情報を入力します。

## 標準伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

「標準伝票入力」フォームにアクセスします。

標準伝票入力 - 伝票入力 - 支払情報

削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ] バッチNo. 7929 前の伝票 [ ]

会社番号 \* [ ]

仕入先No. \* [ ] ビジネスユニット [ ]

請求書No. [ ]  割引率 [ ] デフォルト支払条件 [ ]

請求書日付 [ ] 元帳日付 \* [ ] サービス税日付 [ ]

通貨 [ ] 為替レート [ ] 基本   外貨

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

支払項目	総額	支払条件	割引可能額	備考	期日	支払状況
001	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

総額 [ ] 割引 [ ] 税額 [ ] 課税対象 [ ]

「標準伝票入力」フォーム

標準伝票にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「伝票入力 - 支払情報」フォームで、標準伝票の情報を入力します。
2. 「勘定科目情報」フォームで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2

- オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

## スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

### スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について

単純な内容の伝票を大量に入力する場合、標準伝票のかわりにスピード伝票を使用できます。スピード伝票の入力では、伝票情報と勘定科目情報を1つのフォームで入力します。この方法は、次のような伝票の場合に便利です。

- 支払項目が1つ(支払期日、税率/税域が1つだけで構成されている)の伝票
- 仕訳が単純

支払項目が複数ある場合、スピード伝票は使用できません。標準伝票と同様に、伝票情報は取引明細テーブル(F0911)と買掛金元帳(F0411)テーブルに保存されます。

スピード伝票の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。コスト・オブジェクトを入力すると、勘定科目マスター(F0901)に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

### スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
スピード伝票入力	W0411SVA	「仕入先および伝票の入力」(G0411)、「スピード伝票入力」	スピード伝票にコスト・オブジェクト情報を入力します。

### スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

「スピード伝票入力」フォームにアクセスします。

スピード伝票入力 - スピード伝票入力

仕入先No. [ ] 前の伝票 [ ]

会社番号 \* [ ] 伝票No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ]

請求書No. [ ] 購買No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ]

請求書金額 [ ] サービス税日付 [ ]  % 割引額 [ ]

請求書日付 [ ] 税目コード [ ] ビジネスユニット [ ]

元帳日付 [ ] 税率/税域 [ ] 支払条件 [ ]

期日 [ ] 税額 [ ] 支払状況 [ ]

承認者No. [ ] 課税対象額 [ ] カテゴリ・コード7 [ ]

支払備考 [ ] 課税対象額 [ ] バッチNo. 8106

計上金額 [ ] 為替レート [ ] 基本  外貨

通貨コード [ ]

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

勘定科目 コード	勘定 科目名	配賦値	備考	数量
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

金額 [ ] 差異 [ ]

「スピード伝票入力」フォーム

スピード伝票にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「スピード伝票入力」フォームで、スピード伝票の情報を入力します。
2. 詳細グリッドで、次のフィールドにコスト・オブジェクト情報を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

## 複数会社伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、複数会社伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

## スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について

広告宣伝費などの費用をグループ内の関連企業へ配賦する場合、複数会社伝票を利用すると便利です。

複数の会社間で共通する会計処理を1つの伝票の入力で行う場合、経費は各支払項目に割り当てられた相手勘定ではなく、会社に基づいて配賦されます。支払時に、買掛金勘定、銀行勘定、および割引勘定と為替差損益勘定の相手科目を使用して処理が行われます。複数の会社に対して1つの伝票を入力する場合、会社間決済は作成されません。この情報は、取引明細テーブル(F0911)と買掛金元帳テーブル(F0411)に保存されます。

複数会社伝票の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。コスト・オブジェクトを入力すると、勘定科目マスター(F0901)に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

## スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
複数会社 - 単一仕入先	W041016A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「複数会社 - 単一仕入先」  「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	複数会社伝票にコスト・オブジェクト情報を入力します。

## スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

「複数会社 - 単一仕入先」フォームにアクセスします。

複数会社 - 単一仕入先 - 複数会社 - 単一仕入先

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(B) ツール(T)

伝票No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ] バッチNo. 8104 前の伝票 [ ]

仕入先No. [ ]

請求書No. [ ] 支払条件 [ ]

請求書日付 [ ] 元帳日付 \* [ ] サービス/税日付 [ ]

購買No./タイプ/会社 [ ] [ ] [ ]  割引率

備考 [ ]

通貨コード [ ] 為替レート [ ] 基本 [ ]  外貨

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

勘定科目 No.	記述	金額	数量	摘要	支払状況	相手勘定
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

金額 [ ] 割引率 [ ] 税額 [ ] 課税対象 [ ]

「複数会社 - 単一仕入先」フォーム

複数会社伝票にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「複数会社 - 単一仕入先」フォームで、標準伝票の情報を入力します。

2. 詳細グリッドで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

## 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

### 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について

1つ以上の仕入先に対して、大量の伝票の入力を迅速に行うには、複数伝票の入力方法のうちいずれか1つを選択します。2つの処理ステップを必要とする標準伝票入力とは異なり、複数伝票入力を使用した場合、1つのステップで処理できます。

複数伝票の入力では、伝票の追加のみを行うことができます。伝票を変更、削除、無効にする場合は、標準伝票入力を使用してください。複数伝票の入力には、他にも制約があります。

複数伝票の入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。コスト・オブジェクトを入力すると、勘定科目マスター(F0901)に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

### 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
複数伝票の入力	W041017A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「複数伝票 - 単一仕入先」  「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。	複数伝票にコスト・オブジェクト情報を入力します。

### 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

「複数伝票の入力」フォームにアクセスします。

複数伝票 - 単一仕入先 - 複数伝票の入力

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

仕入先 [ ] バッチ番号 8105

請求書日付 [ ] 元帳日付 \* [ ] サービス税日付 [ ]

支払期日 [ ] 支払条件 [ ]

税目コード [ ] 税率税域 [ ]

通貨 [ ] 為替レート [ ]  外貨

レコード 1-1

請求書 No.	請求書 * 金額	勘定科目 * No.	備考	補助元帳タイプ	補助元帳	請求書日付
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

「複数伝票の入力」フォーム

複数伝票にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「複数伝票の入力」フォームで、単一仕入先用の複数伝票の情報を入力します。
2. 詳細グリッドで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目 No.
3. 「OK」をクリックします。

## 定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力の概要と、入力方法について説明します。

### 定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力について

リース料など、仕入先に対して一定金額の支払を定期的に行う場合、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで伝票を定期的に作成するように設定します。定期伝票には、1つの支払項目しか設定できません。

定期伝票を設定するには、初回支払額、支払回数、定期頻度、および定期伝票金額の勘定科目情報を指定します。

定期的な元の伝票のコピーを作成します。元の伝票をコピーして毎回同じ伝票を作成することを“再作成”と呼びます。定期伝票には、元の伝票とは別の伝票番号とバッチが割り当てられます。

定期伝票には、伝票タイプ「PR」が割り当てられます。

伝票入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。定期伝票の場合、コスト・オブジェクト・タイプ、コスト・オブジェクト編集コード、品目の各フィールドが再作成伝票にコピーされ、勘定科目マスター（F0901）に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター（F4101）のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

## 定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「定期伝票の照会」	定期伝票にコスト・オブジェクト情報を入力します。

## 定期伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

定期伝票にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「伝票入力 - 支払情報」フォームで、標準伝票の情報を入力します。
2. 「勘定科目情報」フォームで、次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

## 第 10 章

# コスト・オブジェクトのトラッキングにおける オフライン処理の使い方

この章では、オフライン処理、一般会計、買掛管理、および次の方法について説明します。

- オフライン仕訳入力でのコスト・オブジェクト情報の入力
- オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード
- オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード
- オフライン伝票入力でのコスト・オブジェクト情報の入力
- オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード
- オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

---

## オフライン処理について

サーバーへの専用回線を使用していない環境では、オフライン(バッチ)処理を利用すると、大量のトランザクション・データを効果的に入力して管理できます。通常の業務時間にリモートPCでトランザクション・データを入力しておき、トラフィックが少ない時間帯にまとめてデータをアップロードすることで、さらに生産性を上げ費用対効果を高めることができます。

オフライン処理のトランザクションに収益性分析に関わる情報が含まれている場合、サーバー上のコスト・オブジェクト情報が確認され、それを反映させたレコードが作成されます。

---

## 一般会計について

この項では、一般会計の概要および事前設定について説明します。

### 一般会計

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでオフライン処理を使用してコスト・オブジェクト情報を入力する場合、次のようなタスクを行います。

- オフライン仕訳入力 - 改訂プログラム (P0911Z1) を使用して、仕訳にコスト・オブジェクト情報を入力する。
- オフライン仕訳のアップロード・プログラム (R0911Z1) を使用して、PC からサーバー上の仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に仕訳をアップロードする。
- アップロードした仕訳を F0911Z1 から取引明細テーブル (F0911) に移動する。

## 買掛管理について

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでオフライン処理を使用してコスト・オブジェクト情報を入力する場合、次のようなタスクを行います。

1. オフライン・バッチ伝票の改訂プログラム (P0411Z1) を使用して、伝票にコスト・オブジェクト情報を入力する。
2. 伝票のアップロード・プログラム (R0411Z1) を使用して、PCからサーバー上の伝票アップロード・テーブル (F0411Z1) および仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に伝票をアップロードする。
3. オフライン・バッチ伝票の処理プログラム (R0411OZ2) を使用して、アップロードした伝票をF0411Z1とF0911Z1から買掛金元帳 (F0411) および取引明細 (F0911) の各テーブルに移動する。

## オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要、事前設定、およびコスト・オブジェクト情報の入力方法について説明します。

### オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について

マスター・テーブルをPCにダウンロードしたら、オフライン環境で仕訳を作成できます。仕訳は、サーバーにアップロード(転送)して処理するまで、ローカルPCに保存しておきます。

オフラインで仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各仕訳がチェックされる。
- 仕訳ごとに状況1(処理準備完了)の取引制御レコードが、仕訳アップロード・テーブル (F0911Z1) に作成される。

仕訳の作成時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。入力した仕訳をサーバーにアップロードするときに、勘定科目マスター (F0901) で定義したコスト・オブジェクト・タイプおよびコスト・オブジェクト編集コードが確認されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター (F4101) のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

### 事前設定

この項のタスクを完了するには、処理オプションを設定する必要があります。

### オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オフライン仕訳の改訂	W0911Z1A	「オフライン仕訳入力」(G09318)、「オフライン仕訳入力-改訂」  「オフライン仕訳の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オフライン仕訳入力でコスト・オブジェクト情報を入力します。

## オフライン仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

「オフライン仕訳の改訂」フォームにアクセスします。

「オフライン仕訳の改訂」フォーム

オフライン仕訳入力時にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「オフライン仕訳の改訂」フォームで基本的な仕訳を入力します。  
 オフラインで仕訳を作成した場合、アップロードして処理するまでは、伝票番号は割り当てられません。そのかわり、各仕訳には取引番号が割り当てられます。
2. 「オフライン仕訳の改訂」フォームでコスト・オブジェクト情報を入力するには、次のフィールドに値を入力します。
  - タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

---

## オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

この項では、オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードの概要、事前設定、およびコスト・オブジェクト情報のアップロードの方法について説明します。

### オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて

PCでコスト・オブジェクト情報を入力して仕訳を作成したら、その仕訳をサーバーにアップロードして処理する必要があります。アップロードを実行するには、サーバーに接続して実稼働環境にサインオンする必要があります。

仕訳をアップロードすると、次の処理が実行されます。

- 仕訳アップロード・テーブル(F0911Z1)にレコードが作成される。
- PC上の各仕訳の取引制御状況が5(アップロード済)に更新される。  
状況が5に更新された後は、PC上で仕訳は修正できません。サーバー上でのみ修正できます。  
状況が1(処理準備完了)か2(エラー)の場合は、PC上で変更できます。
- 取引制御レコードがサーバー上の各仕訳に対して作成され、状況1(処理準備完了)が割り当てられる。

アップロードしたすべての仕訳に対して伝送アップロード・レポートが作成されます。レポートを参照して、仕訳が正しくアップロードされたことを確認してください。

仕訳をアップロードして処理した後は、PC上の仕訳の取引制御状況を更新してサーバー上の仕訳の状況と一致させる必要があります。

### 事前設定

この項のタスクを完了するには、システム・パフォーマンスを最大限に活用できるように、オフピークの時間帯に仕訳をアップロードする必要があります。

### オフライン仕訳のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

「オフライン仕訳入力」(G09318)の「オフライン仕訳のアップロード」を選択します。

---

## オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

この項では、オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードの概要およびその方法について説明します。

## オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて

サーバーへの仕訳のアップロードの実行後、仕訳を処理して取引明細テーブルに取引データを作成します。JD Edwards EnterpriseOne収益性分析が有効で、オフライン環境で伝票を処理する場合、伝票情報は取引明細テーブル(F0911)に作成されます。

アップロードした仕訳を処理する場合、オフライン仕訳の処理に使用するプログラムとバッチ仕訳の処理に使用するプログラムは異なります。

## オフライン仕訳バッチ処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

「オフライン仕訳入力」(G09318)の「オフライン仕訳バッチ処理」を選択します。

## オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要およびその方法について説明します。

### オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について

マスター・テーブルをPCにダウンロードしたら、オフライン環境で標準形式の伝票を作成できます。伝票は、サーバーにアップロード(転送)して処理するまで、ローカルPCに保存しておきます。

オフラインで伝票を作成すると、次の処理が実行されます。

- テーブルからダウンロードした情報に基づいて、各伝票がチェックされる。
- 伝票ごとに状況1(処理準備完了)の取引制御レコードが、取引制御テーブル(F0041Z1)に保管される。

伝票入力時に、コスト・オブジェクト情報を入力できます。伝票をサーバーにアップロードする場合、勘定科目マスター(F0901)に定義したコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが確認されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

### オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票入力-支払情報	W0411Z1D	「オフライン伝票処理」(G04318)、「オフライン伝票の改訂」  「オフライン伝票処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オフライン伝票入力でコスト・オブジェクト情報を入力します。
勘定科目情報	W0411K	「フォーム」メニューの「勘定科目情報」をクリックします。	オフライン伝票入力でコスト・オブジェクト情報を入力します。

## オフライン伝票入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

「伝票入力 - 支払情報」フォームにアクセスします。

オフライン伝票入力時にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「伝票入力 - 支払情報」フォームで標準伝票を入力します。
2. 「勘定科目情報」で次のフィールドに値を入力します。
  - オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
  - 品目No.
3. 「OK」をクリックします。

---

## オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

この項では、オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードの概要およびその方法について説明します。

### オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて

コスト・オブジェクト情報を入力した伝票をアップロードする際、次の処理が行われます。

- サーバー（ターゲット環境）の伝票アップロード（F0411Z1）と仕訳アップロード（F0911Z1）の各テーブルにレコードが作成される。
- PC上で各伝票の取引制御状況を5（アップロード済）に更新する。

状況が5に更新された後は、PC上でその伝票は修正できません。サーバー上でのみ修正できます。

状況が1（処理準備完了）か2（エラー）の場合は、PC上で変更できます。
- 取引制御レコードがサーバー上の各伝票に対して作成され、状況1（処理準備完了）が割り当てられる。

アップロードしたすべての伝票に対して、伝送アップロード・レポートが作成されます。このレポートを使用して、伝票が正しくアップロードされたことを確認してください。

## オフライン伝票のアップロードを使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

「オフライン伝票処理」(G04318)の「伝票のアップロード」を選択します。

---

## オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

この項では、オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードの概要およびその方法について説明します。

### オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロードについて

サーバーへの伝票のアップロードの実行後、伝票を処理して買掛金元帳テーブル(F0411)に取引データを作成します。オフライン環境で伝票を処理する場合、次の情報が作成されます。

- 買掛金元帳テーブルの伝票情報
- 取引明細テーブル(F0911)の関連勘定科目情報とコスト・オブジェクト情報
- 買掛金照合伝票テーブル(F0413)と買掛金照合伝票明細テーブル(F0414)の支払情報

伝票をアップロードして処理した後は、PC上の伝票の取引制御状況を更新してサーバー上の伝票の状況と一致させる必要があります。

### オフライン・バッチ伝票処理を使用したコスト・オブジェクト情報のアップロード

「オフライン伝票処理」(G04318)の「オフライン・バッチ伝票処理」を選択します。



## 第 11 章

# 製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この項では、製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの概要と次の方法について説明します。

- 作業オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力
- 製造会計における原価情報の更新

---

## 製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

作業オーダーとは、品目、数量、期日を指定した製造要求です。作業オーダーを作成することにより、作業に関する情報を関係者に伝えることができます。作業オーダーにレコード・タイプを割り当て、各レコード・タイプに詳細情報を入力して、タスクの詳細を記述します。また、作業オーダーの入力時に活動基準原価計算および管理会計に必要なコスト・オブジェクト情報を入力できます。

JD Edwards EnterpriseOne製造会計システムでは、作業オーダーに関連する原価がトラッキングされ、製造現場のすべての取引に対して仕訳が作成されます。作業オーダー処理の各ステップが製造会計に影響します。このため、各作業工程で生じた原価差異を計上する必要があります。仕訳の差異プログラムを実行すると、差異が自動的に計算されます。

### 例: 製造管理システムにおけるコスト管理

会社200は、標準フレームと2色調のカスタム・フレームのいずれかを選択できる自転車を販売しています。受注オーダーに従い、標準塗装または2色調塗装の大人用と子供用の自転車フレームを製造しています。塗装のための原価計算方法として、標準原価計算を採用しています。塗装を担当している作業場では、原価の30%を占める間接費のうちの2%を再作業のための費用として計上しています。標準原価および再作業のための追加原価が各フレーム・タイプに適正に配賦されているかを判断するために、次の項目を検討します。

- 塗装済および再作業済の自転車フレーム数の把握
- フレーム・タイプごとの利益の計算
- フレーム・タイプごとの棚卸資産評価額の再計算
- フレーム・タイプごとの標準原価の調整
- 塗装作業場で発生する製造間接費の調整

この管理会計の例では、次の作業に要する労務費および機械稼働費を分析することを目的としています。

- 標準フレームの塗装
- 2色調のカスタム・フレームの塗装
- フレームの再作業

さらに、塗装済および再作業済の自転車フレームの数をフレーム・タイプごとに計算します。

各取引はそれぞれ次のシステムから発生します。

- 作業工程タイプ - 作業オーダー
- フレーム・タイプ - 在庫管理
- フレーム塗装の標準原価 - 製造管理
- フレーム塗装の標準原価計算による実際原価 - コスト・アナライザ

まれに、塗装フレームが検査基準に適合しないことがあります。この場合、フレームの塗装を一度落として再塗装する必要があります。再作業量は発生ベースでしかわからないため、作業場の30%を占める間接費のうち、2%を再作業のための費用として計上しています。

フレームが再作業になると、新しい作業工程タイプで作業オーダーが割り当てられます。ただし、作業オーダー全体のうち、どれだけの作業オーダーが再作業によるものであるかは把握できていません。そのため、製品タイプ別に必要となる再作業の発生率を確定できません。

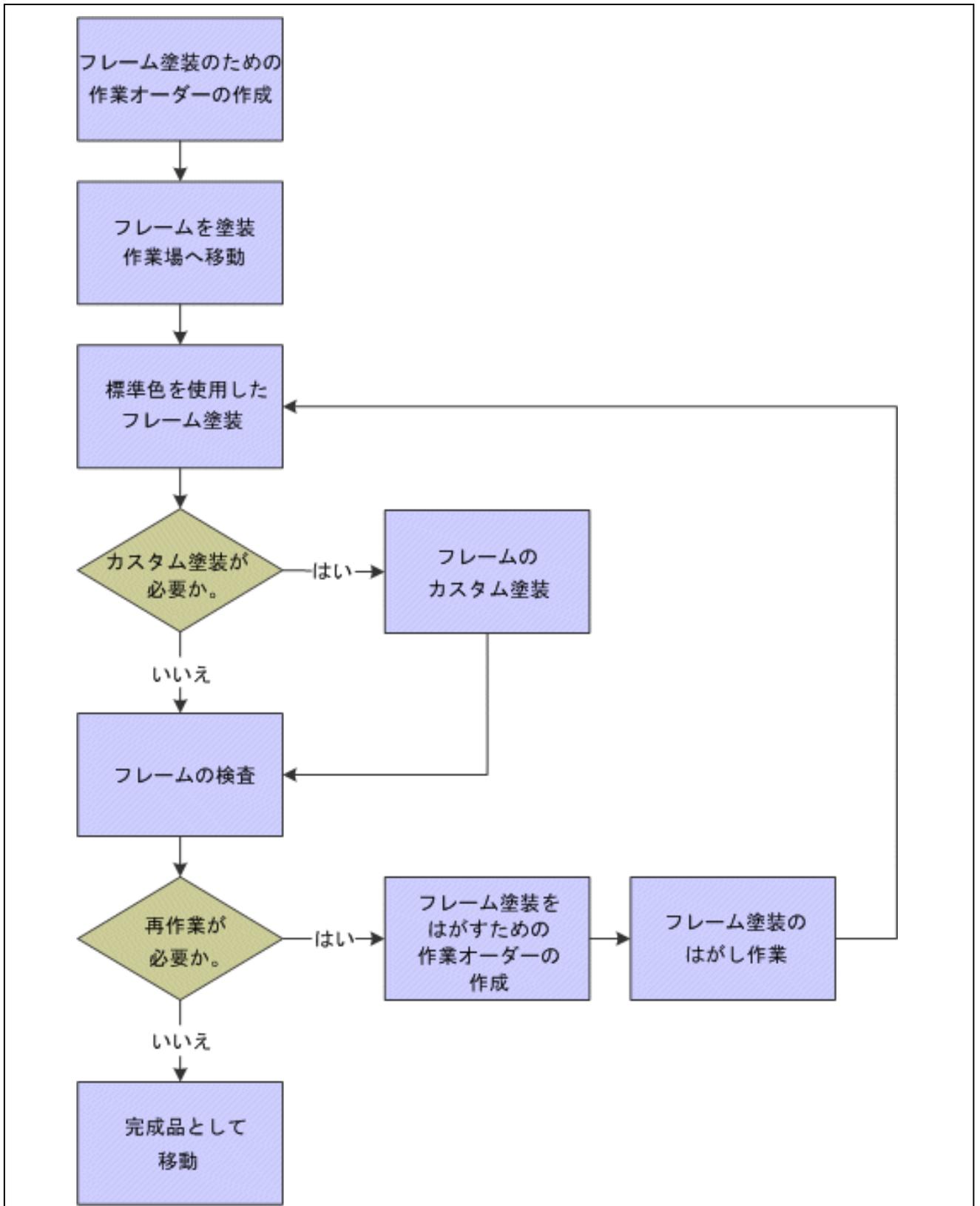
会社200は、塗装の標準原価および塗装作業場の製造間接費がともに不適切であると考えています。また、再作業の原因は、主にカスタム塗装であると考えています。前述の仮定が正しいとした場合、この会社は次の対応を取る必要があります。

- 売上原価の再配賦
- 在庫原価の再配賦
- 塗装作業場で発生する製造間接費の削減
- カスタム塗装費用の増加

会社200では、標準原価と実際原価を分析する必要があります。会社200は再作業にかかる実際原価を計算するため、塗装するすべての自転車フレームについて、再作業の割合を品目別および製品タイプ別にトラッキングし、計算する必要があります。

製品ファミリーと作業オーダー・タイプを識別するコスト・オブジェクトを定義すると、自転車フレームの塗装タイプに関連付けることができます。さらに、塗装および再作業プロセスに要する実際原価を標準原価計算に基づいて確定できます。

次の図は、会社200が採用している製造プロセスを説明しています。図の中の説明文は、コスト・オブジェクトと製品ファミリー、また、コスト・オブジェクトとプロセス・ステップとの関連付けを表しています。



製造プロセス

## 作業オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力

作業オーダーを作成することにより、作業に関する情報を関係者に伝えることができます。作業の詳細を記述するには、まず作業オーダーにレコード・タイプを割り当て、次に各レコード・タイプに詳細情報を入力します。たとえば、特殊指示、およびタスクを完了するために必要な部品や工具に関しての内容を入力します。

作業オーダーからコスト・オブジェクト情報を取得する際には、作業オーダー・マスター(F4801)の各フィールドの値を基にしてドライバ・ボリュームを計算できます。たとえば、品目ごとの作業オーダー数などに基づいてドライバ・ボリュームを計算できます。コスト・オブジェクト規則で各フィールドを定義できるため、作業オーダーにそれ以上のコスト・オブジェクト情報を入力する必要はありません。事前定義済のコスト・オブジェクト規則と任意勘定規則を使用して、アプリケーションからコスト・オブジェクト情報を自動で取り込むことができます。

作業オーダー・マスター・レコードは、作業オーダー・マスターに保存されます。

参照: [第 4 章、「ドライバの設定」、35ページ](#)

参照: [第 2 章、「収益性分析の設定」、「任意勘定科目の設定」、23ページ](#)

## 製造会計における原価情報の更新

総勘定元帳に取引を転記する前に、仕掛品(在庫、作業時間、機械稼働時間)、完了品、製造原価差異の仕訳を作成します。コスト管理のため、必要な補助元帳、コスト・オブジェクト、品目フィールドは自動的に更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne製造会計システムでは、次のような様々な製造現場活動に対して仕訳を作成します。

- 資材の在庫
- 労務時間と機械稼働時間の報告
- 作業オーダーの完了
- 仕損
- 差異
- 設計
- 計画
- 材料消費量差異(実際)
- 労務効率差異(実際)
- その他差異(容量)

原価要素別に作業オーダーまたはレート・スケジュールの仕訳の明細を入力するには、各原価要素に対して異なる主科目コードまたは補助科目コードを入力します。

次に例を示します。

原価要素	ビジネスユニット	勘定科目番号
A1	M30	1341

原価要素	ビジネスユニット	勘定科目番号
B1	M30	1342
B2	M30	1343

作業オーダーの1つの品目に対する原価要素を1つの仕訳に集計するには、同じ主科目コードと補助科目コードで原価を入力します。

次に例を示します。

原価要素	ビジネスユニット	勘定科目番号
A1	M30	1340
B1	M30	1340
B2	M30	1340

さらに、処理オプションで次の設定を行うことができます。

- 1つの作業オーダー内での資材の出庫伝票(伝票タイプIM)の勘定科目コード別集計  
勘定科目コードと作業オーダー番号の組合せごとに仕訳が作成されます。
- 作業オーダー全体の仕訳の勘定科目コード別集計  
勘定科目ごとに仕訳が作成されます。この仕訳は、伝票タイプごとに、すべての作業オーダー取引を勘定科目別に集計したものです。
- 勘定取引集計レポートの印刷
- コスト・オブジェクトの自動入力方法を指定する規則を検索するための、任意売上勘定科目の有効化

複数の作業オーダーに対して集計仕訳を作成する場合、該当する作業オーダーが1つのバッチにまとめられ、自動的に新しい作業オーダー番号が割り当てられます。この作業オーダー番号は、照会フォームや照会レポートに出力されますが、実際の作業オーダーではありません。

取引は、次のデータに基づいてAAI勘定科目と照合されます。

- AAIの作業オーダー・タイプ
- 作業オーダーまたは構成品事業所に関連付けられている会社番号  
該当する番号がない場合は、会社00000が使用されます。
- 取引に関連付けられている伝票タイプ
- 取引品目の総勘定元帳カテゴリ・コード。該当するコードがない場合は、\*\*\*\*(4つのアスタリスク)が使用されます。
- 原価要素
- 事業所



## 第 12 章

# 調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングおよび陸揚費用へのコスト・オブジェクト情報の入力についての概要と、次の方法について説明します。

- 購買オーダー入力でのコスト・オブジェクト情報の入力
- 入荷確認でのコスト・オブジェクト情報の入力
- 陸揚費用へのコスト・オブジェクト情報の入力
- 購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力
- 伝票照合でのコスト・オブジェクト情報の入力

---

## 調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

購買オーダー、購買要求、見積に関するデータの入力時に、管理会計や活動基準原価計算に必要なコスト・オブジェクト情報を入力します。また、商品の入荷および伝票と受領書の照合を行う際に、コスト・オブジェクト情報を確認および編集できます。

購買オーダーの入力、入荷、伝票照合などの、調達管理プロセスの各ステップにおいてコスト・オブジェクト情報を入力できます。また、任意勘定規則に基づいて、コスト・オブジェクト情報を自動入力することもできます。

### 例: 調達管理システムにおけるコスト管理

会社200は、自転車用バッグを国内と海外の両方から調達しているため、調達プロセスにおいて超過費用が発生していると判断しました。製造現場に直接納入される資材がある一方、入荷、分類、および品質検査の手順を経てから倉庫に到達する資材があることが判明しています。そのため、活動基準原価計算を採用して、自転車用バッグの調達プロセスで発生している超過費用を分析し、国内と海外の仕入先それぞれにどれだけの超過費用が起因しているかを測定しようと考えています。

この活動基準原価計算の例では、異なる2つの仕入先からの資材調達プロセスで発生する原価を分析することに焦点を当てています。各取引はそれぞれ次のシステムから発生します。

- 支出 - 調達管理
- 品質 - 調達管理
- 在庫維持費 - 一般会計
- その他(バッグの入荷やソート作業など) - コスト・アナライザ

この会社では、自転車用バッグを2つの異なる仕入先から調達しています。1つは国内の仕入先、もう1つは海外の仕入先です。現在、海外の仕入先とは、ある特別な契約を結んでいます。国内の仕入先よりも安価（関税を含む）でバッグを仕入れることができ、バッグへのロゴマークの印刷も無料です。この仕入先からの無地およびロゴマーク入りバッグの仕入は、電子発注で行っています。ただし、税関や各法規用の書類を作成する必要があります。この仕入先のリードタイムは3か月です。このため、バッグは年4回大量に出荷されます。

バッグの入荷にあたり、ロゴマークを印刷する際のインク漏れがないかなど、商品としての品質を検査します。平均90%の製品が検査を通過します。仕入先への返品費用が高いため、検査に合格しなかったバッグは仕損として処理しています。次に、無地のバッグとロゴマーク入りのバッグとを分類します。

検査を通過したバッグは在庫となり、必要に応じて出庫されます。十分な手持在庫を確保するため、少量の安全在庫を維持します。

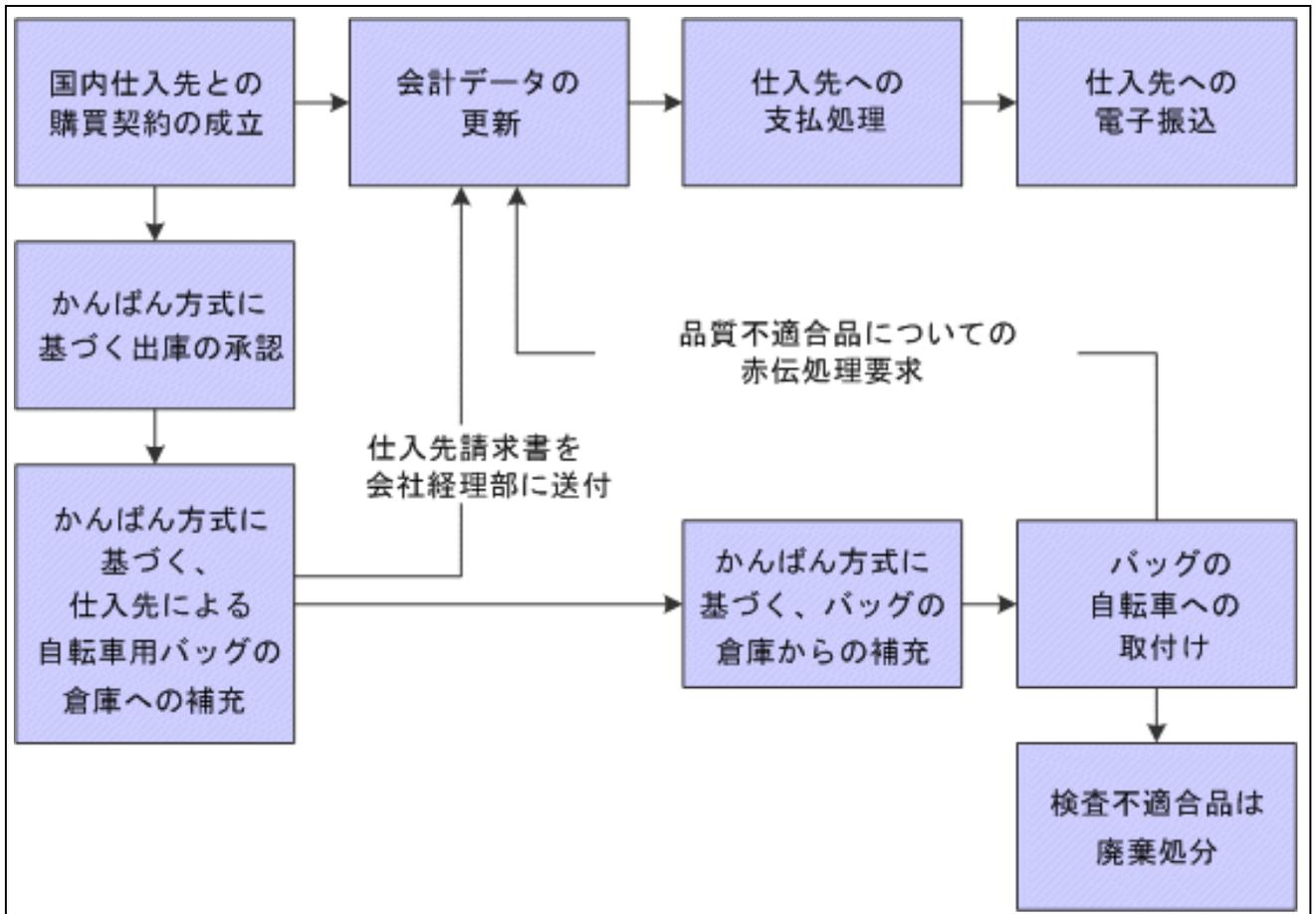
また、会社200では、無地の黒バッグを国内の仕入先から仕入れています。顧客がこの黒バッグへのロゴマークの印刷を希望する場合は、仕入先に小額の手数料を支払ってロゴマークを印刷してもらい、顧客に印刷料を請求します。

会社200では、かんばん方式が採用されています。かんばんが不足すると、倉庫から不足分を補充します。また、倉庫のかんばんがなくなると、必要に応じて仕入先に電子発注を行い、自動的に在庫補充を行います。この国内の仕入先は、少量のバッグを2日のリードタイムで会社200の倉庫へ直接納品します。国内仕入先のバッグは品質が高く、平均98%の検査合格率を維持しています。製造現場でバッグに欠陥が見つかった場合、赤伝処理を行い、バッグは廃棄処分されます。

調達プロセス分析の結果、国内仕入先からのバッグの入荷、分類、検査、在庫移動などの余分なステップで把握していない費用があることがわかりました。そのため、これらのステップに関連する超過費用を分析し、仕入先ごとに超過費用を明確にしようと計画しています。

### 国内仕入先からのバッグの調達

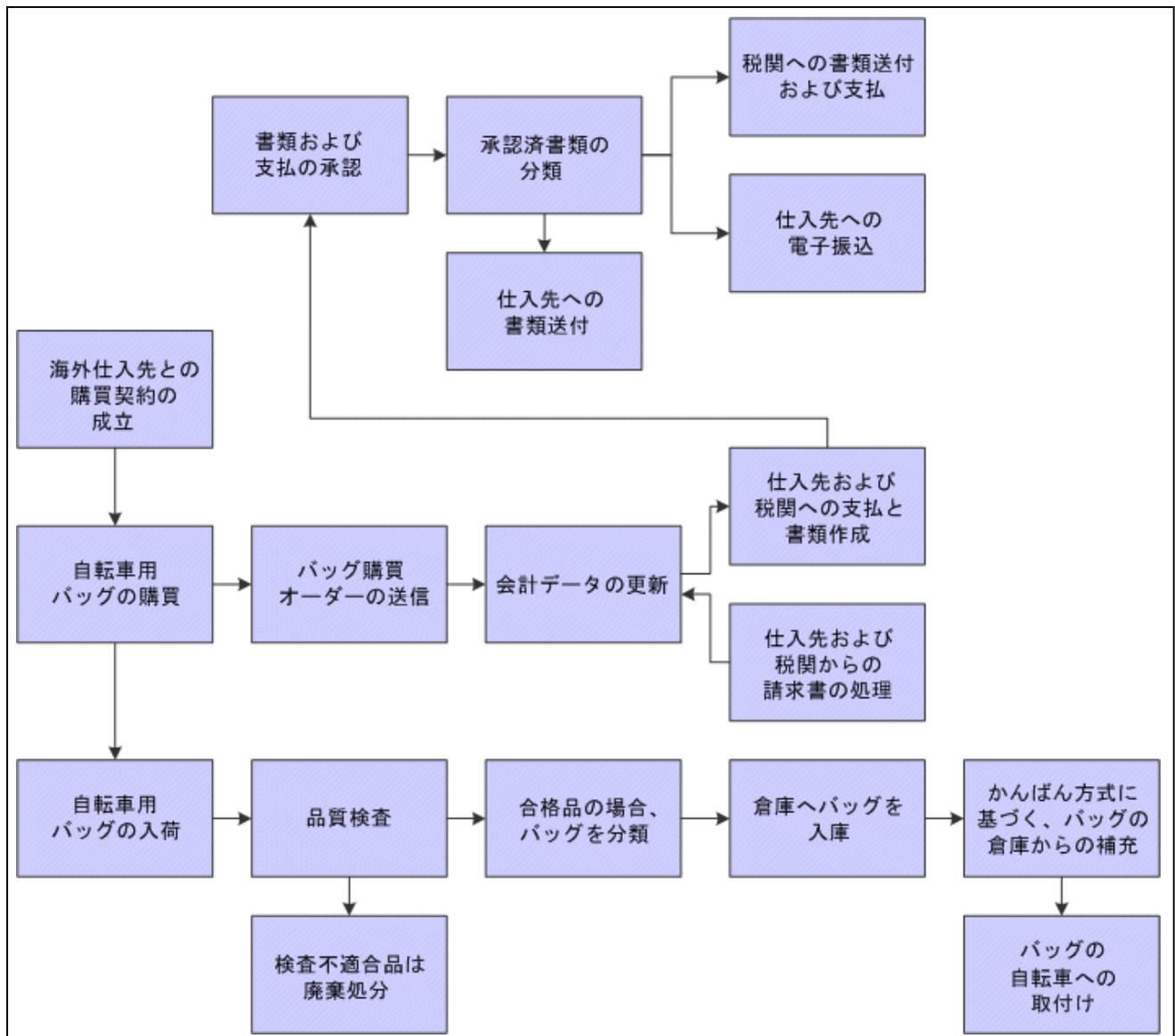
次の図は国内仕入先からのバッグの調達プロセスを表しています。図の中の説明は、どのコスト・オブジェクトが調達プロセスの活動と関連しているかを説明しています。



国内仕入先からのバッグの調達

### 海外仕入先からのバッグの調達

次の図は海外仕入先からのバッグの調達プロセスを表しています。図の中の説明は、どのコスト・オブジェクトが調達プロセスの活動と関連しているかを説明しています。



海外仕入先からのバッグの調達

## 陸揚費用へのコスト・オブジェクト情報の入力について

品目を購入する際、配送料、業者手数料、輸入税などの追加費用が必要になる場合が多くあります。これらすべての費用が陸揚費用に含まれます。品目の陸揚費用は入荷処理時に入力できる他、個別の処理でも入力できます。

入荷情報を記録する品目に対してのみ、陸揚費用を計上できます。品目に加算できる陸揚費用は、設定済でその品目に割り当てられているもののみです。入荷する各品目に対して、陸揚費用を確認、変更、および入力できます。

品目の陸揚費用を入力すると、支払伝票の作成が必要な陸揚費用明細行が別個に作成される場合があります。明細情報の作成方法は、陸揚費用の設定によって異なります。陸揚費用明細行は、「伝票照合」フォームで確認できます。

入荷処理時に、陸揚費用としてコスト・オブジェクト情報を入力できます。勘定科目マスター (F0901) に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。次に、任意勘定規則を検索し、どのAAIまたは勘定科目が自動入力されたかを確認します。

## 購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要とその方法について説明します。

### 購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力について

「オーダー明細」フォームに、調達する品目またはサービスについての情報を入力します。各品目またはサービスに対して明細行を入力する必要があります。明細行には次の項目があります。

- 調達する品目とサービス
- 調達する品目の数量
- 品目およびサービスの仕入原価

各品目の仕入原価、記述、単位などの情報は自動的に明細行に表示されます。これらの値を変更したり、保管場所、ロット番号、資産ID、製造詳細、および陸揚費用規則などの追加情報を設定したりすることができます。

購買オーダー入力の際、コスト・オブジェクト情報を入力する方法と、任意勘定規則に基づいてコスト・オブジェクトを自動的に入力する方法があります。

### 購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出し	W4310A	「購買オーダー処理」 (G43A11)、「購買オーダーの入力」  「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	購買オーダー入力でのコスト・オブジェクト情報を入力します。

### 購買オーダー見出しへのコスト・オブジェクト情報の入力

「オーダー見出し」フォームにアクセスします。

購買オーダーの入力 - オーダー見出し

OK(O) 取消(L) フォーム(E) ツール(D)

オーダー見出し 追加プロパティ カテゴリ・コード

オーダー番号  OP  事業所

通貨  為替レート  基本   外貨

住所番号  日付

仕入先  オーダー日付

出荷先  要求日付

購買担当者  約束納入日付

運送業者  取消日付

支払備考

記述

印刷メッセージ

税目コード  保留コード  ブランク - 保留コード 42/HC

税率/税域

免税証明  留保率

税ID  発注担当者  JPN1

納税者区分  受注担当者番号

支払条件  Net 30 Days AIA文書  Y

メッセージ

「オーダー見出し」フォーム

購買オーダー入力時にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

- 「オーダー明細」フォームで、各コスト・オブジェクトについて次のフィールドに値を入力します。
  - 品目 No.
  - コスト・オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - コスト・オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - コスト・オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - コスト・オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
- 「OK」をクリックします。

## 入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要とその方法について説明します。

### 入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力について

商品の入荷後は入荷明細を記録する必要があります。入荷情報は次の処理に使用されます。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの品目数量および原価の更新
- 勘定科目の更新

商品入荷時に、入荷明細が購買オーダー情報に一致していることを確認する必要があります。確認する項目は、品目番号、数量、単位、仕入原価などです。入荷明細が購買オーダーの明細と異なる場合、入荷を反映させるために購買オーダーの明細行を調整します。たとえば、配送費や輸入関税などの陸揚費用を品目の購買価額に反映させる場合、入荷処理時にそれらの費用を入力します。

商品の入荷処理では、次の処理が実行されます。

- 入荷確認テーブル(F43121)への入荷レコードの作成
- 品目保管場所テーブル(F41021)の品目数量および原価の更新
- 品目元帳テーブル(F4111)への新規レコードの追加
- 取引明細テーブル(F0911)の該当する勘定科目の更新

購買オーダー入力時にコスト・オブジェクト情報を入力した場合、入荷処理時にコスト・オブジェクト・タイプ、編集コード、品目情報を確認できます。また、入荷処理時にはコスト・オブジェクト情報も入力できます。勘定科目マスター(F0901)に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。処理オプションで任意勘定科目を使用するように設定した場合、任意勘定規則に基づいてコスト・オブジェクトが自動入力されます。

入荷確認プログラムの処理オプションで任意勘定科目を使用するように設定してください。

### 関連タスク

次の表は、関連タスクの一覧です。

タスク	説明
入荷戻し処理におけるコスト・オブジェクト情報の確認	<p>入荷の取消または戻し処理を行うと、入荷確認テーブル(F43121)が更新されます。この場合、対象となるすべての会計取引と在庫取引に対して逆仕訳が行われます。入荷の戻し処理を行うと、コスト・オブジェクト情報も逆仕訳されます。コスト・オブジェクトの逆仕訳には、初期値が使用されます。</p> <p>入荷伝票をまだ作成していない場合にかぎり、入荷確認照会プログラム(P4312)を使用して入荷戻し処理を実行できます。誤った処理の訂正を行う場合にも、この処理を実行します。</p>

## 入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買オーダー入荷の処理	W4312F	「購買オーダー処理」(G43A11)、「入荷確認(購買オーダー別)」	入荷確認でコスト・オブジェクト情報を入力します。

## 入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力

「購買オーダー入荷の処理」フォームにアクセスします。

入荷確認時にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

- 「購買オーダー入荷の処理」フォームで、次のフィールドに値を入力し、入荷に対する未決済の購買オーダーの明細行を検索します。
  - ・ オーダーNo.
  - ・ 事業所
  - ・ 品目No.
  - ・ 勘定科目コード

処理オプションで指定したものと同一次状況コードを持つ明細行のみが表示されます。
- 詳細グリッドのレコードを選択し、「選択」をクリックします。
- 「入荷確認」フォームで、次のフィールドに値を入力します。
  - ・ 品目番号
  - ・ コスト・オブジェクト・タイプ1
  - ・ コスト・オブジェクト1
  - ・ コスト・オブジェクト・タイプ2
  - ・ コスト・オブジェクト2
  - ・ コスト・オブジェクト・タイプ3
  - ・ コスト・オブジェクト3
  - ・ コスト・オブジェクト・タイプ4
  - ・ コスト・オブジェクト4

## 購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力の概要とその方法について説明します。

### 入荷確認時のコスト・オブジェクト情報の入力について

各仕入先に対してそれぞれ購買オーダーを入力するかわりに、同時に複数の仕入先に対して購買オーダーを入力できます。「購買オーダー・ワークベンチ」フォームで、購買する品目、および各品目の仕入先を指定します。

品目の入力後、購買オーダーを作成してください。各購買オーダーの仕入先ごとに品目と品目マスターにある明細行のデフォルト情報、または仕入先の購買指示が関連付けられます。自動作成された購買オーダーは、「オーダー見出しの処理」フォームで確認できます。

購買オーダー入力時にコスト・オブジェクト情報を入力すると、入荷、陸揚費用、伝票を処理するときコスト・オブジェクト・タイプ、編集コード、品目情報を確認できます。勘定科目マスター(F0901)に定義されているコスト・オブジェクト・タイプとコスト・オブジェクト編集コードが検証されます。

## 購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買オーダー・ワークベンチ	W43101B	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダー・ワークベンチ」	購買オーダー・ワークベンチにコスト・オブジェクト情報を入力します。

## 購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力

「購買オーダー・ワークベンチ」フォームにアクセスします。

購買オーダー・ワークベンチにコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

- 「購買オーダー・ワークベンチ」フォームで、必要に応じて次の各コスト・オブジェクトのフィールドの値を確認または入力します。
  - 品目 No.
  - コスト・オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - コスト・オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - コスト・オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - コスト・オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4
- 品目を購入する仕入先ごとに購買オーダーを自動生成するには、「OK」をクリックします。  
個別の購買オーダーを自動生成しない場合、「購買オーダー・ワークベンチ」を終了する前に、その購買オーダーを取り消す必要があります。

## 伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力

この項では、伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力の概要、事前設定、および伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力方法について説明します。

## 伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力について

購入した商品およびサービスに対して仕入先に支払を行う前に、次の内容の伝票を作成する必要があります。

- 取引条件が満たされている。
- 仕入先に対する支払額が指定されている。
- 小切手の振出しをJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムへ通知する。

請求書を基に伝票を作成できます。この方法では、請求書情報が入荷レコードに一致しているかどうか確認します。たとえば、仕入先から100.00ドル(USD)の商品に対する請求があった場合、受け取った商品に100.00ドル分の価値があることを確認する必要があります。入荷情報を記録しない場合は、請求書の内容が購買オーダーの明細行に一致していることを確認します。

通常は、支払伝票を作成する前に入荷レコードを確認します。その場合、入荷レコードの検索後、入荷した品目の陸揚費用(商品取得のための付随費用)を入力できます。

商品やサービスの入荷前に請求書を受け取った場合は、請求された金額の仮伝票を作成できます。請求書の商品またはサービスを入荷した後に、該当する勘定科目にその金額を振り替えることができます。

伝票照合時にコスト・オブジェクト情報を入力できます。また、任意勘定規則に基づいて、コスト・オブジェクト情報を自動入力することもできます。

### 関連タスク

次の表は、関連タスクの一覧です。

タスク	説明
伝票照合方法	<p>品目の入荷情報を記録する場合は、請求書と入荷レコードを比較してから、個別の伝票を作成します。3方向伝票照合方法を採用した場合、伝票作成時に入荷レコードが必要です。</p> <p>入荷情報を記録しない場合は、請求書と購買オーダーの明細行を比較してから、伝票を作成します。2方向伝票照合方法を採用した場合、伝票作成時に購買オーダーの明細行が必要です。購買オーダーの明細行と請求書が一致した場合に伝票が作成されます。</p>

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、伝票照合処理を行うように処理オプションを設定します。

## 伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票照合	W4314A	<p>「入金照合/転記」(G43A15)、「未処理入荷と伝票の照合」</p> <p>「仕入先元帳照会」フォームで、「追加」をクリックします。</p>	伝票照合でコスト・オブジェクト情報を入力します。

## 伝票照合時のコスト・オブジェクト情報の入力

「伝票照合」フォームにアクセスします。

伝票照合時にコスト・オブジェクト情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「伝票照合」フォームで、伝票の作成、または伝票と入荷情報の照合に必要な情報を入力します。  
コスト・オブジェクト情報を入力しない場合、コスト・オブジェクトは任意勘定規則に基づいて自動的に入力されます。
2. コスト・オブジェクト情報を入力または確認するには、次のフィールドに値を入力します。
  - 品目 No.
  - コスト・オブジェクト・タイプ1
  - コスト・オブジェクト1
  - コスト・オブジェクト・タイプ2
  - コスト・オブジェクト2
  - コスト・オブジェクト・タイプ3
  - コスト・オブジェクト3
  - コスト・オブジェクト・タイプ4
  - コスト・オブジェクト4



## 第 13 章

# 受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

この章では、受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング、受注オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力、および売上更新時のコスト・オブジェクト情報の更新の概要について説明します。

---

## 受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング

受注オーダーの入力時および受注オーダー情報の更新時に、コスト・オブジェクト情報を取得できます。売上更新プログラム (R42800) を使用すると、管理会計や活動基準原価計算に必要なコスト・オブジェクト情報を取得できます。

### 例: 流通管理システムにおけるコスト管理

自転車の流通業者である会社200では、収益と費用を、顧客、製品ファミリー、および販売チャネルに割り当てて分析したいと考えています。しかし、今までの伝統的な会計手法では、顧客、製品ファミリー、流通チャネル別の収益性の分析に必要な情報を得ることは不可能でした。会社200では、次の作業を計画しています。

- 早期納入費用の発生する顧客の把握
- 販売促進費と顧客および販売チャネルとの関連付け
- セールス担当者の客先訪問にかかる費用の販売チャネルへの割当
- IT関連費の販売チャネルへの再配賦
- ロゴマーク印刷の顧客および販売チャネル別収益性分析

この管理会計の例では、顧客、製品ファミリー、販売チャネル別の収益性を分析することに焦点を当てています。各取引はそれぞれ次のシステムから発生します。

- 支出 - 買掛管理
- 売上 - 受注管理
- カスタマ・サービスのための追加費用 - 売掛管理
- IT関連費のマーケティング活動への再請求 - コスト・アナライザ
- 出荷諸掛り - コスト・アナライザ

会社200では、卸売業者および小売業者に対してバッグ付きの自転車を販売しています。小売業者は、専門店またはディスカウント店です。ディスカウント店からは、バッグなしの自転車が頻繁に注文されます。セールス担当者は折衝のために客先を訪問し、次の事項の合意をとりつけます。

- 自転車用バッグへの客先仕様ロゴマークの印刷

- 出荷処理の迅速化
- 広告宣伝費の配賦

顧客がバッグに客先仕様ロゴマークの印刷を希望する場合は、仕入先に小額の手数料を支払ってロゴマークを印刷してもらいます。会社200は、ロゴマークの印刷を注文する顧客および販売チャンネルを明確化し、その費用を請求しようと考えています。

客先仕様ロゴマークの印刷費の請求書を受け取ると、顧客と合意済のバッグ1つ当たりの印刷料とその数量に基づいて請求金額を計算し、売掛管理システムに入力します。会社200では、顧客別および販売チャンネル別に、ロゴマーク印刷の収益性分析を計画しています。

顧客から商品の注文があると、注文数と重量に基づいて標準の出荷諸掛りを顧客に請求します。ただし、顧客から早期の納品を求められることもあります。この場合、運送業者から請求書を受け取ると、それを顧客に請求することなく部門共通費の出荷費用として計上しています。このような運送費は、結果として売上高の控除項目となるため、完全に回収されているとは考えられません。そのため、超過運送費を発生させている顧客を特定したいと考えています。

マーケティング部門は、年間を通して各種の販売促進活動を行っています。販売促進費は、一般管理費に計上されます。販売促進活動には、一般型と特化型の2種類があります。

特化型の販売促進活動は次のとおりです。

- 製品ファミリー向け
- 販売チャンネル向け
- 顧客
- 提携大口顧客(販売代理店)向け

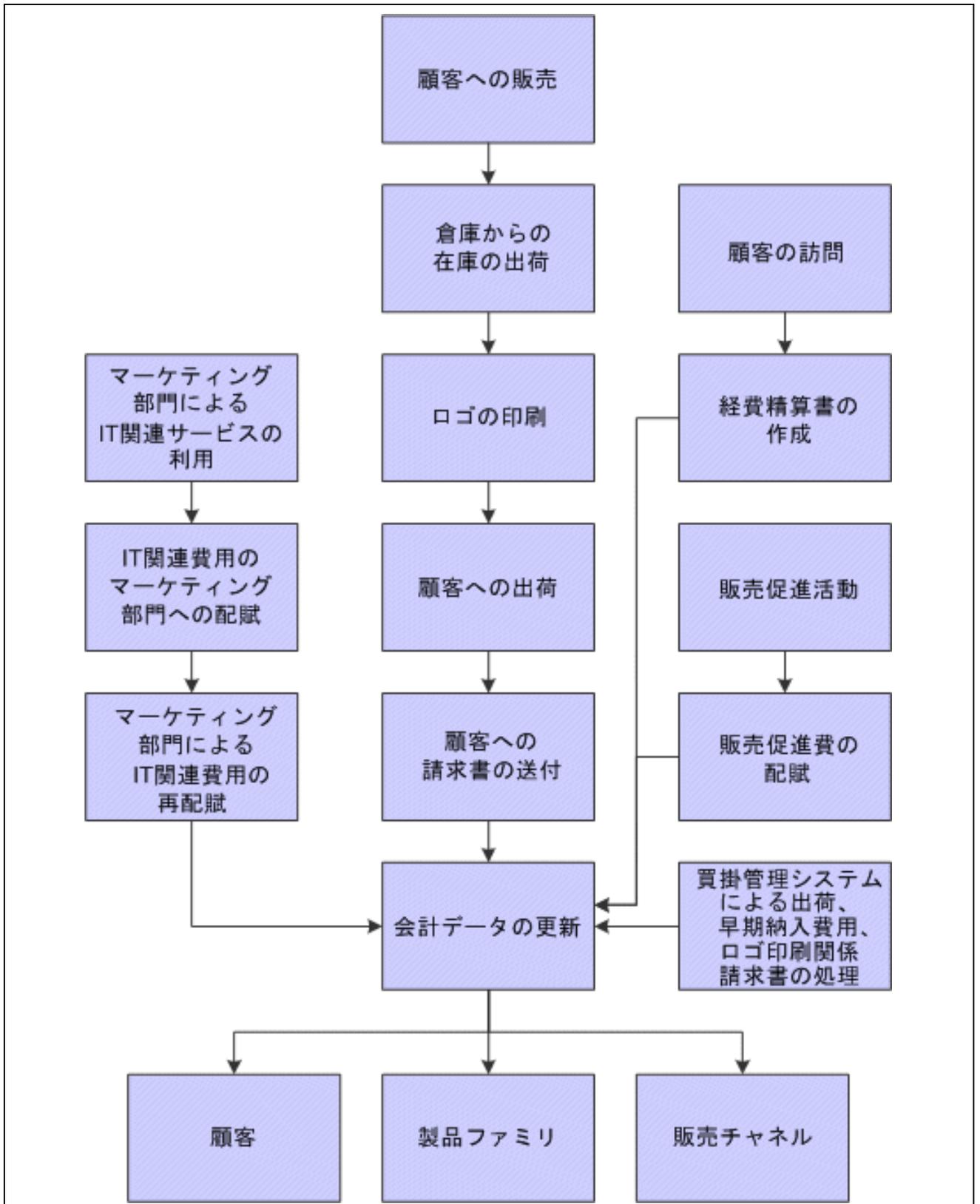
会社200では、販売促進費を各顧客および販売チャンネルへ直接関連付けることを計画しています。

マーケティング担当者とセールス担当者は、顧客を頻繁に訪問しています。客先訪問の経費は、旅費出張費や交際費に計上されます。会社200は、この客先訪問にかかる経費を顧客と販売チャンネルへ直接関連付けることを計画しています。

会社200の各部門は、集中管理されたコンピュータ・システムを利用しています。IT部門では、ネットワークへのアクセス時間に応じて、IT関連費を各部門に配賦しています。マーケティング部門では、請求された1か月分のIT関連費用の一部を、マーケティング担当者数に応じて各販売チャンネルに再配賦しようと計画しています。

顧客、製品ファミリー、および販売チャンネルごとに収益性を分析するために、まず、顧客、製品ファミリー、および販売チャンネルにコスト・オブジェクトを割り当てます。次に、直接費と間接費を各コスト・オブジェクトに関連付けます。

次の図は、会社200の流通プロセスを説明しています。



流通プロセス

## 受注オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力

受注オーダーからコスト・オブジェクト情報を取得する際には、受注オーダー明細テーブル(F4211)の各フィールドの値を基にしてドライバ・ボリュームを計算できます。たとえば、顧客ごとの受注オーダー数に基づいてドライバ・ボリュームを計算できます。コスト・オブジェクト規則で各フィールドを定義できるため、受注オーダーにそれ以上のコスト・オブジェクト情報を入力する必要はありません。任意勘定規則を使用して、特定のデータ項目に関するコスト・オブジェクト情報、および各アプリケーションに関連するコスト・オブジェクト規則が自動的に取得されます。

## 売上更新時のコスト・オブジェクト情報の更新

顧客売上更新プログラムは、仕訳を転記するために各取引をバッチ・タイプ別にグループ化します。コスト・オブジェクト情報を正確に記録するには、顧客売上高、在庫データおよび売上原価に関する仕訳がすべて詳細に転記されている必要があります。

顧客売上更新プログラムを実行すると、取引は次のバッチにグループ化されます。

バッチ	説明
顧客売上(バッチ・タイプIB)	売上高、売上原価および在庫に関する仕訳を顧客売上元帳へ転記します。  売上更新プログラム(R42800)の集計処理オプションが、集計または明細形式で仕訳を書き込むように設定されている場合、バッチ・タイプIBが作成されます。
在庫/売上原価(バッチ・タイプG)	在庫/売上原価元帳への転記を行います。  売上更新プログラム(R42800)の集計処理オプションが、売上原価および在庫の仕訳を集計して個別のバッチを作成するように設定されている場合、在庫および売上原価の仕訳に対してバッチ・タイプGが作成されます。

売上更新プログラム(R42800)の処理オプションで、販売見出しと販売明細をそれぞれの実績テーブルに書き込んでから除去するように設定した場合は、受注実績テーブル(F42119)に基づいてドライバ計算を行ってください。

処理オプションで任意勘定科目を使用するように設定した場合、コスト・オブジェクトの自動入力方法を確定する任意勘定規則が検索されます。

## 第 14 章

# 輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの概要と使用方法について説明します。

---

## 輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングについて

運賃を更新する際、コスト・オブジェクト情報を取得できます。運賃の更新処理により、出荷と積荷で発生した、最終的な支払運賃と請求運賃に関するレコードが作成されます。支払運賃は、仕訳の形で総勘定元帳の、自動決済を行う運送業者の買掛金勘定の支払項目として書き込まれます。運賃の請求は、(顧客の指示に従って) 出荷または積荷により発生する1つ以上の受注オーダーに加算されます。運賃は料金コード・レベルで集計されます。

出荷が行われると、出荷関連データは、出荷見出しテーブル(F4215)および出荷経路ステップ・テーブル(F4941)に保存されます。運賃の情報はすべて、出荷料金テーブル(F4945)に保存されます。運賃に関するデータを更新すると、これら3つのテーブルからのデータが運賃監査履歴テーブル(F4981)に書き込まれます。支払運賃および請求運賃に対し、出荷料金テーブルのレコードが削除され、出荷経路ステップ・テーブルが更新されます。

支払運賃については、総勘定元帳の取引明細テーブル(F0911)が更新されます。自動支払フラグがオンの場合、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの買掛金元帳テーブル(F0411)が更新されます。運賃の請求額については、受注オーダー明細テーブル(F4211)が更新されます。処理オプションで任意勘定科目を使用するように設定した場合、任意勘定規則が検索され、コスト・オブジェクトのフィールドに値が自動入力されます。

出荷物の総重量と数量に対する各品目の構成比に応じて出荷運賃を配賦するには、料金に割り当てた適切な料金コードに対して運賃配賦機能をオンにしておく必要があります。

---

**注意:** 運賃更新プログラム(R4981)の処理オプションで、任意会計規則を使用可能にする必要があります。

---

---

## 輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

「更新」(G49112)の「運賃の更新」を選択します。

運賃を更新する際、コスト・オブジェクト情報を取得できます。運賃の更新処理により、出荷と積荷で発生した、最終的な支払運賃と請求運賃に関するレコードが作成されます。支払運賃は、仕訳の形で総勘定元帳の、自動決済を行う運送業者の買掛金勘定の支払項目として書き込まれます。運賃の請求は、(顧客の指示に従って) 出荷または積荷により発生する1つ以上の受注オーダーに加算されます。運賃は料金コード・レベルで集計されます。

出荷が行われると、出荷関連データは、出荷見出しテーブル(F4215)および出荷経路ステップ・テーブル(F4941)に保存されます。運賃の情報はすべて、出荷料金テーブル(F4945)に保存されます。運賃に関するデータを更新すると、これら3つのテーブルからのデータが運賃監査履歴テーブル(F4981)に書き込まれます。支払運賃および請求運賃に対し、出荷料金テーブルのレコードが削除され、出荷経路ステップ・テーブルが更新されます。

支払運賃については、総勘定元帳の取引明細テーブル(F0911)が更新されます。自動支払フラグがオンの場合、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの買掛金元帳テーブル(F0411)が更新されます。運賃の請求額については、受注オーダー明細テーブル(F4211)が更新されます。処理オプションで任意勘定科目を使用するように設定した場合、任意勘定規則が検索され、コスト・オブジェクトのフィールドに値が自動入力されます。

出荷物の総重量と数量に対する各品目の構成比に応じて出荷運賃を配賦するには、料金に割り当てた適切な料金コードに対して運賃配賦機能をオンにしておく必要があります。

---

**注意:** 運賃更新プログラム(R4981)の処理オプションで、任意会計規則を使用可能にする必要があります。

---

## 第 15 章

# 在庫評価元帳更新におけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方

この章では、在庫評価元帳更新(R39130)におけるコスト・オブジェクト・トラッキングの概要と次の方法について説明します。

- 在庫評価元帳更新プログラムの実行
- 在庫評価元帳更新の処理オプションの設定

---

## 在庫評価元帳更新におけるコスト・オブジェクト・トラッキングについて

在庫評価元帳更新プログラム(R39130)は、総勘定元帳の更新方法として定義した評価方法に従って総勘定元帳を更新します。また、このプログラムは品目番号または品目プールごとに、同一の評価方法に基づいて総勘定元帳を更新します。

品目または品目プールごとに、勘定科目マスター(F0901)で定義されているコスト・オブジェクト・タイプおよびコスト・オブジェクト編集コードが確認されます。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインストールされている場合は、各品目の入力時に品目マスター(F4101)のコスト・オブジェクト情報が編集されます。

期間作成プログラムでは、更新する金額が計算されます。また、次の会計期間のレコードが、期間明細テーブル(F39120W)および追加数量テーブル(F39121W)に作成されます。これらのレコードには、次の会計期間への繰越残高が保存されます。2重通貨を採用している場合、プログラムは基準通貨を使用して総勘定元帳にレコードを書き込みます。

総勘定元帳の更新が承認されたら、レコードを総勘定元帳に転記できます。総勘定元帳への転記により在庫評価プロセスは完了し、期末在庫評価額の実績値が転記されます。

在庫評価元帳更新プログラムの実行時にコスト・オブジェクト情報を自動入力するには、任意勘定規則を使用する必要があります。

---

## 在庫評価元帳更新プログラム(R39130)の実行

「在庫評価更新」(G3930)の「在庫評価元帳更新」を選択します。

## 在庫評価元帳更新 (R39130) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト・タブ

1. 更新/テスト・モード  
レポートをテスト・モードで実行するか、更新モードで実行するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: テスト・モード。更新は行われません。  
1: 更新モード。仕訳が作成され、期間明細テーブルに更新フラグが設定されます。

### 処理

1. 元帳日付  
レポートを実行する日付を指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 現在の日付を使用してレポートを実行します。  
1: 元帳日付を使用してレポートを実行します。
2. 伝票タイプ  
システムで使用される伝票タイプ (UDC 00/DT) を指定します。この処理オプションをブランクにすると、伝票タイプ JE が使用されます。
3. 国内通貨元帳タイプ  
システムで使用される国内通貨元帳タイプ (UDC 09/LT) を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ AA が使用されます。
4. 2重通貨元帳タイプ  
2重通貨が有効なときに、2重通貨が使用される元帳タイプ (UDC 09/LT) を指定します。この処理オプションをブランクにすると、元帳タイプ XA が2重通貨に使用されます。
5. 仕訳の集計  
明細仕訳と勘定科目別集計仕訳のどちらを作成するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 明細仕訳を作成します。  
1: 勘定科目別集計仕訳を作成します。
6. バージョンID  
使用される総勘定元帳仕訳入力プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。
7. FIFO (先入先出) 階層の積上げ  
残りの FIFO 階層を年度末処理で積み上げるかどうか指定します。LIFO 評価では、必ずすべての階層が年度末に積み上げられ、翌年度の期首残高に単一の階層として集計されます。FIFO 評価で1つの階層に積み上げるには、このオプションに「1」を入力します。入力しなかった場合は、FIFO 評価は1つの階層に積み上げられません。値は次のとおりです。  
ブランク: 残りの FIFO 階層を積み上げない。  
1: 残りの FIFO 階層を積み上げる。

### 設定

- 日付編集  
日付の編集を省略するかどうかを指定します。たとえば、前年度のデータを本稼働環境にロードする場合などは、データの初期設定時のみ日付編集が行われないように指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 日付編集を行う。

1: 日付編集を行わない。



## 第 16 章

# コスト・アナライザ残高の使い方

この章では、コスト・アナライザ残高の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- コスト・アナライザ情報の更新
- コスト・アナライザ残高の表示
- コスト・アナライザ残高の除去
- コスト・オブジェクト別収益性の検討

---

## コスト・アナライザ残高について

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne一般会計、調達管理など、様々なシステムに入力したコスト・オブジェクト情報は、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する必要があります。F1602テーブルには、すべての取引、割当、および活動残高が保存されます。コスト・オブジェクト情報に関して、配賦、データ・レポート作成、オンライン照会を行うには、F1602テーブルを更新する必要があります。

コスト・アナライザ残高への転記プログラム(R1602)を実行して、F1602テーブルを更新します。更新後は、ソース・データに影響を与えずに、様々な状況を仮定したレポートを実行し、オンライン照会を行うことができます。

---

**注意:** F1602テーブルに保存できる金額の通貨は、1種類だけです。コスト・アナライザ残高への転記プログラムでは複数の通貨で検討が行われますが、転記は1つの通貨のみで行われます。

---

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析には、F1602テーブルに基づいた次の財務レポートがあります。

- 品目収益性分析レポート(R16022)
- 顧客収益性分析レポート(R16028、バージョンXJDE0001)
- 販売促進収益性分析レポート(R16028、バージョンXJDE0002)
- コスト・オブジェクト別収益性分析レポート(R16023)
- コスト・オブジェクト別損益計算書(R16024)
- コスト・オブジェクト別試算表(R16025)
- コスト・オブジェクトの主科目別試算表(R16026)

F1602テーブルに基づいた財務レポートは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneレポート・ライティング・アプリケーションを使用して作成することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析には、3つのオンライン照会プログラムがあります。次の表に説明されているとおり、オンラインで情報を表示できます。

照会プログラム	入手可能な情報
コスト・アナライザの照会 (P1602)	転記額や年累計残高など、選択したデータの詳細
勘定科目別コスト・アナライザの照会 (P16021)	勘定科目別の当初残高および累計残高
コスト・アナライザ取引明細の照会 (P16200)	レコードの当初バッチおよび当初仕訳

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- コスト・アナライザ・ビューを設定したか確認します。
- 仕訳を作成したか確認します。
- コスト・オブジェクトを設定したか確認します。

参照: 第 2 章、「収益性分析の設定」、「コスト・オブジェクト・タイプの設定」、16 ページ

## コスト・アナライザ情報の更新

コスト・アナライザ・ビューを設定すると、手入力または自動で取引をF1602テーブルに保存できます。

この項では、コスト・アナライザ情報の更新の概要と次の方法について説明します。

- コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記
- コスト・アナライザ残高への転記 (R1602) の処理オプションの設定

### コスト・アナライザ情報の更新について

コスト・アナライザ残高への転記プログラムでは、取引明細テーブル (F0911) の取引を使用して、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) 内の該当するビューと会計年度のレコードを更新します。このプログラムでは、コスト・アナライザ・ビューの構造に基づいて、取引明細テーブルの情報をを使用してF0911テーブルに取引を作成します。コスト・アナライザ残高テーブルへの転記前に仕訳取引のエラーを検出して訂正するために、取引をまず勘定残高テーブル (F0902) に転記します。

処理オプションで、取引を転記するビューおよび会計年度を指定できます。転記済の元帳取引のみを選択することも、未転記の取引を含めることもできます。また、特定の取引を指定して転記することも可能です。

取引をF1602テーブルに転記するには、取引の手入力または自動仕訳の作成でF0911テーブルを更新する必要があります。

取引をF1602テーブルに転記すると、レポートが作成されます。このレポートには、選択された取引明細レコードの数、作成されたコスト・アナライザ残高レコードの数、および更新されたレコードの数が出力されます。

**重要:** 未転記の取引は、変更できます。F0911テーブルからF1602テーブルに取引を転記する際に、未転記の取引を含める場合は十分に注意してください。

## コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記

「コスト・アナライザ」(G1612)の「コスト・アナライザ残高への転記」を選択します。

## コスト・アナライザ残高への転記(R1602)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### ビュー番号

#### ビュー番号

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10の番号で指定します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。

たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

#### 会計年度

会計年度を識別する番号です。通常、このフィールドに数値を入力することも、空白にして「会社の設定」フォームで定義した現行会計年度を使用することもできます。会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。

### 選択

**転記済み取引明細レコード** イベントの処理タイプを指定します。だけでなく、未転記の取引明細レコードも選択するには、「1」を入力してください。空白の場合、転記済みレコードのみが選択されます。

参照: コスト・アナライザの照会(P1602)の処理オプションの設定

---

## コスト・アナライザ残高の表示

この項では、コスト・アナライザ残高の確認の概要、また、次の照会を利用したコスト・アナライザ残高の表示方法について説明します。

- コスト・アナライザの照会
- 勘定科目別コスト・アナライザの照会
- コスト・アナライザ取引明細の照会

## コスト・アナライザ残高の確認について

コスト・アナライザ残高を確認するには、次のプログラムを実行します。

- コスト・アナライザの照会 (P1602)
- 勘定科目別コスト・アナライザの照会 (P16021)
- コスト・アナライザ取引明細の照会 (P16200)

コスト・アナライザへの入力を確認するには、コスト・アナライザの照会プログラムを使用します。転記額や年累計残高など、選択したデータの詳細を確認できます。

勘定科目別の期首(当初)残高および累計残高を確認する場合、勘定科目別コスト・アナライザの照会プログラム (P16021) を使用できます。集計および明細形式で勘定科目情報を表示できます。

### コスト・アナライザの照会 (P1602)

コスト・アナライザへの入力を確認するには、コスト・アナライザの照会プログラムを使用します。期首転記額、期末残高、年累計残高など、選択したデータの詳細を確認できます。

原価計算プログラム (R1610) を実行すると、割当データが作成されます。この場合、期末残高は勘定科目、コスト・オブジェクト、活動から他へ再配賦されます。たとえば、総勘定元帳の給与の第6会計期間の合計が100,000.00ドルの場合、期首転記額および期末残高は100,000.00ドルになります。

第6会計期間の給与を資材の入荷および検査といった活動に再割当する場合、割当の計算プログラムによって、入荷および検査の活動コードを持つ2つの新しい給与レコードが作成されます。入荷および検査の期末残高の合計額は、第6会計期間の給与の期首転記額である100,000.00ドルになります。その結果、給与の期末残高はゼロになりますが、期首転記額は変更されません。

処理オプションを指定すると、原価計算取引テーブル (F1611) に監査証跡を残すかどうかを指定できます。監査証跡を残すことにより、割当前の残高(転記額)および割当後の残高(正味残高)を取引ごとに確認できます。「コスト・アナライザ残高」フォームでは、次の項目を検討できます。

- 当初転記年累計額: 取引明細テーブル (F0911) から取得した金額
- 期末残高: 当初転記額 + 加算割当額 - 減算割当額

### 勘定科目別コスト・アナライザの照会

「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームを使用して、勘定科目マスター (F0901) から勘定科目情報を取り込んだ後、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) から残高情報を取り込むことができます。

処理オプションを設定して、集計データを取得するときに使用されるデフォルト情報を指定できます。処理オプションを設定すると、「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームの見出し領域に、処理オプションで指定した勘定科目、コスト・オブジェクト、品目番号、補助元帳、および補助元帳タイプなどの値が表示されます。

勘定科目別の期首残高、正味残高、期末残高を確認する場合、勘定科目別コスト・アナライザの照会プログラム (P16021) を使用できます。勘定科目情報が集計または明細形式で、次のフォームに表示されます。

- 「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォーム。詳細レベルに基づいて、勘定科目ごとにビューの残高が表示されます。
- 「コスト・アナライザ明細」フォーム。特定の勘定科目の明細が表示されます。

集計フォームの「勘定科目別コスト・アナライザの照会」では、コスト・オブジェクトおよびコスト・オブジェクト・タイプ別に勘定残高を確認できます。このフォームには勘定科目全体の合計残高が表示されます。「コスト・アナライザ明細」フォームでは、「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームで選択した勘定科目の残高を入力できます。

コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) のデータの取得方法を指定するには、処理オプションまたはフォームの見出し領域に次の情報を入力します。

情報	説明
ビュー	勘定科目別コスト・アナライザの照会プログラムで、指定したビューの集計および明細情報を確認できます。
詳細レベル	<p>集計フォームの「勘定科目別コスト・アナライザの照会」では、勘定科目および勘定残高が指定された詳細レベルに従って集計されます。勘定科目マスター (F0901) のデータに基づいた情報が集計形式で表示されます。</p> <p>指定した詳細レベル以上の勘定科目が表示されます。たとえば、レベル3(集計)からレベル9(詳細)までの詳細レベルを指定できます。レベル5を指定すると、レベル3から5の勘定科目が表示されます。レベル6から9の勘定科目はレベル5の勘定残高に集計されます。指定した詳細レベルより大きい勘定科目の残高は、指定したレベルの勘定科目の残高に集計されます。</p>
差異	<p>「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームでは、「元帳タイプ1」と「元帳タイプ2」の差異の計算方法を指定できます。2つの元帳タイプを指定すると、差異金額と差異のパーセントが計算されます。</p> <p>差異の計算方法を指定して、「元帳タイプ1」と「元帳タイプ2」の差異を表示します。たとえば、計算方法を「加算」と指定した場合、元帳タイプ1の残高が元帳タイプ2の残高に加算され、その合計が差異カラムに表示されます。</p>
残高ゼロの非表示	<p>残高がゼロの勘定科目を非表示にすることができます。残高ゼロの勘定科目を非表示にしても、指定した詳細レベル以上のすべての勘定科目情報が取り込まれます。</p> <p>正味残高と当初残高のいずれかまたは両方を表示するように指定できます。</p>

## コスト・アナライザ明細

「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームのロー・エグジットから「コスト・アナライザ明細」フォームにアクセスできます。このフォーム上で、グリッドにコスト・オブジェクト名(記述)、コスト・オブジェクト・コード、その両方のうちのいずれを表示するかはカスタマイズ可能です。「コスト・アナライザ明細」フォームでは、「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームで選択した勘定科目の残高を入力できます。

「コスト・アナライザ明細」フォームの詳細グリッドには、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) の属性データが表示されます。選択した勘定科目の残高の詳細レベル(「コスト・アナライザ明細」フォームの見出し領域に表示)、正味残高と当初残高、勘定科目コード、コスト・オブジェクト、補助元帳名、品目番号などを表示できます。

## 取引の配賦元および配賦先

ロー・エグジットから「割当て履歴」フォームにアクセスすると、取引の割当状況を確認できます。たとえば、このフォーム上で、原価の割当先の勘定科目、原価の割当元の勘定科目のいずれかまたは両方を確認できます。また、コスト・オブジェクト、品目番号、および補助元帳タイプごとに割当内容を検討することも可能です。

## コスト・アナライザ取引明細の照会

コスト・アナライザ取引明細の照会プログラム(P16200)を使用すると、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する、取引明細テーブル(F0911)内のレコードの当初バッチおよび当初仕訳に関する情報を表示できます。

コスト・アナライザ取引明細の照会プログラムには、メニューオプションまたは勘定科目別コスト・アナライザの照会プログラム(P16021)からアクセスできます。勘定科目別コスト・アナライザの照会プログラムからコスト・アナライザ取引明細の照会プログラムにアクセスするには、当初残高がある、転記編集コードがN以外のレコードを選択する必要があります。

## コスト・アナライザ情報の表示に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コスト・アナライザ残高の処理	W1602B	「コスト・アナライザ」(G1612)、「コスト・アナライザの照会」	F1602テーブル内の仕訳を表示します。
コスト・アナライザ残高	W1602A	「コスト・アナライザ残高の処理」フォームでレコードを選択します。	F1602テーブルの期首転記額、期末残高、年累計残高など、選択したデータの詳細を表示します。
勘定科目別コスト・アナライザの照会	W16021A	「コスト・アナライザ」(G1612)、「勘定科目別コスト・アナライザの照会」	勘定科目別の期首残高および正味残高を表示します。
取引明細の処理	W16200A	「コスト・アナライザ」(G1612)、「コスト・アナライザ取引明細照会」	コスト・アナライザの取引明細残高を表示します。

## コスト・アナライザの照会を使用した残高の表示

「コスト・アナライザ残高」フォームにアクセスします。

コスト・アナライザの照会 - コスト・アナライザ残高 i ?

取消(C) ツール(T)   
✕ ✎

ビューNo.  Profit & Loss by Customer

会計年度  元帳タイプ  実績金額

勘定科目コード

品目

活動コード

コスト・オブジェクト 期首転記額 期末残高

コスト・オブジェクト・タイン	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト・タイン	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト・タイン	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト・タイン	<input type="text"/>	<input type="text"/>
補助元帳タイプ	<input type="text"/>	<input type="text"/>

「コスト・アナライザ残高」フォーム

**ビューNo.**

取引明細テーブル (F0911) のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) に転記する方法を1から10までの番号で入力します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード (PM01からPM10) を転記済に更新するかも指定されます。

たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

**会計年度**

2008など、会計年度と西暦の上2桁を連結して示す数字を入力します。

**元帳タイプ**

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)を入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

**勘定科目コード**

総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。

標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)。

第3勘定科目(最大25桁)。

略式ID。8桁の数字です。

スピード・コード(AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。

最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。

<b>品目</b>	<p>在庫品目番号を入力します。EnterpriseOneでは、代替品目番号、置換品目、バーコード、顧客番号、仕入先番号などを利用するために、3種類の品目番号、および他の品目番号との拡張相互参照機能(データ項目XRTを参照)が提供されています。有効な品目番号は、次のとおりです。</p> <p>略式品目番号: 8桁の番号で、自動的に割り当てられます。</p> <p>第2品目番号: 25桁の番号で、英数字を使用して自由形式でユーザーが定義できます。</p> <p>第3品目番号: 25桁の番号で、英数字を使用して自由形式でユーザーが定義できます。</p>
<b>コスト・オブジェクト・タイプ1</b>	<p>設備品目番号や住所録番号などのコスト・オブジェクト・コードを入力します。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および検証方法は補助元帳フィールドと同様です。ただし、コスト・オブジェクト・コード・フィールドのデータは、勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。</p>
<b>補助元帳/タイプ</b>	<p>総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。</p>
<b>期首転記額01</b>	<p>会計期間中に転記された正味金額を表す数字を入力します。会社固定情報テーブル(F0010)の会計期間が使用されます。正味転記額は、期間の開始日付から終了日付までの借方金額と貸方金額の合計です。</p>
<b>期首転記額 - 年累計、期末残高 - 年累計</b>	<p>現在の会計年度の初日から当月または当期の最終日までの全転記額の合計を入力します。</p> <p>勘定残高テーブル(F0902)の期間合計は、年累計額の計算に使用されません。</p>
<b>期末残高01</b>	<p>特定の会計期間の正味残高を示す数字を入力します。これは、取引明細テーブル(F0911)からコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記された当初金額に、この残高に配賦された金額を加算/減算したものです。金額の割当には、原価計算プログラム(R1610)を使用します。</p>

## コスト・アナライザの照会(P1602)の処理オプションの設定

コスト・アナライザの照会(P1602)の処理オプションとコスト・アナライザ残高への転記(R1602)の処理オプションは同じです。

参照: コスト・アナライザ残高への転記(R1602)の処理オプションの設定

## 勘定科目別コスト・アナライザの照会(P16021)を使用した残高の表示

「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームにアクセスします。

## 勘定科目別コスト・アナライザの照会(P16021)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### オプション

1. ビュー番号  
取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10の番号で指定します。この番号により、

F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

**2. 勘定科目の詳細レベル(3-9)を入力してください。空白の場合、9がデフォルトで設定されます。**

総勘定元帳の勘定科目を詳細レベル別に集計して分類する番号を指定します。最も詳細度が高いのがレベル9で、最も詳細度が低いのがレベル1です。レベル1と2は会社とビジネスユニットの合計用に予約されています。レベル8と9は、作業原価システムの作業原価転記勘定用に予約されています。これ以外に次のレベルがあります。

- 3: 資産、負債、収益、費用
- 4: 流動資産、固定資産、流動負債
- 5: 現金、売掛金、在庫、給与
- 6: 小口現金、銀行預金、売掛金
- 7: 小口現金(支社別、部門別など)
- 8: 明細
- 9: 明細

詳細レベルの間を空けてレベルを勘定科目に割り当てないでください。詳細レベルが連続していないと、集計エラーが発生して正確な財務レポートが作成されない場合があります。

**3. ビジネスユニットのデフォルト値を入力してください。空白の場合、アスタリスク(\*)がデフォルトで設定されます。**

費用のトラッキング対象となる事業単位を識別する英数字のコードを指定します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

**4. 元帳タイプ1および2のデフォルト値を入力してください。空白の場合、デフォルトの元帳タイプ1はAA、元帳タイプ2は空白となります。**

AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)など、元帳のタイプ(09/LT)を指定します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

## コスト・オブジェクト

**1. コスト・オブジェクト、品目、コスト・オブジェクト・タイプのデフォルト値を入力してください。空白の場合、すべてのコスト・オブジェクト、品目、コスト・オブジェクト・タイプが表示されます。**

### コスト・オブジェクト

設備品目番号や住所録番号などのコスト・オブジェクト・コードを指定します。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および検証方法は補助元帳フィールドと同様です。ただし、コスト・オブジェクト・コード・フィールドのデータは、勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。

### コスト・オブジェクト・タイプ

コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定します。有効なタイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保管されており、コス

2. 勘定残高の計算に使う補助元帳と補助元帳タイプを入力してください。ブランクの場合、ブランクの補助元帳と補助元帳タイプがデフォルトで設定されます。

ト・オブジェクト・タイプ・プログラム (P1620) を使ってタイプの追加や変更が可能です。

総勘定元帳の勘定科目を細分化して補助的に使用する科目を識別するコードを指定します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。

補助元帳フィールドと併用するユーザー定義コード (00/ST) で、補助元帳タイプと補助元帳編集の実行方法を識別します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次の値があります。

A: 英数字フィールド (編集しない)

N: 数字フィールド (右に揃え、ゼロで埋める)

C: 英数字フィールド (右に揃え、ブランクで埋める)

## 会計年度と期間のデフォルト値

1. 元帳タイプ1のデフォルトの会計年度、開始期間、終了期間を入力してください。、2. 元帳タイプ2のデフォルトの会計年度、開始期間、終了期間を入力してください。

コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) から勘定残高を取得する会計年度の下2桁、開始期間、終了期間を指定します。たとえば、2008年の場合は「08」と入力します。このフィールドをブランクにすると、勘定残高は表示されず、エラー・メッセージが表示されます。

## 勘定残高オプション

1. 残高ゼロの勘定科目の転記を表示しないようにするには、「1」を入力してください。ブランクの場合、0がデフォルトとなり、残高がゼロの勘定科目も表示されます。

残高がゼロの転記対象勘定科目を表示しない場合は、「1」を入力します。

2. 差異計算に使用する計算方法を次から入力してください。「0」 - 減算、「1」 - 加算、「2」 - 除算、「3」 - 乗算。ブランクの場合、「0」がデフォルトになります。

次のいずれかを選択します。

1: カラム1をカラム2に加算し、結果を差異カラムに表示する。

0: カラム1からカラム2を減算し、結果を差異カラムに表示する。

3: カラム1をカラム2に乗算し、結果を差異カラムに表示する。

2: カラム1をカラム2で除算し、結果を差異カラムに表示する。

3. 表示するグリッド・カラムを入力してください。正味残高のみ表示するには「0」、期首残高のみ表示するには「1」、どちらも表示するには「2」を入力してください。ブランクにすると正味残高のみが表示されます。

残高の表示に使用されるモードを指定します。値は次のとおりです。

ブランクまたは0: 正味残高

1: 期首残高

2: 正味残高と期首残高

## コスト・アナライザ取引明細の照会を使用した残高の表示

「取引明細の処理」フォームにアクセスします。

---

**注意:** 「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームまたは「コスト・アナライザ明細」フォームから「取引明細の処理」フォームにアクセスするには、当初残高がある、転記編集コードがN以外のレコードを選択する必要があります。当初残高がないレコードまたは転記編集コードがNのレコードを選択すると、「取引明細の処理」フォームは表示されません。

---

コスト・アナライザ内の取引明細残高を表示するには、次の手順に従います。

1. 「オプション」タブの「ビューNo.」、「勘定科目」、「元帳タイプ」の各フィールドに必要なに応じて値を入力して、「取引明細の処理」で処理する勘定科目をフィルタします。

---

**注意:** どのビューを選択するかによって、見出し領域のどのフィールドが入力可能になるかが決まります。選択したビューが値を集計するように設定されている場合は、見出し領域でその値を指定できません。たとえば、元帳タイプとコスト・オブジェクト1を集計するように設定されているビューを選択した場合、この2つのフィールドの値は指定できません。

---

2. 「コスト・オブジェクト」タブの次のフィールドに必要なに応じて値を入力して処理対象の勘定科目をフィルタします。

- コスト・オブジェクト1
- C T 1
- コスト・オブジェクト2
- C T 2
- コスト・オブジェクト3
- C T 3
- コスト・オブジェクト4
- C T 4
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 品目No.

3. 「日付/表示」タブの「会計年度」、「開始期間」、「終了期間」の各フィールドに必要なに応じて値を入力して処理対象の勘定科目をフィルタした後、「検索」をクリックします。

4. 「日付/表示」タブの「コスト・オブジェクト/補助元帳名を表示する」および「コスト・オブジェクト/補助元帳値を表示する」の各チェックボックスを必要なに応じて設定して、コスト・オブジェクトおよび補助元帳の表示方法を指定します。

コスト・オブジェクトおよびコスト・オブジェクト・タイプの記述は、これらのチェックボックスを選択すると表示され、選択を解除すると非表示になります。

5. 表示対象のレコードを選択したら、「ロー」メニューの「バッチ」を選択します。

「ロー」メニューの「バッチ」を選択すると、「バッチの処理」フォームが表示されます。「バッチの処理」フォームからは、選択したレコードの仕訳に関する情報にアクセスできます。たとえば、「バッチの処理」フォームでレコードを選択して、「ロー」、「バッチの検討」、「仕訳の検討」の順に選択すると、対象のレコードの仕訳が表示されます。

## コスト・アナライザ取引明細の照会(P16200)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### オプション

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 1. ビュー番号                            | 取引明細テーブル(F0911)のレコードが書き込まれている、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)のビューを指定します。ビュー番号を入力する必要があります。   |
| 2. ビジネスユニット、3. 主科目、4. 補助科目、5. 元帳タイプ | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用される、ビジネスユニット、主科目、補助科目、元帳タイプのデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、すべてのビジネスユニット、主科目、補助科目、元帳タイプに対するレコードが選択されます。 |

### コスト・オブジェクト

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| 1. コスト・オブジェクト1、2. コスト・オブジェクト・タイプ1 | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用されるコスト・オブジェクト1のデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、コスト・オブジェクト1のすべての値に対するレコードが選択されます。            |
| 3. コスト・オブジェクト2、4. コスト・オブジェクト・タイプ2 | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用されるコスト・オブジェクト2のデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、コスト・オブジェクト2のすべての値に対するレコードが選択されます。            |
| 5. コスト・オブジェクト3、6. コスト・オブジェクト・タイプ3 | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用されるコスト・オブジェクト3のデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、コスト・オブジェクト3のすべての値に対するレコードが選択されます。            |
| 7. コスト・オブジェクト4、8. コスト・オブジェクト・タイプ4 | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用されるコスト・オブジェクト4のデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、コスト・オブジェクト4のすべての値に対するレコードが選択されます。            |
| 9. 品目番号、10. 補助元帳、11. 補助元帳タイプ      | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用される、品目番号、補助元帳、補助元帳タイプのデフォルト値を指定します。デフォルト値を指定しなかった場合またはアスタリスク(*)を指定した場合は、すべての品目番号、補助元帳、補助元帳タイプに対するレコードが選択されます。 |

### 日付

- |                 |   |
|-----------------|---|
| 1. 会計年度         | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用される会計年度を指定します。F0911テーブルからコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)へのレコードの書込みに使用するビューに対して有効な会計年度を指定する必要があります。                     |
| 2. 開始期間、3. 終了期間 | 取引明細テーブル(F0911)のレコードの選択で使用される、会計期間範囲の開始期間または終了期間を指定します。会計期間範囲の最初の日として開始期間の最初の日が使用されます。「ビュー番号」処理オプションで指定したビューの期間パターンに対応する期間が使用されます。この処理オ |

プシオンを空白または0にすると、開始期間には期間1、終了期間には期間14が使用されます。

**注意:**「終了期間」処理オプションで指定した期間の最後の日が会計期間範囲の最後の日として使用されます。

## コスト・アナライザ残高の除去

この項では、コスト・アナライザ残高の除去の概要と次の方法について説明します。

- コスト・アナライザの除去の実行
- コスト・アナライザの除去の処理オプションの設定

### コスト・アナライザ残高の除去について

F1602テーブルからレコードを除去して、現在使用していないビューや会計年度のデータを削除すると、ディスク容量を有効に使用でき、パフォーマンスが向上します。転記処理時にビューの設定の変更やエラーが発生した場合は、取引を該当のビューに再転記する前に、このプログラムを使用して不要なデータを除去できます。また、このプログラムでは、ビューの変更や、取引明細テーブル(F0911)の転記済フラグのリセットを行うこともできます。

処理オプションで、収益性分析転記コードを保持するように設定すると、そのビューに対する取引を再作成できなくなります。残高を再作成するには、次の作業を行います。

- コスト・アナライザ残高への転記プログラム(R1602)を使用して、F0911テーブルの新しい取引に対するビューにレコードを新規作成します。
- 除去プログラムを再実行し、“保持する”処理オプションを空白にします。

既存の取引だけでなく新規の取引の転記コードもクリアされるため、すべての取引に関してビューを再転記できます。

### コスト・アナライザの除去の実行

「コスト・アナライザ」(G1612)の「コスト・アナライザの除去」を選択します。

### コスト・アナライザの除去(R1602P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 選択

1. ビュー番号、2. 会計年度    コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)、および、原価計算取引テーブル(F1611)(任意)から除去するレコードのビュー番号および会計年度を指定します。この2つのフィールドは必須フィールドです。

#### オプション

1. F0911ACA転記コードの保持    選択されたビューを使用して転記された、すべての取引明細レコード(F0911)の収益性分析転記コードを保持するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: クリアする。

## 2. 対応するF1611の取引の除去

1: 保持する。

コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)から除去されているレコードのビュー番号と西暦上2桁/会計年度に対応する原価計算取引レコード(F1611)を除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去しない。

1: 除去する。

## コスト・オブジェクト別収益性の検討

品目収益性レポート(R16022)を使用すると、顧客別、製品別、販売担当者別に収益性を確認できます。補助元帳、品目、またはコスト・オブジェクトを指定して、出力する情報を選択できます。ドライバを指定することで、数量を使用したレポートも作成できます。

この項では、次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別収益性の実行
- 品目収益性レポート(R16022)の処理オプションの設定

### 品目収益性レポートの実行

「レポート」(G1625)の「品目収益性」を選択します。

### 品目収益性レポート(R16022)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

1. レポートの基準となる期間と会計年度を入力してください。ブランクの場合、財務報告日付が使用されます。同じ財務報告日付を使用する会社が複数ある場合は、会社またはビジネスユニットでソートする必要があります。

#### 期間

現行会計期間を示す番号です。この番号と、会社固定情報テーブル(F0010)および一般会計固定情報テーブル(F0009)を組み合わせることで、14までの会計期間を定義できます。総勘定元帳日付を参照してください。過去期間および未来期間の警告メッセージは、この現行会計期間の番号によって決まります。また、財務レポートを準備する際のデフォルトの会計期間としても使用されます。

#### 会計年度

会計年度を識別する4桁の番号です。このフィールドには数値を入力することも、ブランクにして現行会計年度(「会社の設定」フォームで定義)を使用することもできます。

会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。

## 第 17 章

# 外部コスト・アナライザ残高の処理

この章では、コスト・アナライザ残高の処理、外部コスト・アナライザ残高のインポート、および外部コスト・アナライザ残高の除去についての概要と、次の方法について説明します。

- 外部コスト・アナライザ残高の手入力
- 外部コスト・アナライザ残高の確認および変更
- 外部コスト・アナライザ残高のアップロード

---

## 外部コスト・アナライザ残高の処理について

この項では、外部コスト・アナライザ残高の処理の概要について説明します。

### 外部コスト・アナライザ残高の処理

JD Edwards EnterpriseOneのテーブルにない、外部予算、総勘定元帳以外のコストなどのコスト・アナライザ残高は、外部コスト・アナライザ残高テーブル(F1602Z1)にインポートできます。F1602Z1テーブルにインポートした残高は、外部コスト・アナライザ残高処理プログラム(R1602Z1)を使用してコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)にアップロードします。

外部コスト・アナライザ残高は、F1602Z1テーブルにインポートすることも、外部コスト・アナライザ残高プログラム(P1602Z1)を使用して手入力で追加することもできます。

外部コスト・アナライザ残高は、F1602Z1テーブルにインポートまたは手入力した後は、編集したり追加したりしても、取引明細テーブル(F0911)に影響しません。

EnterpriseOneシステム内で作成する取引のビューと同様の方法でコスト・アナライザ・ビューを設定します。

---

## 外部コスト・アナライザ残高のインポートについて

表計算ソフトまたは別のシステムにあるコスト・アナライザ残高は、外部コスト・アナライザ残高テーブル(F1602Z1)に直接インポートしてから、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)にアップロードします。

F1602Z1テーブルに残高をインポートするには、カスタム・プログラムを作成する必要があります。次の表は、F1602Z1テーブルのフィールドの入力方法に関するガイドラインです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
EDI-ユーザーID	CZEDUS	文字列	10	トランザクションの送信元を表すコードです。ユーザーID、ワークステーションID、外部システムのアドレス、ネットワーク上のノードなどを入力できます。このフィールドによって、トランザクションとそのソースの両方が識別されます。
EDI-バッチ番号	CZEDBT	文字列	15	送信元によってバッチに割り当てられる番号です。この番号の割当はバッチ処理中に行われます。
EDI-トランザクション番号	CZEDTN	文字列	22	電子データ交換(EDI)の送信元によってトランザクションに割り当てられる番号です。EDI環境以外では、バッチ内のトランザクションを識別するために固有の番号を割り当てることができます。JD Edwards EnterpriseOneの伝票番号と同じにすることもできます。
EDI-行番号	CZEDLN	数値	7	EDIトランザクションの開始時に割り当てられる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。
EDI-伝票タイプ	CZEDCT	文字列	2	送信元によって割り当てられるEDIトランザクションの伝票タイプです。
トランザクション・タイプ	CZTYTN	文字列	8	特定のタイプのトランザクションを識別するコードです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
EDI-トランザクション・フォーマット	CZEDFT	文字列	10	送受信両方のEDIトランザクションの処理に使用する特定のマッピング構造を識別するコードです。
EDI-伝送日付	CZEDDT	日付	6	EDIトランザクションが伝送または受信された日付です。
送受信インディケータ	CZDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを示すコードです。
EDI-処理済明細行数	CZEDDL	数値	5	EDIトランザクションで伝送される明細行数の数です。購買オーダー、請求書などの明細行の合計数です。
EDI-処理済	CZEDSP	文字	1	レコードが正常に処理されたかどうかを表すコードです。テーブルのCZEDSPフィールドは、アプリケーションに応じて、次のいずれかの値で更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 正常に処理済</li> <li>• 0 - 未処理</li> </ul>
取引先ID	CZPNID	文字列	15	EDIトランザクションで、取引先を識別するためのコードです。
トランザクション・アクション	CZTNAC	文字列	2	トランザクションで実行するアクションを指定するコードです。EDIトランザクションでは、トランザクション・セットの目的コードや変更コードを表します。
EDI-レコード・タイプ	CZEDTY	文字	1	EDIトランザクション・レコードが見出し情報か明細情報かを示す識別子です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
EDI-レコード順序	CZEDSQ	数値	2	H01、H02、D01など、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。
EDI-トランザクション・セット番号	CZEDTS	文字列	6	特定のタイプのEDIトランザクションを識別するコードです。
EDI-送受信インディケータ	CZEDER	文字	1	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれであるかを指定するときに使用するコードです。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• S-送信</li> <li>• R-受信</li> <li>• B-送受信</li> </ul>
EDI-トランザクション・アクション	CZEDTC	文字	1	最終処理時にトランザクションがどのように処理されるかを指定するコードです。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A-トランザクションを新規追加する。</li> <li>• D-未処理のトランザクションを削除する。</li> </ul>
EDI-トランザクション・タイプ	CZEDTR	文字	1	トランザクションのタイプを識別するコードです。伝票(V)、請求書(I)、仕訳(J)などが、送信元によって割り当てられます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
EDI-バッチ・ファイル総勘定元帳レコード作成フラグ	CZEDGL	文字	1	<p>請求書または伝票の処理時に総勘定元帳レコードを作成するかどうかを指定する、バッチ・ファイル内のフラグです。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク-総勘定元帳レコードを作成しない。</li> <li>• 1-総勘定元帳レコードを作成する。</li> </ul> <p>このフィールドに「1」を入力する場合、総勘定元帳の勘定科目コードの主科目および補助科目コードも入力する必要があります。</p>
バッチ・ファイル割引処理フラグ	CZEDDH	文字	1	<p>割引額の計算方法を指定する、バッチ・ファイル内のフラグです。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0-計算に支払条件を使用する。</li> <li>• 1-ユーザーが一時変更した割引額を使用する。</li> <li>• 2-ユーザーによって入力されたパーセント値を使用する。</li> </ul>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
ユーザー住所番号	CZEDAN	数値	8	<p>送信元によって割り当てられる住所番号です。この番号は、主に、PCから送信される売掛請求書および買掛伝票を新しい住所録番号と結び付けるために使用されます。</p> <p>住所録バッチ処理で自動採番により割り当てられた住所録番号は、バッチ・ファイル内の売掛金請求書と買掛金伝票で変更されます。この住所番号は、送信元によって割り当てられるユーザー住所番号と照合されます。</p>
ビュー番号	CZVWNM	数値	2	<p>取引明細テーブル (F0911) のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) に転記する方法を指定する1から10までの番号です。この番号は、F0911テーブルで更新される管理会計転記コード (PM01からPM10) も指定します。</p> <p>たとえば、ビュー番号1を指定した場合、取引明細レコードのフラグが転記対象となった時点でPM01がPに更新されます。</p>
ABC活動コード	CZACTB	文字列	10	<p>活動基準原価計算で行う一連の活動を識別するコードです。</p>
略式ID	CZAID	文字列	8	<p>勘定科目マスター (F0901) 内で総勘定元帳の勘定科目を一意に識別するために割り当てられる番号です。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
西暦上2桁/会計年度	CZCFY	数値	5	西暦上2桁と会計年度を連結して指定する数字です。
元帳タイプ	CZLT	文字列	2	AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)です。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。
補助元帳	CZSBL	文字列	8	総勘定元帳の勘定科目を細分化して補助的に使用する科目を識別するコードです。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
補助元帳タイプ	CZSBLT	文字	1	<p>補助元帳フィールドと併用するユーザー定義コード(00/ST)です。補助元帳タイプを識別し、補助元帳の編集方法を指定するときに使用します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• A - 英数字フィールド(編集なし)</li> <li>• N - 数値フィールド(右揃え、ゼロで埋める)</li> <li>• C - 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)</li> </ul>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
経営分析コード1	CZABR1	文字列	12	設備品目番号や住所録番号を表すコードです。コスト・オブジェクト・コードには、コスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードは勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。
経営分析タイプ1	CZABT1	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して追加または変更できます。
経営分析コード2	CZABR2	文字列	12	設備品目番号、住所録番号などのコスト・オブジェクトを表すコードです。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
経営分析タイプ2	CZABT2	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。
経営分析コード3	CZABR3	文字列	12	設備品目番号、住所録番号などのコスト・オブジェクトを表すコードです。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。
経営分析タイプ3	CZABT3	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
経営分析コード4	CZABR4	文字列	12	コスト・オブジェクトを表すコードです。設備品目番号、住所録番号などがコスト・オブジェクト・コードとして使用できません。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。
経営分析タイプ4	CZABT4	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
略式品目番号	CZITM	数値	8	<p>在庫品目を示す番号です。EnterpriseOneでは、代替品目番号、置換品目、バーコード、顧客番号、仕入先番号などを利用するために、3種類の品目番号、および他の品目番号との拡張相互参照機能が提供されています。有効な品目番号は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 略式品目番号 - 自動的に割り当てられる8桁の番号</li> <li>• 第2品目番号 - ユーザー定義および自由形式の、英数字25桁の品目番号</li> <li>• 第3品目番号 - ユーザー定義および自由形式の、英数字25桁の補足の品目番号</li> </ul>
会社	CZCO	文字列	5	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコードです。会社コードは会社固定情報テーブル(F0010)に設定済で、完全な貸借対照表を備えた財務報告対象組織を指している必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができます。</p> <p><b>注意:</b> 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できません。取引の入力には会社00000は使用できません。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
期首残高/前年度繰越額	CZAPYC	数値	15	<p>前年度末の累積残高を表す金額です。この金額は、貸借対照表および作業原価勘定の期首残高として使用されます。この金額を前年度転記額と混同しないように注意してください。</p> <p>前年度転記額には、前年度からの転記額のみが含まれます。前年度の期末残高は含まれません。前年度転記額は、通常、損益計算書の比較に使用されます。</p>
転記額01 転記額02 転記額03 転記額04 転記額05 転記額06 転記額07 転記額08 転記額09 金額 - 転記額10 金額 - 転記額11 金額 - 転記額12 金額 - 転記額13 金額 - 転記額14	CZAN01 CZAN02 CZAN03 CZAN04 CZAN05 CZAN06 CZAN07 CZAN08 CZAN09 CZAN10 CZAN11 CZAN12 CZAN13 CZAN14	数値	15	<p>会計期間中に取引明細テーブル(F0911)から転記された金額を表す数字です。転記額は、期間の開始日付から終了日付までの借方金額と貸方金額の合計です。</p> <p>会社固定情報テーブル(F0010)の会計期間が使用されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
金額 - 正味残高01	CZNB01	数値	15	特定の会計期間の正味残高を表す数字です。これは、取引明細テーブル(F0911)からコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記された当初金額に、この残高に配賦された金額を加算/減算したものです。金額の割当には、原価計算プログラム(R1610)を使用します。
金額 - 正味残高02	CZNB02			
金額 - 正味残高03	CZNB03			
金額 - 正味残高04	CZNB04			
金額 - 正味残高05	CZNB05			
金額 - 正味残高06	CZNB06			
金額 - 正味残高07	CZNB07			
金額 - 正味残高08	CZNB08			
金額 - 正味残高09	CZNB09			
金額 - 正味残高10	CZNB10			
金額 - 正味残高11	CZNB11			
金額 - 正味残高12	CZNB12			
金額 - 正味残高13	CZNB13			
金額 - 正味残高14	CZNB14			
割当フラグ	CZASMF	文字	1	F1602テーブルのレコードに対して割当が行われているかどうかを表すフラグです。
週累計金額	CZAWTD	数値	15	ある勘定科目の週累計転記額を表す数字です。
金額 - 当初/開始予算額	CZBORG	数値	15	F0902テーブルの元帳タイプ別の年間予算金額を表す数字です。
予算 - 申請済	CZBREQ	数値	15	F0902テーブルの元帳タイプ別の当初申請予算金額を表す数字です。元帳タイプの有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• BA/BU - 予算元帳</li> <li>• PA/PU - 作業原価に割り当てられたコミットメント</li> </ul>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
予算 - 承認済	CZBAPR	数値	15	F0902テーブルの元帳タイプ別の承認済予算金額を表す数字です。
ビジネスユニット	CZMCU	文字列	12	原価のトラッキング対象となる業務の単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。
主科目	CZOBJ	文字列	6	労務費、資材費、設備費など、記録される取引のタイプを識別する勘定科目の一部を表す番号です。  <b>注意:</b> 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用するようにしてください。たとえば、000456と456は異なる値とみなされます。「456」と入力すると、スペースが3つ追加されるため、結果が異なります。
補助科目	CZSUB	文字列	8	主科目の下位科目を表す英数字です。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。
通貨コード - アップロード前	CZCRCD	文字列	3	取引通貨を識別する英字のコードです。この時点では、残高は、F1602とは異なる通貨で保存されています。そのため、このフィールドは、F1602へのアップロード時に、ブランクに更新されます。
通貨コード (指定)	CZCRCX	文字列	3	基本通貨を表す英字のコードです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
転記コード1-管理 会計	CZPM01	文字	1	ビュー番号(VWNM)に対応し、そのビューが転記済かどうかを指定するコードです。値は次のとおりです。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク-未転記</li> <li>• P-転記済</li> </ul>
転記コード2-管理 会計	CZPM02			
転記コード3-管理 会計	CZPM03			
転記コード4-管理 会計	CZPM04			
転記コード5-管理 会計	CZPM05			
転記コード6-管理 会計	CZPM06			
転記コード7-管理 会計	CZPM07			
転記コード8-管理 会計	CZPM08			
転記コード9-管理 会計	CZPM09			
転記コード10-管理 会計	CZPM10			
ユーザーID	CZUSER	文字列	10	ユーザー・プロフィールを識別するコードです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
プログラムID	CZPID	文字列	10	<p>バッチまたは対話型プログラムを識別するIDです。たとえば、対話型プログラム“受注オーダー入力”のIDはP4210で、バッチ・プログラム“請求書の印刷”のIDはR42565です。</p> <p>プログラムIDの桁数は固定されていません。この値は、次のようにTSSXXXという形式に従って割り当てられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TはIDの始めの文字を表します。これは、Pならプログラム、Rならレポートなどのようにタイプを識別する英字です。たとえば、P4210のPは、対話型プログラムであることを示します。</li> <li>• SSはIDの2番目と3番目にくる数字です。この数字は、システムを示します。たとえば、P4210の42は、このプログラムがシステム42（受注管理システム）に属していることを示します。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>• XXXはIDの4から6番目の数字です。プログラムまたはレポートに固有な番号を表します。たとえば、P4210の10は、受注オーダー入力プログラムであることを表します。</li> <li>•</li> </ul>
更新日付	CZUPMJ	日付	6	レコードが最後に更新された日付です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
最終更新時刻	CZUPMT	数値	6	レコードが最後に更新された時刻です。
ワーク・ステーション ID	CZJOBN	文字列	10	特定のジョブを実行したワークステーションIDを示すコードです。

## 外部コスト・アナライザ残高の除去について

外部コスト・アナライザ残高をコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)にアップロードしたら、外部コスト・アナライザ残高の除去プログラム(R1602Z1P)を使用して外部コスト・アナライザ残高テーブル(F1602Z1)のレコードを除去できます。

データ選択を使用して除去するレコードを選択します。外部コスト・アナライザ残高の除去プログラムには、処理オプションはありません。

## 外部コスト・アナライザ残高の手入力

この項では、外部コスト・アナライザ残高の手入力の概要およびその方法について説明します。

### 外部コスト・アナライザ残高の手入力について

外部コスト・アナライザ残高を手入力するには、外部コスト・アナライザ残高プログラム(P1602Z1)を使用します。残高を入力すると、次の情報が編集されます。

- 勘定科目コード
- ビジネスユニット
- 元帳タイプ
- 活動

残高を入力すると、外部コスト・アナライザ残高プログラムにより外部コスト・アナライザ残高テーブル(F1602Z1)にレコードが作成されます。外部残高の入力が完了したら、外部コスト・アナライザ残高の処理プログラム(R1602Z1)を実行して、レコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)にアップロードします。

## 外部コスト・アナライザ残高の手入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
外部コスト・アナライザ残高	W1602Z1B	「外部コスト・アナライザ残高」(G16121)、「外部コスト・アナライザ残高」 「外部コスト・アナライザ残高の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	外部コスト・アナライザ残高を手入力します。

## 外部コスト・アナライザ残高の手入力

「外部コスト・アナライザ残高」フォームにアクセスします。

**外部コスト・アナライザ残高 - 外部コスト・アナライザ残高**

OK(O) 取消(L) ツール(T)

ユーザーID	<input type="text"/>	バッチNo.	<input type="text" value="85"/>	トランザクションNo.	<input type="text" value="1"/>
会計年度	<input type="text"/>				
勘定科目コード	<input type="text"/>				
活動	<input type="text"/>			元帳タイプ	<input type="text" value="AA"/>
ビジネスユニット	<input type="text"/>	会社番号	<input type="text"/>	アクション・コード	<input type="text"/>

<b>コストオブジェクト</b>	残高	転記コード
コスト・オブジェクト/タイプ 1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト/タイプ 2	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト/タイプ 3	<input type="text"/>	<input type="text"/>
コスト・オブジェクト/タイプ 4	<input type="text"/>	<input type="text"/>
タイプ/補助元帳	<input type="text"/>	<input type="text"/>
品目No.	<input type="text"/>	

「外部コスト・アナライザ残高」フォーム

- 「外部コスト・アナライザ残高」フォームで「トランザクションNo.」、「会計年度」、「勘定科目コード」、「活動」、「元帳タイプ」、「アクション・コード」の各フィールドに値を入力します。
- 「コスト・オブジェクト」タブで必要に応じて「コスト・オブジェクト/タイプ1」、「タイプ/補助元帳」、「品目No.」の各フィールドに値を入力します。  
コスト・オブジェクトの前にコスト・オブジェクト・タイプを入力する必要があります。
- 「残高」タブで必要に応じて「残高01」フィールドに値を入力します。  
正味残高は最大14まで入力できます。
- 「転記コード」タブで必要に応じて「転記コード1」フィールドとその他の転記コード・フィールドに値を入力します。  
転記コードは最大10まで入力できます。

5. 「OK」をクリックします。

## 外部コスト・アナライザ残高の確認および変更

この項では、外部コスト・アナライザ残高の確認および変更の概要とその方法について説明します。

### 外部コスト・アナライザ残高の確認および変更について

外部コスト・アナライザ残高テーブル(F1602Z1)にインポートまたは手入力した外部コスト・アナライザ残高は、外部コスト・アナライザ残高プログラム(P1602Z1)で正しいかどうか確認し、必要に応じて変更できます。

外部コスト・アナライザ残高の確認と変更が完了したら、外部コスト・アナライザ残高の処理プログラム(R1602Z1)を実行して残高をコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)にアップロードします。

外部コスト・アナライザ残高の処理プログラムを実行すると、エラーが発生したレコードが記載されたレポートが生成されます。たとえば、勘定科目コードが正しくないレコードなどが記載されます。コスト・アナライザ残高テーブルの整合性を保持するには、外部コスト・アナライザ残高プログラムを使用してエラーを修正してから、残高をF1602テーブルにアップロードする必要があります。

### 外部コスト・アナライザ残高の確認および変更使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
外部コスト・アナライザ残高の処理	W1602Z1B	「外部コスト・アナライザ残高」(G16121)、「外部コスト・アナライザ残高」	外部コスト・アナライザ残高を確認および変更します。

### 外部コスト・アナライザ残高の確認および変更

「外部コスト・アナライザ残高」フォームにアクセスします。

外部コスト・アナライザ残高の確認および変更を行うには、次の手順に従います。

1. 特定の残高についての詳細情報を確認または変更するには、該当する残高を選択し、「選択」をクリックします。
2. 「外部コスト・アナライザ残高」フォームで、各フィールドの内容を確認し、必要に応じて変更します。
3. 「OK」をクリックします。

## 外部コスト・アナライザ残高のアップロード

この項では、外部コスト・アナライザ残高のアップロードの概要と、外部コスト・アナライザ残高の処理(R1602Z1)の処理オプションの設定方法について説明します。

## 外部コスト・アナライザ残高のアップロードについて

外部コスト・アナライザ残高テーブル (F1602Z1) の残高レコードを確認および変更したら、外部コスト・アナライザ残高の処理プログラム (R1602Z1) を実行して、レコードをコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) にアップロードします。

外部コスト・アナライザ残高の処理プログラムでは、レコードをF1602テーブルにアップロードする前に、適切なフォーマットになるようにレコードが編集されます。レコードの編集が完了すると、F1602Z1テーブルから選択されたレコード、F1602テーブルで追加および更新されたレコード、エラーが発生したレコードの各件数が記載されたレポートが生成されます。

レコードにエラーが発生すると、エラーの発生を伝えるワークフロー・メッセージが生成されます。外部コスト・アナライザ残高プログラム (P1602Z1) を使用してエラーを修正し、外部コスト・アナライザ残高の処理プログラムを再実行します。

外部コスト・アナライザ残高の処理プログラムでは、F1602テーブルにまだ転記されていないレコードのみが選択されます。アップロードが完了した残高は、F1602Z1とF1602の各テーブルで転記済に設定されます。

外部コスト・アナライザ残高の処理プログラムで残高データを既存の残高に追加するか、新規に作成するかは、「アクション・コードの一時変更」処理オプションの設定によって決まります。この処理オプションをIに設定した場合、F1602Z1テーブルのアクション・コード・フィールドの値がF1602Z1によって一時変更されます。アクション・コードがCでF1602テーブルに値がある場合、R1602Z1の金額がF1602テーブルの既存残高に対して加算または減算されます。アクション・コードがAでF1602レコードが存在しない場合は、レコードがF1602テーブルに新規追加されます。F1602レコードがすでに存在する場合、その既存レコードは新規レコードに置き換えられます。

## 外部コスト・アナライザ残高の処理 (R1602Z1) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### オプション

- 1. ビュー番号 (必須)**

外部コスト・アナライザ残高 (F1602Z1) のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) に転記するとき使用されるビュー番号を指定します。コスト・アナライザ残高テーブルのビュー番号フィールドが、この番号に更新されます。この番号では、外部コスト・アナライザ残高テーブルのどの管理会計転記コード (PM01からPM10) が転記済に更新されるかも指定できます。たとえば、ビュー番号が2の場合、外部コスト・アナライザ残高のレコードが転記済になると、PM02フィールドがPに更新されます。この処理オプションは必須です。この処理オプションを空白にすると、プログラムが終了し、エラーがレポートに出力されます。
- 2. 会計年度 (必須)**

外部コスト・アナライザ残高テーブル (F1602Z1) からレコードを選択するとき使用される会計年度を指定します。会計年度の下2桁を入力します。たとえば、会計年度が2008の場合は、「08」と入力します。この年度はコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) のレコードにも設定されます。この処理オプションは必須です。この処理オプションを空白にすると、プログラムが終了し、エラーがレポートに出力されます。
- 3. アクション・コードの一時変更**

外部コスト・アナライザ残高テーブル (F1602Z1) のトランザクション・アクション・フィールドの値を設定します。トランザクション・アクション・フィールドの値をCからAに一時変更するには、「1」と入力します。「1」と入力すると、レコードが存在しない場合は、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) にレコードが新規追加されます。レコードがコスト・アナライザ残高テーブルに存在する場合、そのレコードは外部コスト・アナライザ残高テーブルのレコー

ドに置き換えられます。この処理オプションを空白にすると、外部コスト・アナライザ残高テーブルのアクション・コードが使用されます。

処理オプションの アクション・コード	アクション・コード	F1602レコードが 存在する場合	F1602レコードが 存在しない場合
空白	A-ADD	REPLACE	INSERT
空白	C-CHANGE	ADD/SUBTRACT	INSERT
空白	R-REPLACE	REPLACE	INSERT
1	A-ADD	REPLACE	INSERT
1	C-CHANGE	REPLACE	INSERT
1	R-REPLACE	REPLACE	INSERT



## 第 18 章

# ドライバ残高の計算

ドライバの定義を使用して、ドライバ・ボリュームを計算し、ドライバ残高を作成できます。ドライバ選択プログラム (P16301) でドライバを選択すると、計算対象のドライバを指定できます。各ドライバが処理され、ドライバの定義プログラム (P1630) で入力した基準テーブルに対応する計算プログラムが呼び出されます。

この章では、ドライバ残高の計算の概要と次の方法について説明します。

- ドライバ情報の入力
- ドライバの選択
- ドライバ計算の実行
- ドライバ残高の確認

---

## ドライバ情報の入力

この項では、ドライバ情報の入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ドライバ情報の入力
- ドライバ情報の変更
- ドライバ・ボリュームの改訂の処理オプションの設定

## ドライバ情報の入力について

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析で使用する大部分のドライバは、テーブルの情報に基づき、適切なドライバ計算プログラムを使用して自動計算されます。部門別面積などをドライバにする場合、これらの情報はテーブルに保存されていないため、改訂プログラムを使用して入力する必要があります。次の操作を行うには、ドライバ・ボリュームの改訂プログラム (P1632) を使用します。

- 特定の期間のドライバ情報の入力
- 特定の会計年度および元帳タイプのドライバ残高の更新
- 活動の残高の入力
- エラー入力の訂正
- 既存のドライバ情報のコピーによる、別の会計年度および元帳タイプに対するドライバの新規作成

## 基準テーブルについて

計算方法を設定すると、マスター・テーブルの情報に基づいてドライバ残高データが作成されます。マスター・テーブルには、顧客ごとの受注オーダー数の取得元となる受注オーダー明細 (F4211)、品目ごとの出荷数の取得元となる作業オーダー・マスター (F4801) などがあります。ドライバ計算プログラム (R1632) を実行すると、実行対象のドライバの基準テーブルのデータが、ドライバ残高テーブル (F1632) に入力されます。

次の表には、ドライバ計算の基準として使用できるテーブルと、ドライバ計算プログラムの実行時に基準テーブルから収集できるデータの例が記載されています。

テーブル	データの例
F03012 (業種別顧客マスター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷された計算書を要求している顧客の数</li> <li>顧客別の税務署の数</li> </ul>
F03B11 (売掛金元帳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客別の請求金額</li> <li>地域別の顧客の数</li> </ul>
F03B14 (入金明細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入金別の支払済請求書の平均数</li> <li>請求書別の平均割引額</li> <li>支払済請求書別の通貨換算による損益の金額</li> </ul>
F0401 (仕入先マスター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入先別の年累計伝票金額</li> <li>地域別の仕入先の数</li> </ul>
F0411 (買掛金元帳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入先別の支払済請求書の数</li> <li>仕入先別の請求金額</li> </ul>
F0414 (買掛金照合伝票明細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>振出し済小切手別の伝票の平均数</li> <li>支払済請求書別の通貨換算による損益の金額</li> </ul>
F0618 (従業員トランザクション履歴)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職務タイプ別の従業員の数</li> <li>職務タイプ別の平均時給</li> </ul>
F0911 (取引明細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>勘定科目別の自動仕訳の調整回数</li> <li>ユーザー別の無効取引の数</li> </ul>
F3112 (作業オーダーの作業工程)	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場別の生産時間</li> <li>品目別の生産時間</li> <li>作業場別の生産数量</li> </ul>
F31122 (作業オーダー時間トランザクション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目別のサービス作業オーダーの数</li> <li>品目別の仕損の数</li> </ul>
F4101 (品目マスター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入者別の利益ランク</li> <li>品目別の平均貯蔵期間</li> </ul>

テーブル	データの例
F4102(事業所品目)	部品表の部品が手作業で在庫される品目の数
F4111(品目元帳)	品目別の手持在庫
F4211(受注オーダー明細) 注意: F4211テーブルを選択すると、F4211テーブル、受注実績テーブル(F42119)、または、両方のテーブルのどれから情報を取得するかを指定する、追加のフィールドが表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目別の受注オーダーの数</li> <li>顧客グループ別の受注オーダーの数</li> <li>品目別の見積オーダーの数</li> </ul>
F4311(購買オーダー明細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>品目別の購買オーダーの数</li> <li>仕入先別の購買数量</li> <li>購入者別の購買オーダーの数</li> </ul>
F4801(作業オーダー・マスター)	品目別の作業オーダーの数
F4942(出荷明細)	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷先住所別の出荷の数</li> <li>郵便番号別の合計出荷重量</li> </ul>
F4981(運賃監査履歴)	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入先別の運賃が含まれる購買オーダーの数</li> <li>顧客別の運賃が含まれる受注オーダーの数</li> </ul>

## 事前設定

この項のタスクを完了するには、ドライバの定義プログラム(P1630)でドライバを設定したことを確認します。

## ドライバ情報の入力および変更使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
期間別ドライバの改訂	W1632E	「ドライバ」(G1614)、「ドライバ・ボリュームの改訂」 「ドライバ・ボリュームの処理」フォームで「ドライバ・コード」フィールドに値を入力し、「追加」をクリックします。	ドライバ情報を入力します。
ドライバ・ボリュームの入力/変更	W1632B	「ドライバ」(G1614)、「ドライバ・ボリュームの改訂」 変更するビジネスユニットを選択し、「ロー」メニューの「ドライバ入力/変更」を選択します。	ドライバ情報を変更します。

## ドライバ情報の入力

「期間別ドライバの改訂」フォームにアクセスします。

ドライバ情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 「オプション」タブをクリックし、「期間別ドライバの改訂」フォームの「会計年度」と「元帳タイプ」の各フィールドに値を入力します。
2. 「ビジネスユニット」フィールドに値を入力してデフォルトの見出し情報を入力します(任意)。
3. 「品目No.」タブで「活動」フィールドに値を入力します。
4. 「OK」をクリックします。

## ドライバ情報の変更

「ドライバ・ボリュームの入力/変更」フォームにアクセスします。

ドライバ・ボリュームの改訂 - ドライバ・ボリュームの入力/変更

OK(O) 取消(L) ツール(T)

ドライバ・コード: HOURS      Number of man hours      会計年度: 05  
 ビジネスユニット: D30      元帳タイプ: AA  
 加重係数: .00

品目No.	コスト・オブジェクト	転記額	品目No.	コスト・オブジェクト	転記額
転記額 01		80.00	転記額 08		
転記額 02		80.00	転記額 09		
転記額 03		80.00	転記額 10		
転記額 04		80.00	転記額 11		
転記額 05		80.00	転記額 12		
転記額 06		80.00	転記額 13		
転記額 07		80.00	転記額 14		

「ドライバ・ボリュームの入力/変更」フォーム

ドライバ情報を変更するには、次の手順に従います。

1. 「転記額」タブを選択し、「ドライバ・ボリュームの入力/変更」フォームで次のフィールドに値を入力します。
  - 転記額01
  - 転記額02
  - 転記額03
  - 転記額04
  - 転記額05
  - 転記額06
  - 転記額07
  - 転記額08

- 転記額09
- 転記額10
- 転記額11
- 転記額12
- 転記額13
- 転記額14

ボリュームを入力する転記額フィールドの数は、会計期間パターンに対応します。

2. 見出し領域で「加重係数」フィールドに値を入力して、加重係数をドライバの特定の期間に割り当てます。
3. 「OK」をクリックします。

## ドライバ・ボリュームの改訂 (P1632) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### ドライバ

1. 自動ドライバを使用するには、「1」を入力してください。ブランクの場合、手動ドライバのみ使用可能です。

自動ドライバ改訂の使用可

ドライバ・ボリュームの改訂プログラム (P1632) でドライバを自動計算するかどうかを設定します。自動計算しない場合、ドライバはドライバ・ボリュームの改訂プログラムで手入力のドライバとして表示されます。

## ドライバの選択

自動計算するドライバを選択するには、「ドライバ選択の変更」を使用します。日付範囲を指定して、使用するドライバを選択できます。また、ドライバ・ボリュームの計算時に使用するバージョンを指定することもできます。

この項では、ドライバ選択の方法について説明します。

### ドライバの選択に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ドライバ選択の変更	W16301B	「ドライバ」(G1614)、「ドライバの選択」 詳細グリッドのレコードを選択し、「選択」をクリックします。	ドライバを選択します。

### ドライバの選択

「ドライバ選択の変更」フォームにアクセスします。

ドライバを選択するには、次の手順に従います。

1. 「ドライバ選択の変更」フォームで「開始日付」、「終了日付」、「実行フラグ」、「バージョン」の各フィールドの値を確認します。

ドライバを有効にするには、詳細グリッドのレコードを選択し、「ロー」メニューの「実行オン」を選択します。

ドライバを無効にするには、詳細グリッドのレコードを選択し、「ロー」メニューの「実行オフ」を選択します。

バージョンは、アプリケーションおよびレポートの実行方法を指定する、ユーザー定義の仕様です。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値、データ選択オプション、データ順序オプションをグループ化して保存できます。対話型バージョンは、(通常、メニュー項目の形で)アプリケーションと関連付けられています。バッチ・バージョンは、バッチ・ジョブまたはレポートと関連付けられています。バッチ処理を実行するには、バージョンを選択する必要があります。

2. 必要に応じて、次の操作のいずれかを実行します。

- 見出し領域の日付を特定のレコードにコピーするには、日付範囲を入力し、ローを選択した後、「ロー」メニューの「日付のコピー」を選択します。
- バージョンを新規作成するには、詳細グリッドのレコードを選択し、「ロー」メニューの「バッチ・バージョン」を選択します。

バージョンを新規作成するか、既存のバージョンをコピーしたら、「OK」をクリックします。

3. 「ドライバ選択の変更」フォームの「OK」をクリックします。

---

## ドライバ計算の実行

この項では、ドライバ計算の概要と次の方法について説明します。

- ドライバ計算の実行
- 自動ドライバ計算の処理オプションの設定

### ドライバ計算について

このバッチ・プログラムでは、ドライバ定義に基づいてドライバ・ボリュームが計算され、ドライバ残高が作成されます。計算するドライバを指定するには、ドライバの選択プログラム(P16301)を使用します。指定した各レコードに対して、ドライバ定義に定義されたとおりに、計算が実行されます。計算結果は定義済コスト・オブジェクト内に集計されます。

ドライバ計算は、様々なテーブルに基づいて実行できます。ドライバ計算をテーブル情報に基づいて実行する場合、各テーブルに対応する計算プログラムが呼び出されます。計算プログラムのIDはRxxxxDC (xxxxはテーブル番号)です。たとえば、作業オーダー・マスター(F4801)の場合は、F4801ドライバ・ボリューム計算プログラム(R4801DC)が呼び出されます。

このバッチ・プログラムをテスト・モードで実行して、ドライバ・ボリューム計算レポートを作成できます。テスト・モードで実行した場合、すべての計算が実行されますが、ドライバ残高テーブル(F1632)は更新されません。

取引期間に基づいてドライバ残高を更新することも、複数の取引期間を1つの期間に集計することもできます。また、処理オプションで元帳日付を指定して残高を集計することもできます。たとえば、1月から3月までに発生した取引を集計する場合は、元帳日付を現行年度の3月31日(xx/03/31)に指定します。

入力した日付が会計期間パターンと照合され、正しい会計期間と会計年度が確定されます。1月から3月までのすべての取引が集計され、正しい会計期間に合計が転記されます。元帳日付を入力せずに空白にした場合、1月に発生したすべての取引が集計され、対応する会計期間に転記されます。同様に、2月に発生したすべての取引も集計され、対応する会計期間に転記されます。3月についても同様です。つまり、1つではなく、3つの会計期間が更新されます。

## ドライバ計算の実行

「ドライバ」(G1614)の「自動ドライバ計算」を選択します。

## 自動ドライバ計算(R1632)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. **最終モードで実行するには、「1」を入力してください。**      ドライバ残高テーブル(F1632)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 更新しない。  
 1: 更新する。
2. **計算明細を印刷するには、「1」を入力してください。**      自動ドライバ計算レポートを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 印刷しない。  
 1: 印刷する。
3. **期間と会計年度を確定するために元帳日付を入力してください。空白の場合、取引日付が使用されます。**      取引の転記に使用される会計期間を識別する日付を指定します。一般会計固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。14期間まで使用できます。通常、期間14は監査調整用です。  
 この処理オプションは、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)などに使用されるため、編集されます。
4. **ドライバ・マスターのドライバ実行フラグをリセットするには、「1」を入力してください。**      ドライバ定義テーブル(F1630)のドライバ実行フラグをリセットするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: ドライバをリセットしない。  
 1: ドライバをリセットする。
5. **ドライバ残高テーブルに作成する元帳タイプを入力してください。**      AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)など、元帳のタイプを指定します。これはユーザー定義コード(09/LT)で、総勘定元帳に複数の会計元帳を同時に設定して、すべての取引の監査証跡を残すことができます。
6. **既存のドライバ残高を置き換えるには、「1」を入力してください。**      ドライバ残高テーブル(F1632)の既存のドライバ残高を置き換えるかどうか指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 置き換えない。  
 1: 置き換える。

### 活動

1. **ドライバの活動コードを入力してください。**      ドライバ残高テーブル(F1632)に書き込まれるドライバの活動コードを指定します。活動コードがF1632テーブルに書き込まれるのは、最終モードのみ

です。ドライバの基準テーブルに活動コードが指定されている場合は、この処理オプションを使用しても、テーブル内の活動コードは変更されません。「処理」タブのドライバ残高の置換処理オプションが空白で、活動コードがドライバの基準テーブルにない場合は、この処理オプションを設定する必要があります。

## ドライバ残高の確認

ドライバ計算を自動および手入力で行った場合のドライバ残高を確認できます。

この項では、ドライバ残高の確認方法について説明します。

### ドライバ残高の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ドライバ残高の検討	W1632ID	「ドライバ」(G1614)、「ドライバ残高の照会」 詳細グリッドのレコードを選択し、「選択」をクリックします。	ドライバ残高を確認します。

## ドライバ残高の確認

「ドライバ残高の検討」フォームにアクセスします。

**ドライバ残高の照会 - ドライバ残高の検討** i

OK(O) 取消(L) ツール(T)

---

ドライバコード:  *Number of man hours*      会計年度:

ビジネスユニット:  *EPS Distribution Center*      元帳タイプ:

活動コード:  *Request Bags*

---

**コスト・オブジェクト**    **転記額**

転記額 01	<input type="text" value="80.00"/>	転記額 02	<input type="text" value="80.00"/>
転記額 03	<input type="text" value="80.00"/>	転記額 04	<input type="text" value="80.00"/>
転記額 05	<input type="text" value="80.00"/>	転記額 06	<input type="text" value="80.00"/>
転記額 07	<input type="text" value="80.00"/>	転記額 08	<input type="text"/>
転記額 09	<input type="text"/>	転記額 10	<input type="text"/>
転記額 11	<input type="text"/>	転記額 12	<input type="text"/>
転記額 13	<input type="text"/>	転記額 14	<input type="text"/>
		年累計転記額	<input type="text" value="560.00"/>

「ドライバ残高の検討」フォーム

<b>ドライバ・コード</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のドライバを識別するコードを入力します。
<b>会計年度</b>	<p>会計年度を識別する4桁の番号を入力します。このフィールドには数値を入力することも、ブランクにして現行会計年度(「会社の設定」フォームで定義)を使用することもできます。</p> <p>会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。</p>
<b>コスト・オブジェクト1</b>	設備品目番号や住所録番号などのコスト・オブジェクト・コードを入力します。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および検証方法は補助元帳フィールドと同様です。ただし、コスト・オブジェクト・コード・フィールドのデータは、勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。
<b>補助元帳タイプ</b>	<p>補助元帳タイプを識別するために「補助元帳」フィールドで使用されるユーザー定義コード(00/ST)を入力し、補助元帳の編集方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 英数字フィールド(編集なし)</p> <p>N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)</p> <p>C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)</p>

コスト・オブジェクトと補助元帳タイプを確認するには、「コスト・オブジェクト」タブを選択します。

会計期間別の転記額を確認するには、「転記額」タブを選択します。

---

## ドライバ残高の除去

この項では、ドライバ残高の除去の概要と次の方法について説明します。

- ドライバ残高の除去
- ドライバ残高の除去の処理オプションの設定

### ドライバ残高の除去について

除去プログラムには、他のファイルにある関連データを除去しないようにチェックを実行する、事前定義基準が組み込まれています。

データの除去は、次のタスクから構成されます。

- 削除する情報の指定
- 除去プログラムの実行

ドライバ残高の除去プログラム (R1632P) を使用して、ドライバ残高テーブル (F1632) からデータを除去します。すべてのデータを除去することも、また、期間、元帳タイプ、会計年度を指定して該当するデータのみを除去することもできます。この処理を定期的に行うと、システム・パフォーマンスが向上する場合があります。また、この除去処理を使用すると、ドライバ計算を変更した場合またはドライバにエラーがある場合、指定したドライバに取引を再転記することもできます。レコードを除去した後に、ドライバ定義を訂正し、再びドライバ計算を実行できます。

処理オプションの期間 - 総勘定元帳オプションを空白にした場合、会計年度オプションを指定して、その会計年度の全期間のドライバ残高を除去する必要があります。会計期間または会計年度のいずれかを指定しないと、残高の除去は実行されません。

## ドライバ残高の除去

「ドライバ」(G1624) の「ドライバ残高の除去」を選択します。

## ドライバ残高の除去 (R1632P) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

<b>期間 - 総勘定元帳</b>	除去する会計期間を指定します。空白にすると、すべてのドライバ残高レコードが削除されます。
<b>会計年度、元帳タイプ</b>	ドライバ残高テーブルからレコードを除去する会計年度または元帳タイプを指定します。

## 第 19 章

# 外部ドライバ残高の処理

この章では、外部ドライバ残高の処理と外部ドライバ残高のインポートの概要、および次の方法について説明します。

- 外部ドライバ残高の手動入力
- 外部ドライバ残高の確認および改訂
- 外部ドライバ残高のアップロード
- 外部ドライバ残高の除去

---

## 外部ドライバ残高の処理について

外部ドライバ残高処理により、表計算ソフトや他社のソフトウェアなどの外部ソースからドライバ残高を入力し、ドライバ残高テーブル(F1632)にアップロードできます。

ドライバ残高を外部ドライバ残高テーブル(F1632Z1)に直接インポートすることも、外部ドライバ残高プログラム(P1632Z1)を使用して手動で入力することもできます。

外部ドライバ残高をF1632Z1テーブルにインポートまたは入力したら、外部ドライバ残高の処理プログラム(R1632Z1I)を使ってF1632テーブルにアップロードします。

外部ドライバ残高の処理が完了したら、F1632Z1テーブルは除去できます。

---

## 外部ドライバ残高のインポートについて

ドライバ残高が表計算ソフトまたは別のシステムにある場合、外部ドライバ残高テーブル(F1632Z1)に直接インポートしてから、ドライバ残高テーブル(F1632)にアップロードできます。

F1632Z1テーブルへ残高をインポートするには、カスタム・プログラムを作成する必要があります。次の表は、F1632Z1テーブルのフィールド入力時のガイドラインを示しています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
EDI-ユーザーID	CYEDUS	文字列	10	トランザクションの送信元を表すコードです。ユーザーID、ワークステーションID、外部システムのアドレス、ネットワークのノードなどを入力できます。このフィールドによって、トランザクションとそのソースの両方が識別されます。
EDI-バッチ番号	CYEDBT	文字列	15	送信元によってバッチに割り当てられる番号です。バッチ処理中に、検出された各制御(ユーザー)バッチ番号のJD Edwards EnterpriseOneトランザクションに新規のバッチ番号が割り当てられます。
EDI-トランザクション番号	CYEDTN	文字列	22	電子データ交換(EDI)の送信元によってトランザクションに割り当てられる番号です。EDI環境以外では、バッチ内のトランザクションを識別するために固有の番号を割り当てることができます。JD Edwards EnterpriseOneの伝票番号と同じにすることもできます。
EDI-行番号	CYEDLN	数値	7	EDIトランザクションの開始時に割り当てられる行番号です。この番号には、オーダー行番号(どのオーダー・タイプにも使用可)、請求書の支払項目、仕訳行番号などを指定できます。
EDI-伝票タイプ	CYEDCT	文字列	2	送信元によって割り当てられるEDIトランザクションの伝票タイプです。
トランザクション・タイプ	CYTYTN	文字列	8	特定のタイプのトランザクションを識別するコードです。
EDI-トランザクション・フォーマット	CYEDFT	文字列	10	送受信両方のEDIトランザクションの処理に使用する特定のマッピング構造を識別するコードです。
EDI-伝送日付	CYEDDT	日付	6	EDIトランザクションが伝送または受信された日付です。
送受信インディケータ	CYDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを示すコードです。
EDI-処理済明細行数	CYEDDL	数値	5	EDIトランザクションで伝送される明細行の数です。購買オーダー、請求書などの明細行の合計数です。
EDI-処理済	CYEDSP	文字	1	レコードが正常に処理されたかどうかを表すコードです。アプリケーションに応じて、CYEDSPフィールドは次のいずれかの値に更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1またはY - 正常に処理済</li> <li>ブランクまたはN - 未処理</li> </ul>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
取引先ID	CYPNID	文字列	15	EDIトランザクションで、取引先を識別するためのコードです。
トランザクション・アクション	CYTNAC	文字列	2	トランザクションで実行するアクティビティを示すコードです。EDIトランザクションでは、トランザクション・セットの目的コードや変更コードを表します。
EDI-レコード・タイプ	CYEDTY	文字	1	EDIトランザクション・レコードが見出し情報かまたは明細情報かを示す識別子です。
EDI-レコード順序	CYEDSQ	数値	2	H01、H02、D01など、EDIトランザクションの見出しまたは明細情報の相対的な位置を割り当てるときに使用する識別子です。
EDI-トランザクション・セット番号	CYEDTS	文字列	6	特定のタイプのEDIトランザクションを識別するコードです。
EDI-送受信インディケータ	CYEDER	文字	1	特定のトランザクション・セットが送信、受信、送受信のいずれかを示すコードです。コードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• S-送信</li> <li>• R-受信</li> <li>• B-送受信</li> </ul>
EDI-トランザクション・アクション	CYEDTC	文字	1	最終処理時に実行するアクションを識別するコードです。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A-トランザクションを新規追加する。</li> <li>• D-未処理のトランザクションを削除する。</li> </ul>
EDI-トランザクション・タイプ	CYEDTR	文字	1	トランザクションのタイプを識別するコードです。伝票(V)、請求書(I)、仕訳(J)などのコードが送信元によって割り当てられます。
EDI-バッチ・ファイル総勘定元帳レコード作成フラグ	CYEDGL	文字	1	請求書または伝票の処理時に総勘定元帳レコードを作成するかどうかを指定するバッチ・ファイル内のフラグです。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランク-総勘定元帳レコードを作成しない。</li> <li>• 1-総勘定元帳レコードを作成する。</li> </ul> <p>このフィールドに「1」を入力する場合、総勘定元帳の勘定科目コードの主科目および補助科目コードも入力する必要があります。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
バッチ・ファイル割引処理フラグ	CYEDDH	文字	1	割引額の計算方法を指定するバッチ・ファイル内のフラグです。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 - 計算に支払条件を使用する。</li> <li>1 - ユーザーによって一時変更された割引額を使用する。</li> <li>2 - ユーザーによって入力されたパーセント値を使用する。</li> </ul>
ユーザー住所番号	CYEDAN	数値	8	送信元によって割り当てられる住所番号です。この番号は、主に、PCから送信される売掛請求書および買掛伝票を新しい住所録番号と結び付けるために使用されます。 <p>住所録バッチ処理で自動採番により割り当てられた住所録番号は、バッチ・ファイル内の売掛請求書と買掛伝票で変更されます。この住所番号は、送信元によって割り当てられるユーザー住所番号と照合されます。</p>
ドライバ・コード	CYDRCD	文字列	10	収益性分析(管理会計)システム内のドライバを識別するコードです。
ビジネスユニット	CYMCU	文字列	12	原価のトラッキング対象となる業務の単位を表す英数字のコードです。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。 <p>ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。</p> <p>ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。</p>
西暦上2桁/会計年度	CYCFY	数値	4	西暦上2桁と会計年度を連結して指定する数字です。
元帳タイプ	CYLT	文字列	2	AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)などの元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)です。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。
ABC活動コード	CYACTB	文字列	10	活動基準原価計算で行う一連の活動を識別するコードです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
補助元帳	CYSBL	文字列	8	総勘定元帳の勘定科目を細分化して補助的に使用する科目を識別するコードです。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
補助元帳タイプ	CYSBLT	文字	1	補助元帳フィールドと併用するユーザー定義コード(00/ST)で、補助元帳タイプと補助元帳編集の実行方法を識別します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A - 英数字フィールド(編集なし)</li> <li>• N - 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)</li> <li>• C - 英数字フィールド(右揃え、空白で埋める)</li> </ul>
経営分析コード1	CYABR1	文字列	12	設備品目番号や住所録番号を表すコードです。コスト・オブジェクト・コードには、コスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードは勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。
経営分析タイプ1	CYABT1	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して追加または変更できます。
経営分析コード2	CYABR2	文字列	12	コスト・オブジェクトを表すコードです。設備品目番号、住所録番号などがコスト・オブジェクト・コードとして使用できます。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。
経営分析タイプ2	CYABT2	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
経営分析コード3	CYABR3	文字列	12	コスト・オブジェクトを表すコードです。設備品目番号、住所録番号などがコスト・オブジェクト・コードとして使用できます。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。
経営分析タイプ3	CYABT3	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。
経営分析コード4	CYABR4	文字列	12	コスト・オブジェクトを表すコードです。設備品目番号、住所録番号などがコスト・オブジェクト・コードとして使用できます。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および編集方法は、補助元帳フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コードはF0902テーブルに転記されません。
経営分析タイプ4	CYABT4	文字	1	コスト・オブジェクトのタイプおよび値の編集方法を指定するコードです。タイプはF1620テーブルに保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラムを使用して追加または変更できます。
略式品目番号	CYITM	数値	8	在庫品目を示す番号です。EnterpriseOneでは、代替品目番号、置換品目、バーコード、顧客番号、仕入先番号などを利用するために、3種類の品目番号、および他の品目番号との拡張相互参照機能(データ項目XRTを参照)が提供されています。有効な品目番号は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 略式品目番号 - 自動的に割り当てられる8桁の番号</li> <li>• 第2品目番号 - ユーザー定義および自由形式の、英数字25桁の品目番号</li> <li>• 第3品目番号 - ユーザー定義および自由形式の、英数字25桁の補足用の品目番号</li> </ul>
通貨コード(指定)	CYGRCX	文字列	3	基本通貨を示すコードです。
入力単位	CYUOM	文字列	2	在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード(00/UM)です。たとえば、CS(ケース)やBX(箱)などがあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
会社	CYCO	文字列	5	<p>特定の企業、組織、団体などを識別するコードです。会社コードは会社固定情報テーブル(F0010)に設定済で、完全な貸借対照表を備えた財務報告対象組織を指している必要があります。このレベルでは、企業間取引を行うことができます。</p> <p><b>注意:</b> 日付やAAI(自動仕訳)などのデフォルト値には会社00000を使用できます。取引の入力には会社00000は使用できません。</p>
転記額01 転記額02 転記額03 転記額04 転記額05 転記額06 転記額07 転記額08 転記額09 金額 - 転記額10 金額 - 転記額11 金額 - 転記額12 金額 - 転記額13 金額 - 転記額14	CYAN01 CYAN02 CYAN03 CYAN04 CYAN05 CYAN06 CYAN07 CYAN08 CYAN09 CYAN10 CYAN11 CYAN12 CYAN13 CYAN14	数値	15	<p>会計期間中に転記された正味金額を表す数値です。</p> <p>会社固定情報テーブル(F0010)の会計期間が使用されます。転記額は、期間の開始日付から終了日付までの借方金額と貸方金額の合計です。</p>
ユーザーID	CYUSER	文字列	10	ユーザー・プロフィールを識別するコードです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	説明
プログラムID	CYPID	文字列	10	<p>バッチまたは対話型プログラムを識別するIDです。たとえば、対話型プログラムである受注オーダーの入力プログラムのIDはP4210で、バッチ・プログラムである請求書の印刷プログラムのIDはR42565です。</p> <p>プログラムIDの桁数は固定されていません。この値は、次のようにTSSXXXという形式に従って割り当てられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TはIDの最初の文字を表します。プログラムの場合はP、レポートの場合はRなどのようにタイプを識別する英字です。たとえば、P4210のPは、対話型プログラムであることを示します。</li> <li>• SSはIDの2番目と3番目の数字です。この数字は、システムを示します。たとえば、P4210の42は、このプログラムがシステム42(受注管理システム)に属していることを示します。</li> <li>• XXXはIDの4から6番目の数字です。プログラムまたはレポートに固有な番号を表します。たとえば、P4210の10は、受注オーダー入力プログラムであることを表します。</li> </ul>
更新日付	CYUPMJ	日付	6	レコードが最後に更新された日付です。
最終更新時刻	CYUPMT	数値	6	レコードが最後に更新された時刻です。
ワーク・ステーションID	CYJOBN	文字列	10	特定のジョブを実行したワークステーションIDを示すコードです。
加重係数	CYWGHF	数値	8	<p>コスト・オブジェクトの複雑さを測定するのに使用する乗数です。</p> <p>コストが割り当てられる前に、この数字を使ってボリュームを因数分解する必要があります。</p>

## 外部ドライバ残高の手動入力

この項では、外部ドライバ残高の手動入力の概要とその方法について説明します。

### 外部ドライバ残高の手動入力について

ドライバ残高が表計算ソフトや別のシステムにある場合、外部ドライバ残高プログラム(P1632Z1)を使用して外部ドライバ残高テーブル(F1632Z1)に残高を手動で入力できます。

このプログラムでは、各残高が検証され、正しくない会社やビジネスユニットなど不正確な情報を入力するとエラー・メッセージが表示されます。

入力したドライバ残高が正しいかどうかを確認してください。確認したら、外部ドライバ残高の処理プログラム (R1632Z1I) を実行して、ドライバ残高テーブル (F1632) に残高をアップロードします。

## 外部ドライバ残高の手動入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
期間別外部ドライバ残高の改訂	W1632Z1B	「受信外部ドライバ・データ」(G16241)、「外部ドライバ残高」  「外部コスト・ドライバ残高の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	外部ドライバ残高を手動入力します。

## 外部ドライバ残高の手動入力

「期間別外部ドライバ残高の改訂」フォームにアクセスします。

外部ドライバ残高を手動で入力するには、次の手順に従います。

1. 「期間別外部ドライバ残高の改訂」フォームの見出し領域にある「ユーザーID」、「バッチNo.」、「会計年度」の各フィールドに値を入力するか、または値を変更します。
2. 「オプション」タブの「会社番号」、「ビジネスユニット」、「ドライバ・コード」、「単位」、「通貨コード」の各フィールドに、必要に応じて値を入力します。
3. 「品目No.」タブの「品目No.」、「活動」、「補助元帳」、「補助元帳タイプ」の各フィールドに、必要に応じて値を入力します。
4. 「コスト・オブジェクト」タブの次のフィールドに、必要に応じて値を入力します。
  - オブジェクト1
  - オブジェクト2
  - オブジェクト3
  - オブジェクト4
  - タイプ1
  - タイプ2
  - タイプ3
  - タイプ4
5. 「残高」タブの「残高01」フィールドおよびその他の残高フィールドに、必要に応じて値を入力します。  
正味残高は最大14まで入力できます。
6. 「OK」をクリックします。

## 外部ドライバ残高の確認と改訂

この項では、外部ドライバ残高の確認と改訂の概要とその方法について説明します。

## 外部ドライバ残高の確認と改訂について

外部ドライバ残高を外部ドライバ残高テーブル (F1632Z1) にインポートするか、または手動で入力したら、外部ドライバ残高プログラム (P1632Z1) でその残高が正しいかどうかを確認し、必要に応じて改訂できます。

外部ドライバ残高の確認と改訂が完了したら、外部ドライバ残高の処理プログラム (R1632Z1I) を使って残高をドライバ残高テーブル (F1632) にアップロードします。

外部ドライバ残高の処理プログラムを実行すると、エラーの発生したレコードを記載したレポートが作成されます。たとえば、会社やビジネスユニットが正しくない場合にレポートが作成されます。F1632テーブルの整合性を保持するために、外部ドライバ残高プログラムを使用してエラーを修正してからF1632テーブルに残高をアップロードする必要があります。

## 外部ドライバ残高の確認と改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
外部コスト・ドライバ残高の処理	W1632Z1B	「受信外部ドライバ・データ」(G16241)、「外部ドライバ残高」	外部ドライバ残高の確認および改訂を行います。

## 外部ドライバ残高の確認と改訂

「外部コスト・ドライバ残高の処理」フォームにアクセスします。

外部ドライバ残高を確認および改訂するには、次の手順に従います。

1. 「外部コスト・ドライバ残高の処理」フォームで、「検索」をクリックしてすべてのドライバ残高を表示するか、または次のフィールドに検索対象を絞るための値を入力してから「検索」をクリックします。
  - ユーザーID
  - 会計年度
  - バッチNo.
  - 元帳タイプ
  - トランザクションNo.
2. 「処理済み」チェックボックスを選択すると、処理済みのドライバ残高のみが表示されます。
3. 特定の残高についての詳細情報を確認および改訂するには、該当する残高を選んでから「選択」をクリックします。
4. 「期間別外部ドライバ残高の改訂」フォームの各フィールドを確認し、必要に応じて変更を加えたら、「OK」をクリックします。

## 外部ドライバ残高のアップロード

この項では、外部ドライバ残高のアップロードの概要と次の方法について説明します。

- 外部ドライバ残高のアップロード
- 外部ドライバ残高処理の処理オプションの設定

## 外部ドライバ残高のアップロードについて

外部ドライバ残高テーブル (F1632Z1) の残高レコードを確認および改訂したら、外部ドライバ残高の処理プログラム (R1632Z1I) を実行してドライバ残高テーブル (F1632) にレコードをアップロードします。

外部ドライバ残高の処理プログラムを実行すると、F1632Z1 テーブルから選択されたレコード数、F1632 テーブルで追加および更新されたレコード数、エラーの発生したレコード数が記載されたレポートが作成されます。

レコードにエラーが発生すると、エラー・メッセージが作成されます。ワークフロー・メッセージには、レコードにエラーが発生したことが示されます。外部ドライバ残高プログラム (P1632Z1) を使ってエラーを修正し、外部ドライバ残高の処理プログラムを再度実行してください。

外部ドライバ残高の処理プログラム (R1632Z1I) を実行するには、「受信外部ドライバ・データ」(G16241) の「外部ドライバ残高の処理」を選択します。

## 外部ドライバ残高のアップロードに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
外部ドライバ残高の処理	W98305WA	「受信外部ドライバ・データ」(G16241)、「外部ドライバ残高の処理」	外部ドライバ残高をアップロードします。

## 外部ドライバ残高の処理 (R1632Z1I) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、使用する元帳タイプと、外部ドライバ残高テーブル (F1632Z1) のレコードをどのようにドライバ残高テーブル (F1632) に追加するかを指定します。

### オプション

1. 元帳タイプ  
受信外部ドライバ残高処理プログラム (R1632Z1I) のデータ選択条件に使用する元帳タイプを指定します。
2. アクション・コードの一時変更  
アクション・コードの値を変更するかどうかを指定します。アクション・コード・フィールドの C の値を A に変更するには「1」を入力します。  
アクション・コード・フィールドの値が A の場合、外部ドライバ残高テーブル (F1632Z1) のレコードが、対応するドライバ残高テーブル (F1632) の残高に追加されます。  
アクション・コード・フィールドの値が C の場合、F1632 テーブルの残高が対応する F1632Z1 テーブルの残高で上書きされます。

## 外部ドライバ残高の除去

この項では、外部ドライバ残高の除去の概要と次の方法について説明します。

- 外部ドライバ残高の除去
- 外部ドライバ残高の除去の処理オプションの設定

## 外部ドライバ残高の除去について

外部ドライバ残高をドライバ残高テーブル(F1632)にアップロードしたら、外部ドライバ残高の除去プログラム(R1632Z1P)を使って外部ドライバ残高テーブル(F1632Z1)のレコードを除去できます。

データ選択を使用して除去するレコードを選択します。処理オプションを使用して、処理済レコードのみを除去するか、または処理済および未処理の両方のレコードを除去するかを指定することもできます。

## 外部ドライバ残高の除去に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ・バージョンの処理	W98305WA	「受信外部ドライバ・データ」(G16241)、「外部ドライバ残高の除去」	外部ドライバ残高を除去します。

## 外部ドライバ残高の除去プログラム(R1632Z1P)の実行

「受信外部ドライバ・データ」(G16241)の「外部ドライバ残高の除去」を選択します。

## 外部ドライバ残高の除去(R1632Z1P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### オプション

1. 未処理レコードの除去
 

外部ドライバ残高テーブル(F1632Z1)の未処理レコードを除去するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 処理済レコードのみを除去する。

1: 処理済レコードおよび未処理レコードを除去する。

## 第 20 章

# 活動の確認

この項では、活動、活動別プロジェクトの実際原価のトラッキング、活動別プロジェクト・プロファイルの定義、活動別時間入力、活動の確認、およびABCワークベンチの概要と、次の方法について説明します。

- 活動原価の照会
- 活動原価照会の処理オプションの設定
- 活動の確認
- 活動マスター・レポートの検討
- 活動マスター・レポートの処理オプションの設定

---

## 活動について

活動基準原価の計算にJD Edwards EnterpriseOne収益性分析(ACA)を使用する場合は、活動およびプロセス原価を計算するために収益性分析機能を活用します。計算タイプ、残高の取得元、ドライバ、および計算結果の保存先を指定する計算定義を設定できます。また、多階層配賦に対する計算を行う場合は、計算の順序を指定できます。

活動基準原価計算を行う前に、分析対象プロセスの各タスクを定義する必要があります。次に、定義した各タスクにドライバを割り当てます。

たとえば、買掛管理システムのプロセスには次のようなタスクがあります。

- 請求書の受領
- 請求書の承認およびコード化の要求
- 仕入先番号の検索
- 仕入先マスターへの仕入先の追加
- 支払金額の確認と承認
- 請求書の入力
- エラーの訂正
- 小切手の処理
- 小切手の印刷
- 小切手への署名
- 送金書類の添付
- 小切手の送付準備
- 小切手の送付

各タスクの所要時間、および作業時間、機械稼働時間、所要床面積などの費用を分析すると、社内での買掛管理プロセスの実際原価が明らかになります。この結果に基づいて、排除可能なステップがあるかどうか、あるいはプロセスの一部または全体のアウトソーシングが可能かどうかを判断します。

---

## 活動別プロジェクトの実際原価のトラッキングについて

JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne製造原価計算、JD Edwards EnterpriseOne製造データ管理の各プロジェクトの実際原価を活動別にトラッキングし、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを使用してこれらのプロジェクトの実際原価を結合できます。

プロジェクト原価のトラッキング方法はシステムによって次のように異なります。

- 作業原価プロジェクトの場合、プロジェクトの実際資材費を入力して更新します。

総勘定元帳に実際原価の取引が作成されます。この取引は、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムで処理できます。

- 製造プロジェクトの場合、任意勘定規則を使用して収益および原価の仕訳とプロジェクト番号を入力します。

各プロジェクト番号には、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル (F4801T) と関連付けられた編集規則を持つコスト・オブジェクト・タイプを割り当てます。

---

## 活動別プロジェクト・プロファイルの定義について

プロジェクト・プロファイルは、プロジェクトの遂行に必要な活動で構成されています。たとえば、自転車製造のプロジェクト・プロファイルには、部品の購入、フレームの組立て、ブレーキ部品の製造、自転車の塗装などの活動があります。このような活動により、プロジェクト・プロファイルが定義されます。

各活動には、多数のコスト・ドライバを設定できます。コスト・ドライバとは、費用と収益に影響を与える活動または資源の需要量を測定する手段です。ある活動に必要な資材を購入するための購買オーダー行数がその例です。

---

## 活動別時間入力について

従業員時間入力とJD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを統合することにより、従業員が1つの活動に費やした時間を特定できます。収益性分析固定情報テーブル (F1609) でコスト・オブジェクトがアクティブに設定されている場合、時間入力アプリケーションの「スピード時間入力の改訂」フォームのコスト・オブジェクト関連フィールドが入力可能になります。

コスト・オブジェクト関連フィールドが入力可能の場合、4つのコスト・オブジェクト、4つのコスト・オブジェクト・タイプ、1つの品目に対するカラムが表示されます。従業員は、これらのフィールドを使用して、入力した時間の各行に関連付けられたコスト・オブジェクトを識別できます。

時間入力は、会計処理の最初のステップにすぎません。従業員がタイムカード情報を入力したら、システムにコスト・オブジェクト・データが認識される必要があります。データは従業員取引明細テーブル (F06116) に保存され、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムで活動別の勤務時間の評価に使用されます。

さらに、他社のシステムでタイムカード情報を保管する場合、データはまず従業員取引バッチ・テーブル (F06116Z1) にアップロードされ、そこで処理されてから従業員取引明細テーブル (F06116) に保存されます。時間入力アプリケーションの最終ステップでは、従業員取引履歴テーブル (F0618) の更新、仕訳の作成、次の給与サイクルの準備が行われます。このとき、F0618 テーブルにあるコスト・オブジェクト情報がドライバ残高テーブル (F1632) に保存され、活動別にかかった時間が評価されます。

## 活動の確認

この項では、活動の確認の概要、ABCワークベンチ、および次の方法について説明します。

- 活動原価の照会
- 活動原価照会 (P1641) の処理オプションの設定
- 活動の確認
- 活動マスター・レポートの検討
- 活動マスター・レポート (R1640) の処理オプションの設定

### 活動の確認について

活動基準原価計算に JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析システムを使用する際には、活動およびプロセス原価を計算するために収益性分析の機能を活用します。計算タイプ、残高の取得元、ドライバ (残高の基準)、および計算結果の保存先を指定する計算定義を設定できます。また、多階層配賦計算を行う場合は、計算の順序を指定できます。すべてのコスト・オブジェクト、ドライバ、割当を活動別に設定すると、コスト・アナライザ残高などの情報や、ドライバ定義、コスト・オブジェクト・タイプなどの情報を個別に確認できます。

各割当ごとに ID が割り振られているため、必要に応じて複数の構成を設定できます。プロセスと活動に関するすべての親/子関係および階層の確認が可能です。

### ABCワークベンチについて

活動を確認する場合、次のフォームにアクセスして、活動基準原価計算のすべての要素を見ることができます。

フォーム	用途
ビジネスユニットの改訂	部門の設定または改訂を行います。
組織構造	勘定科目表のリソースの設定または改訂を行います。勘定科目表は総勘定元帳の勘定科目の構造を示します。
活動原価照会	原価を活動別に照会できます。活動別原価の計算は、コスト・アナライザ残高テーブルに基づいて行われます。活動原価の明細情報をコスト・オブジェクト別に確認できます。
活動の改訂	活動属性、カテゴリ・コード、ドライバ・コードなどを入力または変更できます。

フォーム	用途
原価プールの定義	共通のドライバを使用する原価要素のグループを設定できます。
ドライバの定義	ドライバの定義および計算方法を作成および更新できます。ドライバ・ボリュームを集計レベルで計算する方法を定義できます。
ドライバ・ボリュームの改訂	ドライバ・ボリュームの計算とドライバ残高を作成できます。ドライバ定義に基づいて、ドライバ選択プログラムで計算を行うドライバを指定します。
コスト・オブジェクト・タイプの定義	ユーザー定義のコスト・オブジェクト・タイプを設定できます。設定したコスト・オブジェクト・タイプは、手動による仕訳入力、バッチ伝票入力、標準伝票入力、および請求書入力で使用できます。
コスト割当ての定義	収益性分析システムでは、取引処理時に収集した情報に基づいて、コスト割当てを設定できます。任意勘定規則を設定して、管理会計または活動基準原価計算を実行するためのコストを割り当てます。
コスト・アナライザ残高	コスト・アナライザのデータを検討できます。転記額や年累計残高など、選択したデータの詳細を確認できます。コスト・アナライザへはABCワークベンチからアクセスできますが、活動別にデータを照会できるのは、収益性分析固定情報の活動基準原価計算オプションが有効な場合のみです。

**注意:** ABCワークベンチの処理オプションの設定で、表示される多階層配賦の階層レベルをカスタマイズできます。

## 活動の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
活動の処理	W1641B	「活動基準原価計算」(G1616)、「活動原価照会」	活動原価を照会します。
活動の入力/変更	W1640B	「活動基準原価計算」(G1616)、「ABCワークベンチ」 「追加」をクリックします。	活動を確認します。
使用可能なバージョン	W98305WA	「活動基準原価計算」(G1616)、「活動マスター・レポート」	活動マスター・レポートを検討します。

## 活動原価の照会

「活動の処理」フォームにアクセスします。

活動を照会することで、コスト・アナライザ残高を検討できます。活動またはレベルを選択して、次の項目を照会できます。

- 活動またはプロセス原価
- コスト・オブジェクト別活動原価

活動原価を照会するには、次の手順に従います。

1. 「活動の処理」フォームで「オプション」タブをクリックして次のフィールドに値を入力し、「検索」をクリックします。
  - 活動コード
  - 開始レベル
  - ビューNo.
  - 元帳タイプ
 処理オプションの選択に基づいて、原価が活動別に表示されます。
2. 日付で検索するには、「日付」タブを選択して次のフィールドに値を入力し、「検索」をクリックします。
  - 会計年度
  - 開始期間
  - 終了期間
3. 「検索」をクリックし、活動を選択して、「ロー」メニューの「コスト・オブジェクト」を選択します。
4. 「活動別コスト・オブジェクト金額」フォームで「オプション」タブを選択して、ビジネスユニット別転記済レコードを確認します。
5. 「コスト・オブジェクト」タブを選択して、コスト・オブジェクトとそのタイプの詳細情報を確認します。
6. 「日付」タブを選択して、転記した情報を確認します。
7. 「閉じる」をクリックして、「活動の処理」フォームに戻ります。

## 活動原価照会 (P1641) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- |                 |  |
|-----------------|--|
| <b>1. 開始レベル</b> | 活動原価照会プログラムで表示される最上位の活動レベル・コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、レベル1以下の活動が表示されます。                                  |
| <b>2. ビュー番号</b> | コスト・アナライザから取得するコスト・セットを指定します。<br>有効値は1から10です。<br>空白にすると、エラー・メッセージが表示されます。原価は表示されません。                     |
| <b>3. 会計年度</b>  | コスト・アナライザから活動コストを取得する際に使用される会計年度を指定します。<br>空白にすると、コストは表示されず、会計年度が無効であることを示すエラー・メッセージが表示されます。             |
| <b>4. 元帳タイプ</b> | コスト・アナライザから活動コストを取得する際に使用される元帳タイプを指定します。AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)などの、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)を入力します。 |

### 5. A. 開始期間、B. 終了期間

空白にすると、AA(実績金額)の活動コストが取得されます。

コストを取得する開始期間または終了期間を指定します。

有効値は1から14です。

使用している会計期間パターンに対応する値を入力する必要があります。空白にすると、期間1が使用されます。

## 処理

### 1. 自動検索

活動原価照会プログラムの詳細グリッドにデータを自動的にロードするかどうかを指定します。

この機能は、取り込むレコードが少ない場合にのみ使用してください。レコードが多いとシステムのパフォーマンスが低下する可能性があります。空白にすると、手動でデータを検索する必要があります。

## 表示

### 1. 複数レベル

活動原価照会プログラムで、親レベルとその子レベルの活動を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 単一レベル。指定したレベルの活動のみが表示されます。

1: 複数レベル。指定した親レベルとそのすべての子レベルの活動が表示されます。

### 2. コスト

活動原価照会プログラムで、当初転記コストまたはコスト残高を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: コスト残高が表示されます。

1: 当初転記コストが表示されます。

## 活動の確認

「活動の入力/変更」フォームにアクセスします。

活動を確認するには、次の手順に従います。

1. 「活動原価計算ワークベンチの処理」の「活動コード」フィールドに値を入力して、「検索」をクリックします。
2. 詳細グリッドの+(プラス)記号をクリックすると、サブプロセスが表示されます。
3. 「活動の入力/変更」フォームに表示するサブプロセスをクリックします。
4. 「活動の入力/変更」フォームで、必要に応じて変更を加えます。
5. 「OK」をクリックして「活動原価計算ワークベンチの処理」フォームに戻ります。

その他の方法として、活動またはサブプロセスを強調表示して「ロー」メニューの「活動の改訂」を選択しても、「活動の入力/変更」フォームにアクセスできます。

## 活動マスター・レポートの検討

「活動基準原価計算」(G1616)の「活動マスター・レポート」を選択します。

活動マスター・レポート(R1640)で、活動およびプロセスを検討できます。データ選択と処理オプションに基づいて、複数レベルを検討したり、プロセスとサブプロセスの階層、活動とグループの階層を検討したりできます。活動属性およびカテゴリ・コードを使用して、特定の活動グループや活動を指定できます。

### 関連項目:

第 20 章、「活動の確認」、「活動原価の照会」、164ページ

## 活動マスター・レポート(R1640)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

#### 1. 詳細レベル

レポートに出力する情報の詳細レベルを指定します。複数レベルを指定すると、親レベルとその子レベルの活動が出力されます。単一レベルを指定すると、指定したレベルの活動のみが出力されます。値は次のとおりです。

1: 複数レベルでレポートを印刷します。

空白: 単一レベルでレポートを印刷します。

#### 2. (AからE)アクティビティ・コストの選択に使用する項目(必須)

コスト・アナライザから活動原価を取得する際に使用される項目を指定します。有効値は1から10です。このオプションを空白にすると、エラー・メッセージが表示され、原価は印刷されません。

#### 3. (AからB)印刷する項目の選択

出力する活動の属性とカテゴリ・コードを指定します。特定の属性でデータがソートされている場合、その属性番号とここで入力した番号が一致するようにしてください。属性番号およびカテゴリ・コードは、1から5から選択します。

このオプションを空白にすると、それぞれ属性1、カテゴリ・コード1が出力されます。



## 第 21 章

# 割当の処理

この章では、割当、割当の設定、繰返し割当の概要、および次の方法について説明します。

- レートの設定
- 割当の設定
- 繰返し割当の設定
- 最大繰返ししきい値の指定
- コスト・オブジェクト照合の使い方
- コスト割当の処理
- コスト割当計算の実行
- コスト割当取引の確認
- 割当計算レポートの確認

---

## 割当について

割当機能は、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析における主要な要素です。この機能は、実際のデータを変更せずに、間接費を配賦し、仮定条件に基づいて予測を立て、様々な条件を想定できる柔軟性を備えたツールです。

割当とは、活動との因果関係を明確にすることのできない費用および収益を再配賦する方法です。割当により、費用または収益を認識および把握し、各品目、コスト・オブジェクト、補助元帳に配賦できます。たとえば、間接費を製品、顧客、および活動に配賦できます。この機能の柔軟性により、入荷などの活動別に原価を出力するレポートを作成したり、顧客別および製品別に収益性を分析したりすることが可能になります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析を使用せずに原価配賦を実行することもできますが、このシステムを使用することにより配賦がより正確に行われ、さらに意義のある信頼性の高い配賦を実行できます。適切なビジネス・ドライバを使用して各製品および顧客に間接費を配賦できるため、製品別または顧客別の詳細な結果が得られます。

たとえば、特定の顧客には配賦できない一般的な出荷費用が発生するとします。受注オーダー数に基づいて割当が計算された場合、顧客の受注オーダー数を分子、受注オーダーの合計数を分母とした出荷費用が顧客に比例配分されます。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では、現行のJD Edwards EnterpriseOne一般会計の配賦プログラムの柔軟性と多様性をさらに拡張した、割当というまったく新しい機能を提供しています。

収益性分析の割当機能は、JD Edwards EnterpriseOne一般会計の配賦機能とは次の点が大きく異なります。

- コスト・オブジェクトおよび品目に原価を割り当てることができます。
- ドライバ情報に基づいて原価を割り当てることができます。
- すべての勘定科目およびビジネスユニットのカテゴリ・コード、範囲、値、リストの選択が可能になり、データ選択が大幅に改善されました。
- JD Edwards EnterpriseOne収益性分析では多階層に配賦を行うことができます。
- 割当機能では、配賦レコードが勘定残高テーブル(F0902)に転記されません。

---

## 割当の設定について

割当を設定するには、次の作業を行う必要があります。

- 割当の定義
- 計算タイプの選択
- 割当元(ソース)(配賦元(ソース))の入力
- 基準の入力
- 日付定義の入力
- 割当先(配賦先)の入力

### 割当の定義

割当には、割当順序の記述見出しレコードがあります。割当順序とは、割当計算を行う際の順序または階層のことです。多階層の割当計算を可能にするため、割当に1つまたは複数の割当順序を指定できます。たとえば、販売活動の割当では、時間比率別の販売コストと、顧客の受注明細行数別販売コストの2つの順序を指定できます。

割当を定義する際には、割当を識別する情報を入力し、複数の割当の中でその割当を何番目に処理するかを指定する必要があります。1つの割当に複数の順序を設定する場合、設定済の割当順序から次の情報が取得されます。

- 割当名
- 日付定義
- 割当元(配賦元) - ドライバまたはコスト・アナライザ
- 基準 - ドライバ、コスト・アナライザ、または係数

### 計算タイプの選択

インデックス計算、変数割当(変数配賦)、レート基準、レート計算のいずれかに決める必要があります。

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。各計算タイプには、次の有効化規則があります。

計算タイプ	有効化規則
インデックス計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。</li> <li>基準は、係数になります。</li> <li>配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。</li> </ul>
変数配賦	<ul style="list-style-type: none"> <li>配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルになります。</li> <li>基準は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。係数は入力できません。</li> <li>配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。</li> </ul>
レート計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルになります。</li> <li>基準は、ドライバ残高テーブルになります。</li> <li>配賦先は、レート・テーブルの原価プールまたは活動レートしか指定できません。</li> </ul>
レート基準計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>配賦元は、ドライバ残高テーブルになります。</li> <li>基準の係数は、レート・テーブルから取得されます。</li> <li>配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。</li> </ul>

配賦元および基準の定義を入力する際に、次のビジネス・ビューのバージョンを定義し、データ選択方法をカスタマイズできます。

- コスト計算残高選択 (R16102)
- コスト計算ドライバ選択 (R16132)
- コスト計算レート選択 (R16142)

コスト・アナライザ、ドライバ残高、またはレートのバージョンを選択するには、該当する計算タイプ・オプションをクリックします。

### 配賦元(ソース)の入力

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。各計算タイプの配賦元には、次の有効化規則があります。

計算タイプ	有効化規則
インデックス計算	配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。
変数配賦	配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルになります。

計算タイプ	有効化規則
レート計算	配賦元は、コスト・アナライザ・テーブルになります。
レート基準計算	配賦元は、ドライバ残高テーブルになります。

選択した計算タイプに応じて適切なバージョンを選択し、計算タイプの設定に基づいて割当順序のデータ選択を設定します。配賦元がコスト・アナライザ残高テーブルのデータの場合、ビジュアル・アシスト・ボタンをクリックすると、コスト計算残高選択プログラム (R16102) のバージョンが表示されます。「バージョンの処理」フォームで、コスト計算残高選択の既存のバージョンを選択するか、または新しいバージョンを作成できます。指定したコスト・アナライザ・バージョンで、該当の割当順序に対し、次のデータ選択項目を定義します。

- ビュー
- 元帳タイプ (AA)
- ビジネスユニット
- 勘定科目

### 基準の入力

基準には、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブル、レート・テーブルのデータやインデックス係数を指定できます。各計算タイプの基準には、次の有効化規則があります。

計算タイプ	有効化規則
インデックス計算	基準は、係数になります。
変数配賦	基準は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。係数は入力できません。
レート計算	基準は、ドライバ残高テーブルになります。
レート基準計算	基準は、レート・テーブルになります。

たとえば、ドライバ残高テーブルの統計データに基づいて原価の再割当を実行するとします。ビジュアル・アシスト・ボタンをクリックすると、原価計算ドライバ選択のバージョン (R16132) が表示されます。「バージョンの処理」フォームで、コスト計算ドライバ選択の既存のバージョンを選択するか、または新しいバージョンを作成し、次のデータ選択項目を定義します。

- ドライバ・コード
- 元帳タイプ (AA)
- ビジネスユニット
- 会計年度

### 日付定義の入力

割当順序の配賦元、基準、および配賦先の日付を定義します。

また、割当頻度を月次、四半期、または年次のいずれかに設定できます。ここで設定した期間や年度に従って、割当が自動的に実行されます。

コスト割当計算プログラム (R1610) を実行する場合、割当順序で定義した周期で割当を自動的に実行するかどうかを設定できます。

## 配賦先の入力

コスト割当の計算結果の配賦先を定義します。

各フィールドには4つのオプションがあります。コスト割当の計算結果を、特定の配賦先(指定)、基準フィールドの値(基準)、または配賦元に割り当てることができます。一致オプションを選択することもできます。このオプションでは、配賦元フィールドの値と基準フィールドの値が一致したときに行う計算を指定できます。配賦先の値は、配賦元および基準の各フィールドの値と同じになります。このオプションは、計算タイプにインデックス計算を選択した場合は指定できません。

たとえば、配賦元に指定したビジネスユニットに原価を割り当てるとします。ただし、勘定科目は異なるものを使用します。この場合、「配賦先」オプションを入力するときに「配賦元」と同じビジネスユニットを指定します。新しい主科目には、指定値を入力する必要があります。

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。各計算タイプの配賦先には、次の有効化規則があります。

計算タイプ	有効化規則
インデックス計算	配賦元または指定の各オプションの設定に基づいて、計算結果をコスト・アナライザ残高テーブルに反映します。
変数配賦	配賦元、基準、一致または指定の各オプションのいずれかの設定に基づいて、計算結果をコスト・アナライザ残高テーブルに反映します。
レート計算	配賦先は、レート・テーブルの原価プールまたは活動コードしか指定できません。
レート基準計算	計算結果金額を、指定された勘定科目、活動、およびコスト・オブジェクトに基づいてコスト・アナライザ残高テーブルに保存します。勘定科目は指定する必要があります。

### 例: インデックス計算

インデックス計算では、係数を使って予想金額を計算できます。たとえば、今年度予算の10%増加額を基準にして、次年度の予算を検討するとします。この場合、コスト・アナライザ残高に係数110%を掛けるインデックス計算を作成します。

### 例: 変数配賦

すべての間接販売費を受注オーダー数に応じて各販売店に配賦するとします。ただし、実際の取引には配賦を反映させず、配賦結果の分析のみを行うとします。このような処理も、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析の割当機能を使用すれば可能です。次の手順で変数配賦割当は実行されます。

- コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) から勘定残高を取得します。
- ビジネスユニットごとの受注オーダー数をドライバとして使用します。
- コスト・アナライザ残高テーブルから取り込んだ間接販売費の合計額を、受注オーダーの割合に応じて比例配分します。
- 比例配分した費用を各販売店(ビジネスユニット)に割り当てます。

**例: レート計算**

レート計算は、単位当たりのレートを把握する際に行います。たとえば、売掛管理プロセスの各活動にどれだけの原価を費やしているかを把握し、プロセスを合理化すべきかどうかを判断する必要があるとします。この場合、レート計算割当を設定して各活動の原価を計算し、改善すべき活動を検討できます。

**例: レート基準計算**

レート基準では、ユーザー定義済の単位当たりレート、またはレート計算割当で計算されたレートを使用して、コストやドライバ・ボリュームを計算します。たとえば、作業量の多い処理に対して特定の顧客に追加料金を請求する場合、設定レートにそのプロセスに費やした作業時間を乗算します。

## 繰返し割当について

コストの割当を設定する際、繰返し割当を行うように指定できます。繰返し割当は通常、変数配賦に使用します。サポート部門によるサービスのコストを割り当てる際に便利です。

繰返し割当では、最大繰返し回数または繰返し実行最低残高を指定します。最大繰返し回数または繰返し最低残高に達するまで割当が繰り返されます。

**例: コスト割当の繰返し**

この例では、IT部門が人事部にサービスを提供し、人事部はIT部門、製造部門、マーケティング部門にサービスを提供します。

初回のコスト割当では、人事部に90,000、IT部門に20,000のコストがあります。人事部のコストは3つの部門に対して次のように割り当てられます。

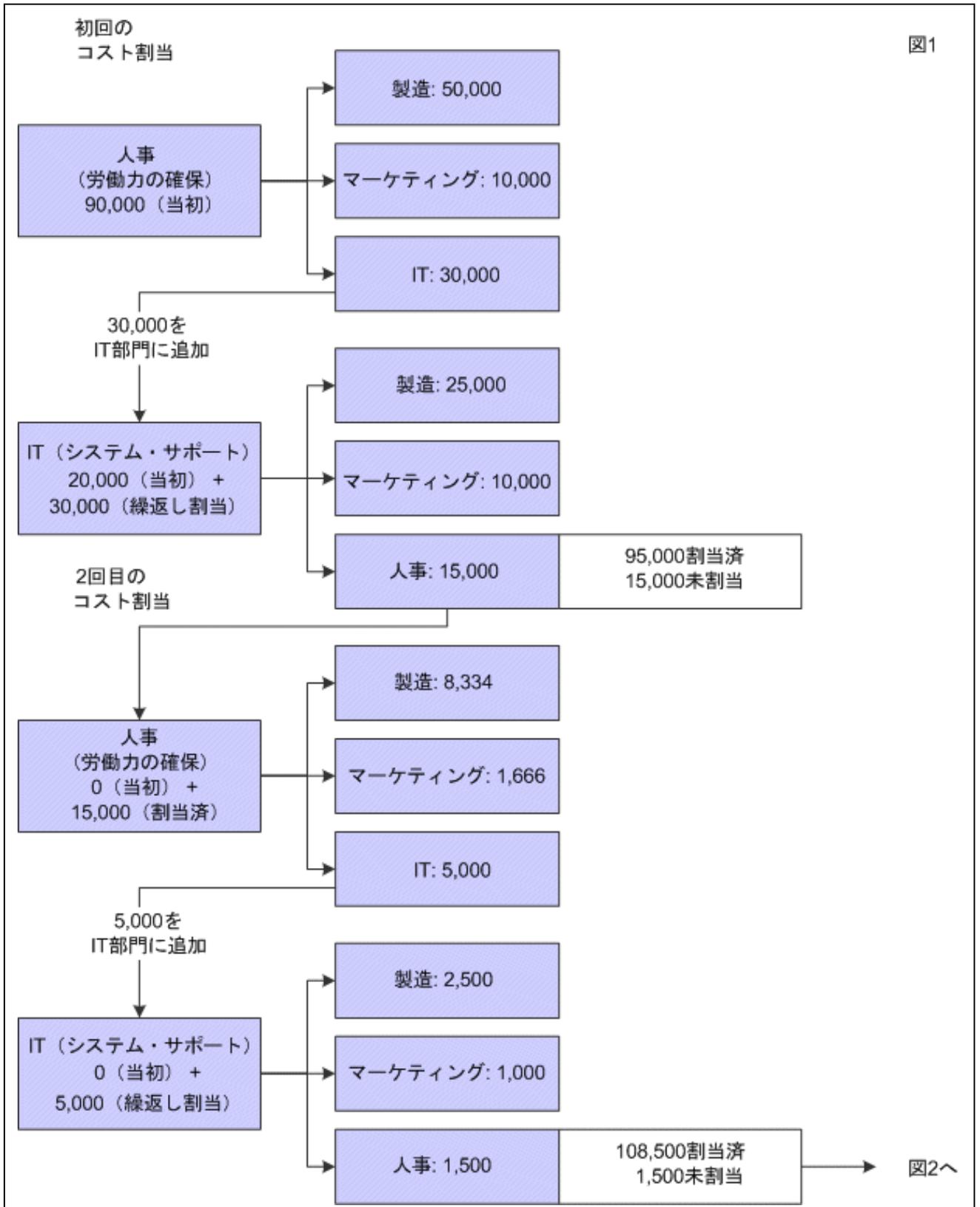
部門	コスト
製造	50,000
マーケティング	10,000
IT	30,000

IT部門の合計コスト(当初の20,000と人事部からの30,000の合計)は、次のように他部門に割り当てられます。

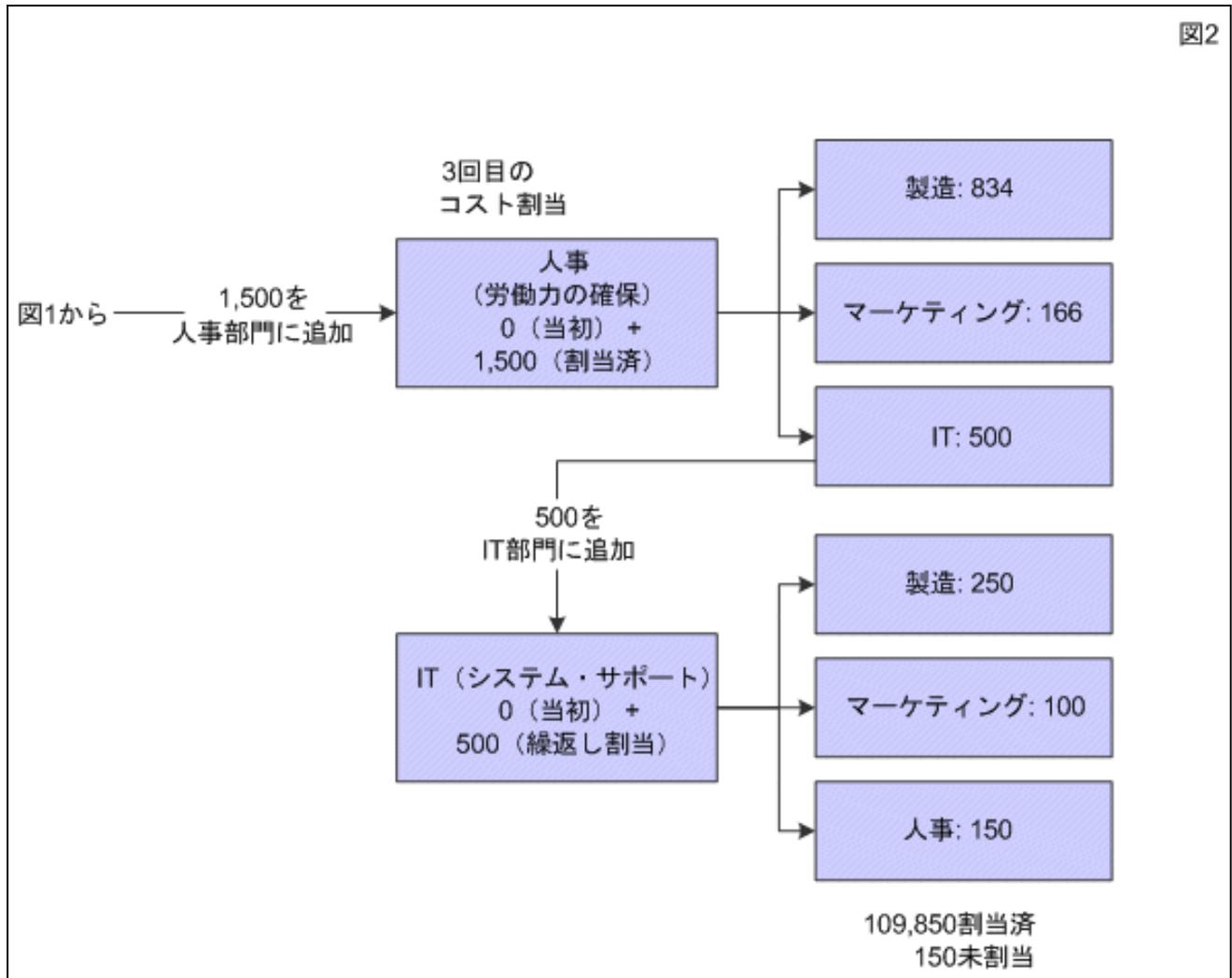
部門	コスト
製造	25,000
マーケティング	10,000
人事	15,000

これで初回割当は完了です。ただし、人事部に15,000の残高が残ります。繰返し割当を設定すると、関連部署への割当が継続されます。最大繰返し回数または繰返し実行最低残高を指定すると、割当が完了していなくても、繰返し割当を終了できます。

次の図に、繰返し割当のプロセスを示します。



初回および2回目のコスト割当



3回目のコスト割当

## レートの設定

この項では、レートの設定の概要とその設定方法について説明します。

### レートの設定について

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のレートを基準にして、費用の再配賦を行うことができます。たとえば、広告宣伝費を計算するには、各製品の受注オーダー明細行の金額を取得し、その値に各製品のレートを乗算します。

レート・マスターの改訂プログラム(P1642)を使ってレートを設定すると、レートにID番号が割り当てられ、次のテーブルにレートのデータが保存されます。

- レート・マスター見出しテーブル(F1642)
- レート・マスター明細テーブル(F16421)

品目、コスト・オブジェクト、活動または原価プール、および補助元帳タイプに対してレートを設定できます。レートを定義する際、活動または原価プールのデフォルト・レートを設定するように求められます。デフォルト・レートは、割当の配賦元情報と一致するレートがレート・マスターにない場合に、レート基準計算で使用されます。

## レートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
レートを入力/変更	W1642B	「割当て」(G1623)、「レート・マスターの改訂」  「レートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	レートを設定します。

## レートの設定

「レートを入力/変更」フォームにアクセスします。

### 原価タイプ

品目の原価要素を指定するコードを入力します。コスト・オブジェクト・タイプの例は次のとおりです。

- A1: 購買原材料
- B1: 作業工程直接労務費積上げ
- B2: 作業工程段取労務費積上げ
- C1: 作業工程変動間接費積上げ
- C2: 作業工程固定間接費積上げ
- Dx: 作業工程外注費積上げ
- Xx: 光熱費や水道代などの追加間接費

通常、その他費用の計算にはタイプXx(追加間接費)を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使用して別の原価積上げを計算できます。この原価要素は、ユーザー定義の6つの集計原価バケットのうちの1つと関連付けられます。

### ビジネスユニット

原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。

ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

### 原価計算方法

品目原価を計算する際の基準を指定するユーザー定義コード(40/CM)を入力します。原価計算方法01から19までは、JD Edwards EnterpriseOneにより予約されています。

### コスト・プール

1つの活動に関連する原価要素のグループを入力します。

### タイプ1 からタイプ4

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コ

スト・オブジェクト・タイプ・プログラム (P1620) を使用して追加または変更できます。

**コスト・オブジェクト1 からコスト・オブジェクト4**

設備品目番号や住所録番号などのコスト・オブジェクト・コードを入力します。コスト・オブジェクト・コードを入力する場合は、同時にコスト・オブジェクト・タイプも指定する必要があります。このフィールドの機能および検証方法は「補助元帳」フィールドと同じです。ただし、コスト・オブジェクト・コード・フィールドのデータは勘定残高ファイル (F0902) に転記されません。

**補助元帳タイプ**

補助元帳タイプを識別するために「補助元帳」フィールドで使用されるユーザー定義コード (00/ST) を入力し、補助元帳の編集方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。値は次のとおりです。

- A: 英数字フィールド (編集なし)
- N: 数値フィールド (右揃え、ゼロで埋める)
- C: 英数字フィールド (右揃え、ブランクで埋める)

---

**注意:** 活動にレートを設定するには、「活動コード」フィールドに値を入力します。

原価プールにレートを設定するには、「コスト・プール」フィールドに値を入力します。

---

## 割当の設定

この項では、割当の概要、インデックス計算の設定、変数配賦の設定、レート計算の設定、レート基準の設定、およびこれらの計算の設定方法について説明します。

### 割当について

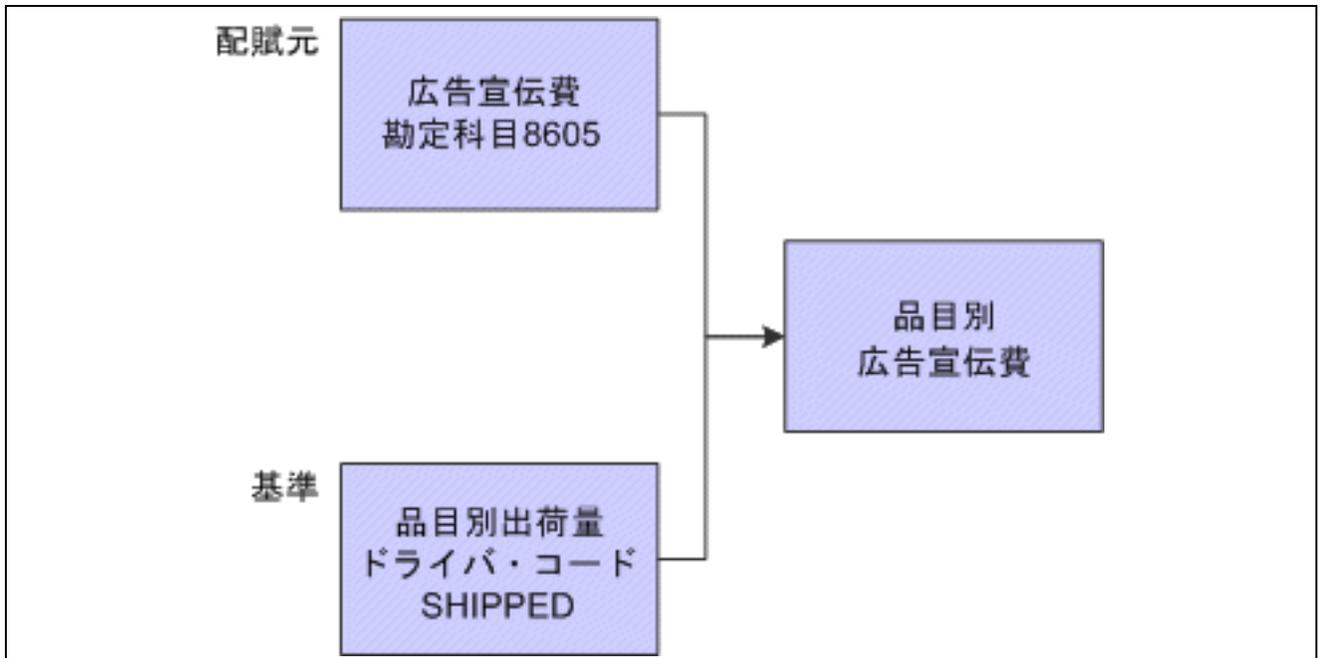
割当は3つの要素を使って定義します。各要素に、日付、頻度、および勘定科目を設定します。割当の定義に使用する要素は次のとおりです。

要素	定義
配賦元	データ・ソースを設定します。
基準	配賦元の割当方法を設定します。
配賦先	計算結果の割当先を設定します。

割当計算には、単一階層への割当か、または連続計算を可能にする多階層への割当を設定できます。

#### 単一階層のコスト割当

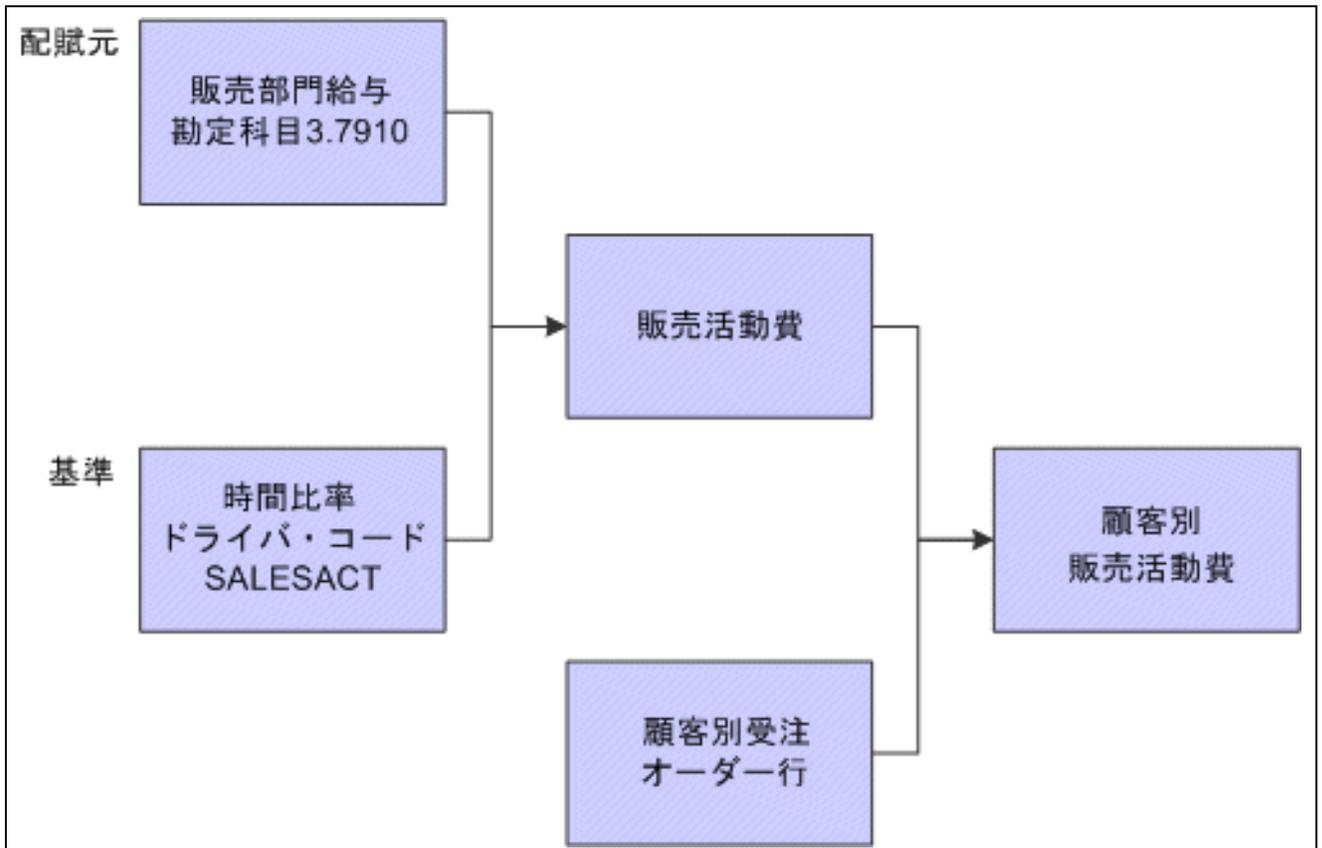
次の図は、単一階層のコスト割当を示しています。



単一階層のコスト割当

## 2階層のコスト割当

次の図は、2階層のコスト割当を示しています。



2階層のコスト割当

## インデックス計算の設定について

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。インデックス計算には、次の有効化規則があります。

- 配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。
- 基準は、係数になります。
- 配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。

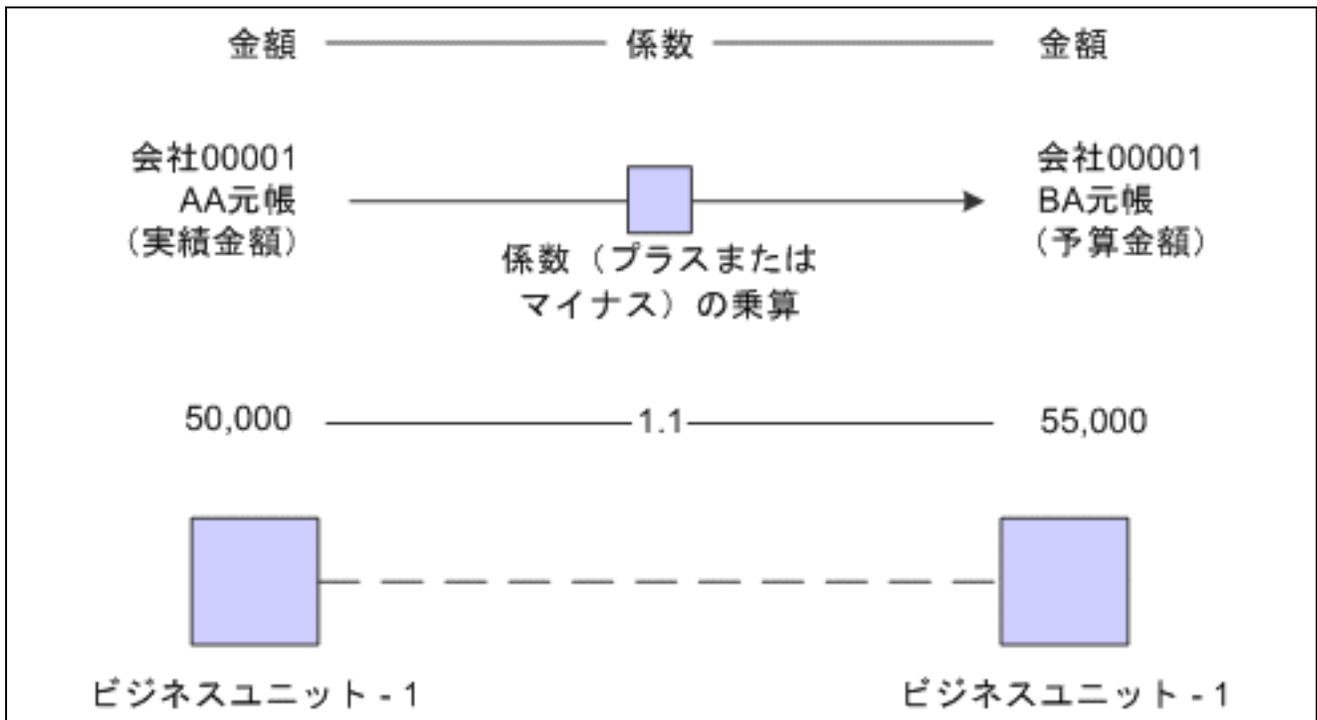
インデックス計算では、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルから取得した実績データに係数を乗算する方法で、正確な予測を立てることができます。たとえば、次年度の予算を策定するには、今年度の予算にパーセント係数を乗算します。

### 例: インデックス計算

今年度予算の10%増加額を基準にして、次年度の予算を計算するとします。そのためには、適切な勘定科目と元帳を指定し、予算の計算に使用する係数を設定します。次に、計算結果を転記する元帳を指定する必要があります。

次年度の予算の設定にあたり、元帳AA(実績金額)の勘定科目6110から6320の年度末残高にそれぞれ1.1乗算(10%増加)されます。計算結果を、元帳BA(予算金額)の同じ勘定科目コードに保存するように指定できます。

次の図は、コスト・アナライザ残高テーブルのデータを基にして、インデックス計算によって予算を求める方法を示しています。



インデックス計算を使用した予算の計算

## 変数配賦の設定について

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。変数配賦には、次の有効化規則があります。

- 配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブルになります。
- 基準は、コスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらかを選択できます。係数は入力できません。
- 配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。

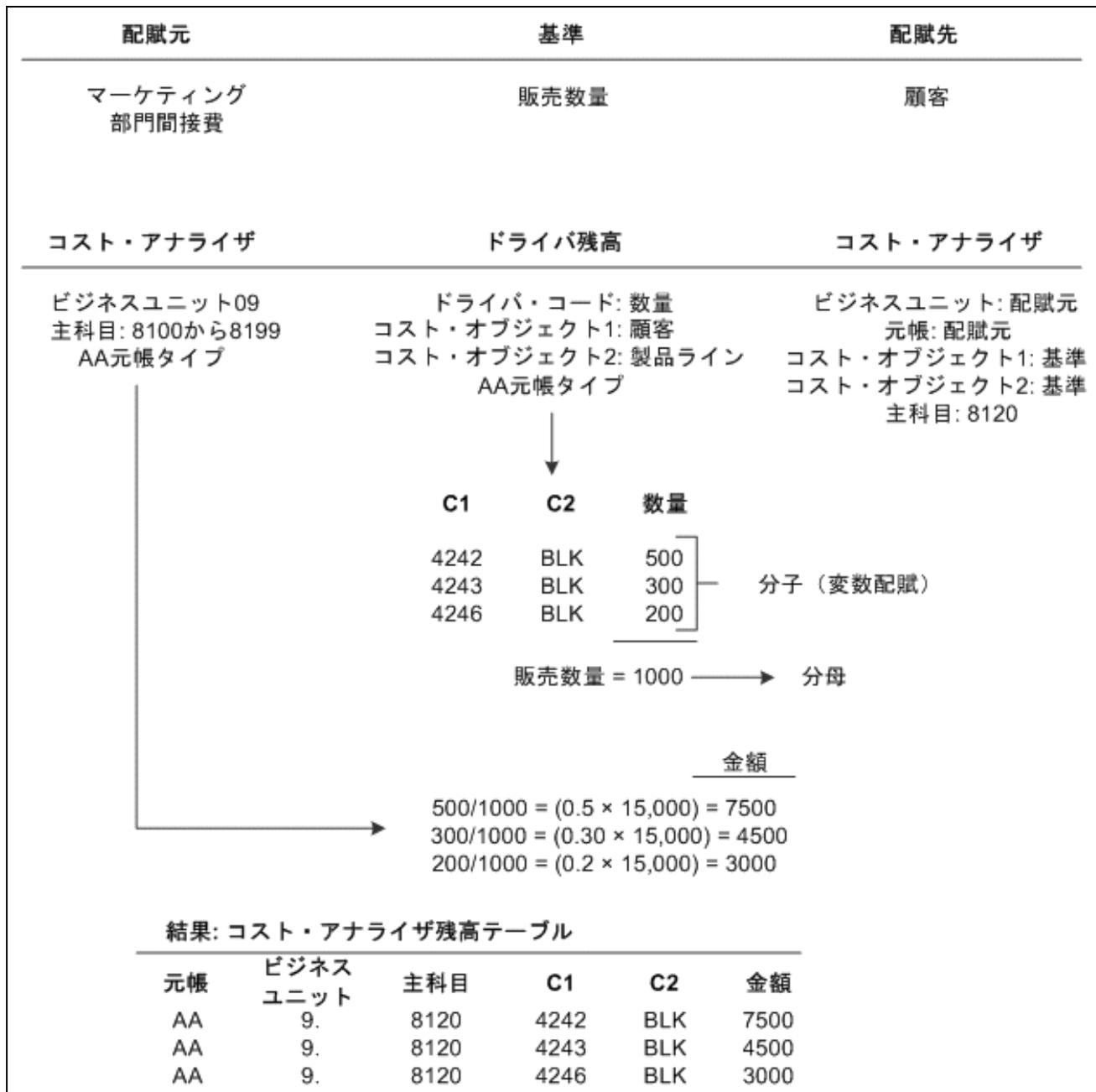
変数配賦では、指定したデータの値に基づいた係数を使用して計算が行われます。このデータは、更新されるたびに値が変わるため、計算の対象となる係数は計算ごとに異なります。コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)またはドライバ残高テーブル(F1632)内のデータに基づいて、費用と収益をコスト・オブジェクトに再配賦できます。

### 例: 変数配賦

マーケティング費用は顧客によって異なるため、自転車の販売台数に応じてマーケティング部門(ビジネスユニット9)の間接費(15,000.00ドル)を、いくつかの顧客に配賦するとします。自転車の勘定科目は8100から8199で、割当の基準には各顧客の自転車販売台数を使用します。自転車は、品目カテゴリ・コードで識別される製品ラインです。

自動ドライバを定義して、製品ラインおよび顧客ごとの販売台数を取得します。たとえば、コスト・オブジェクト1を顧客、コスト・オブジェクト2を製品ラインとします。

次の図でこの例を説明します。



変数配賦

## レート計算の設定について

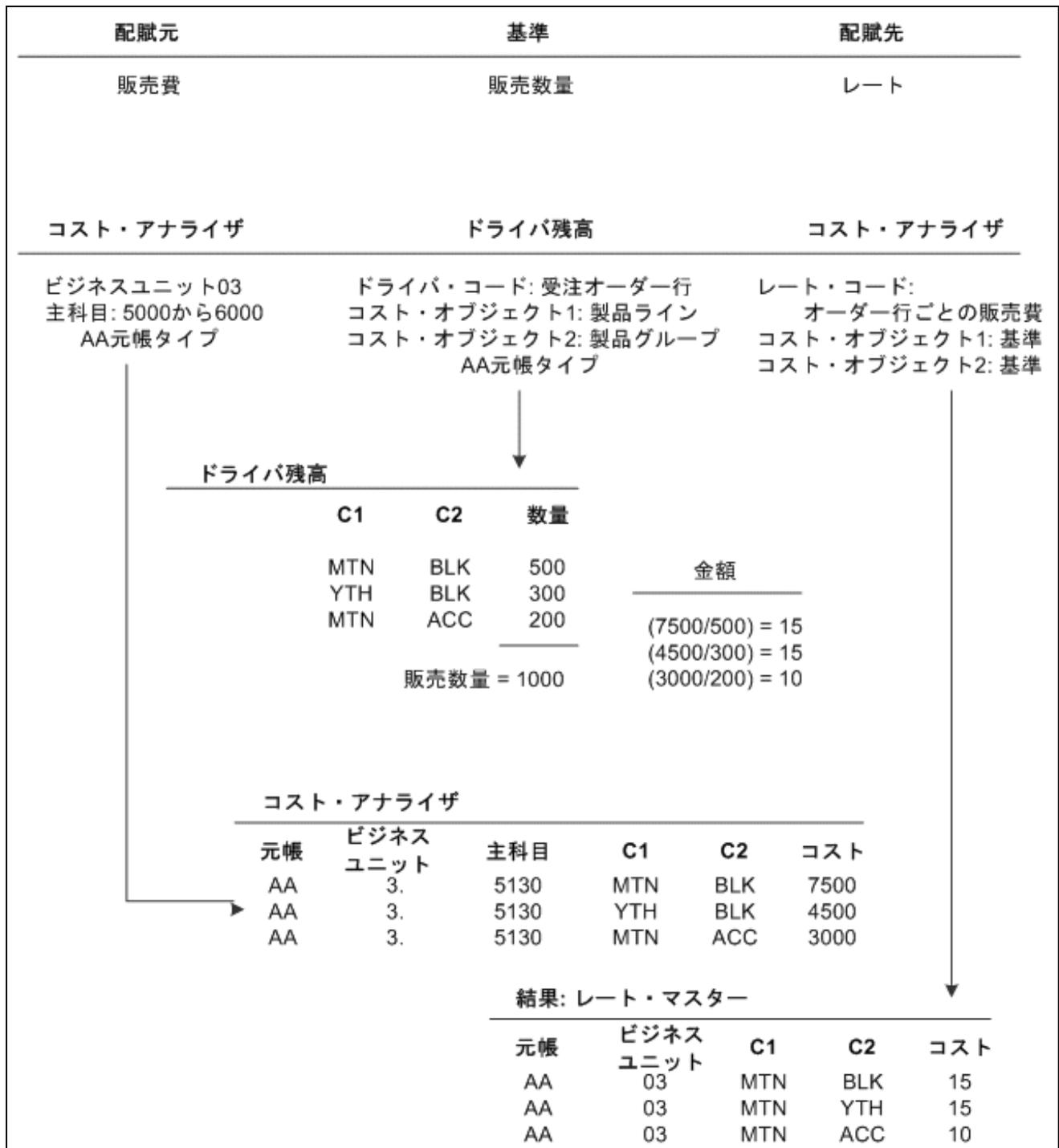
選択した計算タイプに対して有効なフィールドのみが指定可能になります。レート計算には、次の有効化規則があります。

- 配賦元は、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) になります。
- 基準は、ドライバ残高テーブル (F1632) になります。
- 配賦先は、コスト・ドライバに基づいて指定します。たとえば品目および時間数のコスト・ドライバを使用する場合、計算結果は品目当たりのレートとしてレート・テーブルに送られます。

レート計算では、コスト・アナライザ残高テーブルの金額データ、およびドライバ残高テーブルの数量データを使用して品目当たりのコスト(レート)を計算できます。計算結果は、原価プールまたはドライバごとのレートとなります。たとえば、販売費の合計(コスト・アナライザ残高テーブルに保存)を取得し、品目別販売数量(ドライバ残高テーブルに保存)で割ります。この計算により、新しいレート(品目1つ当たりの販売費)を求めることができます。この値はレート・マスターに保存されます。

### 例: レート計算

次の図は、レート計算の例を示しています。



レート計算

## レート基準の設定について

選択した割当計算タイプに対して有効なフィールドのみが使用可能になります。レート基準には、次の有効化規則があります。

- 配賦元は、ドライバ残高テーブルになります。
- 基準は、レート・テーブルから取得されます。

- 配賦先は、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか選択できません。

レート基準では、コストまたはドライバ・ボリューム、および金額に適用されるレートが計算されます。レート基準を使用すると、製品ライン別の広告宣伝費の予算レートを計算できます。たとえば、広告宣伝費を計算するには、各製品の受注オーダー明細行の金額を取得し、その値に各製品のレートを乗算します。製品ごとに異なるレートを設定できます。配賦元レコードのコスト・オブジェクト・タイプと一致するレートが見つからない場合に使用されるデフォルトのレートを設定することもできます。

### 例: レート基準計算

次の図は、レート基準計算の例を示しています。

配賦元	基準	配賦先																														
販売費	レート	売上原価																														
ドライバ残高	レート・マスター	コスト・アナライザ																														
ドライバ・コード: 受注オーダー行 コスト・オブジェクト1: 製品ライン コスト・オブジェクト2: 製品グループ AA元帳タイプ	レート: 15 AA元帳タイプ コスト・オブジェクト1: MTN コスト・オブジェクト2: BLK	ビジネスユニット: 30 BA元帳タイプ 主科目: 5130 コスト・オブジェクト1: 基準 コスト・オブジェクト2: 基準																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">レート・マスター</th> <th rowspan="2">金額</th> </tr> <tr> <th>元帳</th> <th>ビジネス ユニット</th> <th>C1</th> <th>C2</th> <th>レート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td>30</td> <td>MTN</td> <td>BLK</td> <td>15</td> <td rowspan="2">                     (500 × 15) = 7500                      (300 × 10) = 3000                      (200 × 10) = 2000                 </td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">デフォルト・レート</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>			レート・マスター					金額	元帳	ビジネス ユニット	C1	C2	レート	AA	30	MTN	BLK	15	(500 × 15) = 7500 (300 × 10) = 3000 (200 × 10) = 2000			デフォルト・レート		10								
レート・マスター					金額																											
元帳	ビジネス ユニット	C1	C2	レート																												
AA	30	MTN	BLK	15	(500 × 15) = 7500 (300 × 10) = 3000 (200 × 10) = 2000																											
		デフォルト・レート		10																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">ドライバ残高</th> </tr> <tr> <th>C1</th> <th>C2</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MTN</td> <td>BLK</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>YTH</td> <td>BLK</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>MTN</td> <td>ACC</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td colspan="3">販売数量 = 1000</td> </tr> </tbody> </table>			ドライバ残高			C1	C2	数量	MTN	BLK	500	YTH	BLK	300	MTN	ACC	200	販売数量 = 1000														
ドライバ残高																																
C1	C2	数量																														
MTN	BLK	500																														
YTH	BLK	300																														
MTN	ACC	200																														
販売数量 = 1000																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">結果: コスト・アナライザ</th> </tr> <tr> <th>元帳</th> <th>ビジネス ユニット</th> <th>主科目</th> <th>C1</th> <th>C2</th> <th>コスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BA</td> <td>30.</td> <td>5130</td> <td>MTN</td> <td>BLK</td> <td>7500</td> </tr> <tr> <td>BA</td> <td>30.</td> <td>5130</td> <td>YTH</td> <td>BLK</td> <td>3000</td> </tr> <tr> <td>BA</td> <td>30.</td> <td>5130</td> <td>MTN</td> <td>ACC</td> <td>2000</td> </tr> </tbody> </table>			結果: コスト・アナライザ						元帳	ビジネス ユニット	主科目	C1	C2	コスト	BA	30.	5130	MTN	BLK	7500	BA	30.	5130	YTH	BLK	3000	BA	30.	5130	MTN	ACC	2000
結果: コスト・アナライザ																																
元帳	ビジネス ユニット	主科目	C1	C2	コスト																											
BA	30.	5130	MTN	BLK	7500																											
BA	30.	5130	YTH	BLK	3000																											
BA	30.	5130	MTN	ACC	2000																											

レート基準計算

## インデックス計算、変数配賦、レート計算、レート基準計算の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
割当て定義の入力/改訂	W1610C	「割当て」(G1623)、「割当ての定義」 「割当ての定義」フォームで、「追加」をクリックします。	割当の計算方法を設定します。

### 計算の設定

「割当て定義の入力/改訂」フォームにアクセスします。

割当の計算を設定するには、次の手順に従います。

1. 「割当て定義の入力/改訂」フォームで、「入力/改訂」タブを選択し、「有効」または「無効」のどちらかのオプションを選択します。
2. 「割当て」フィールドと「順序記述」フィールドに値を入力して、割当の計算を識別できるようにします。

割当順序番号は、自動的に割り当てられます。

3. 設定する計算に応じて、「インデックス計算」、「変数配賦」、「レート基準」、「レート計算」のいずれかのオプションを選択します。
4. 「配賦元(ソース)」領域で、「コスト・アナライザ」または「ドライバ」のどちらかを選択します。

割当の計算タイプに「インデックス計算」を選択した場合は、どちらでも選択できます。

計算タイプに「変数配賦」または「レート計算」を選択した場合、「配賦元(ソース)」に指定できるのは「コスト・アナライザ」のみです。

計算タイプに「レート基準」を選択した場合、「配賦元(ソース)」に指定できるのは「ドライバ」のみです。

5. 「配賦元(ソース)」領域の「バージョン」フィールドに値を入力するか、またはビジュアル・アシスト・ボタンをクリックして、コスト計算残高選択プログラム(R16102)またはコスト計算ドライバ選択プログラム(R16132)のリストからバージョンを選択します。
6. 「基準」領域で、「コスト・アナライザ(基準)」または「ドライバ(基準)」のどちらかのオプションを選択します。

「インデックス計算」または「変数配賦」を選択した場合、「基準」に、コスト計算残高選択プログラム(R16102)またはコスト計算ドライバ選択プログラム(R16132)のいずれかのバージョンを指定できます。係数は入力できません。

計算タイプに「レート計算」を選択した場合、「基準」に選択できるのは「ドライバ(基準)」のみで、ドライバ残高テーブル(F1632)を指定します。

7. 「基準」領域の「バージョン」フィールドに値を入力するか、ビジュアル・アシスト・ボタンをクリックしてバージョンのリストから選択します。

「基準」には、コスト計算ドライバ選択プログラム(R16132)のバージョンを指定する必要があります。

「レート基準」を選択した場合、「基準」領域の「バージョン」フィールドに値を入力するか、またはビジュアル・アシスト・ボタンをクリックしてコスト計算レート選択(R16142)のバージョンのリストから選択します。

計算タイプに「レート基準」を選択した場合、「基準」にはレート・マスター明細テーブル(F16421)のレートを使用する必要があります。

8. 割当計算の有効日付を指定するには、「日付定義」タブを選択します。

計算タイプに「インデックス計算」を選択した場合、基準は係数になるため、配賦元と配賦先の期間範囲または会計年度範囲のみを入力できます。

計算タイプに「変数配賦」を選択した場合、配賦元、基準および配賦先の期間範囲または会計年度範囲を入力できます。

計算タイプに「レート計算」を選択した場合、配賦元と基準の期間範囲または会計年度範囲、および配賦先の有効日付を入力できます。

計算タイプに「レート基準」を選択した場合、配賦元と配賦先の期間範囲または会計年度範囲、および基準の有効日付を入力できます。

9. 日付を定義するには、「期間範囲」(開始/終了)、「会計年度範囲」(開始/終了)の各フィールドに値を入力します。

10. 「割当て頻度」オプションのいずれかを選択して、割当を設定する頻度を指定します。

11. 「配賦先」タブを選択して、コスト割当の計算結果の保存先を指定します。

各項目には4つのオプションがあります。

計算タイプに「インデックス計算」を選択した場合、コスト割当の配賦先に指定できるのは、配賦元のビジネスユニットか、または指定値です。

計算タイプに「変数配賦」を選択した場合、コスト割当の配賦先に指定できるのは、配賦元または基準で指定したコスト・アナライザ残高テーブルか、または指定値です。ただし、「配賦先」の項目にはコスト・アナライザ残高テーブルのフィールドしか指定できません。「一致」オプションは、「配賦元」または「基準」オプションと似ています。ただし、配賦元と基準の値が一致した場合にのみ計算が実行されます。

計算タイプに「レート計算」を選択した場合、コスト割当の配賦先に指定できるのは、配賦元で指定したコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)、基準で指定したドライバ残高テーブル(F1632)、または指定値のいずれかです。レート計算で指定できない項目は無効化されます。

コスト計算レート選択(R16142)の配賦先には、原価プールまたは活動レートしか指定できません。

各項目には4つのオプションがあります。計算タイプに「レート基準」を選択した場合、コスト割当の配賦先に指定できるのは、コスト・アナライザ残高テーブルのフィールドのみです。

12. 次の項目それぞれに対して、4つのオプションのいずれかを選択します。

- 元帳タイプ
- ビジネスユニット
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- コスト・オブジェクト1
- コスト・オブジェクト2
- コスト・オブジェクト3
- コスト・オブジェクト4
- 品目

- 活動

13. 「OK」をクリックします。

## 入力/改訂

### 有効、無効

割当定義を有効化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

有効: 定義した割当が実行されます。

無効: 定義した割当は実行されません。

### 割当て

割当を指定します。

### 順序No.

自動的に割り当てられます。

### インデックス計算、変数配賦

コスト割当定義を使用して実行される計算タイプを指定します。選択できるのは常に1つのオプションのみです。値は次のとおりです。

インデックス計算: インデックス計算方法を使用して割当の計算が行われます。

変数配賦: 変数配賦方法を使用して割当の計算が行われます。

「インデックス計算」を選択した場合、配賦元にコスト・アナライザ残高テーブルまたはドライバ残高テーブルのどちらも選択できます。

### レート基準

レート基準: レート基準方法を使用して割当の計算が行われます。

### レート計算

コスト割当定義を使用して実行される計算タイプを指定します。値は次のとおりです。

レート計算: レート方法を使用して割当の計算が行われます。

### コスト・アナライザ

割当金額を取り込むテーブルを指定します。値は次のとおりです。

コスト・アナライザ: 割当金額がコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)から取り込まれます。

### ドライバ

割当金額を取り込むテーブルを指定します。値は次のとおりです。

ドライバ: 割当金額がドライバ残高テーブル(F1632)から取り込まれます。

### バージョン

割当の基準となるレコードの選択に使用するバージョンを指定します。コスト割当定義の配賦元がコスト・アナライザ残高の場合、コスト計算残高選択プログラム(R16102)のバージョンを実行する必要があります。配賦元がドライバ残高の場合、コスト計算ドライバ選択プログラム(R16132)のバージョンを入力する必要があります。どちらかのプログラムの指定されたバージョンが使用され、情報が選択されます。

### 係数

インデックスまたはレートを示す数値を入力します。配賦元の金額にこの係数を乗算して、配賦金額が求められます。プラスとマイナスのいずれも指定できます。小数は8桁まで指定できます。小数を9桁以上入力すると、8桁に四捨五入されます。

整数部と小数部に大きい数値を指定すると、全桁が表示されない場合があります。小数部がすべて表示されていない場合でも、テーブルには正しく保存されています(最大8桁まで)。

計算タイプに「インデックス計算」を選択した場合、基準に指定できるのは係数のみです。

**注意:** 年間予算の場合、0を指定するとすべての残高が消去され、新しく予算を作成できます。

**割当て頻度**

最終モードでのコスト割当順序の実行後、次に割当が行われるまでの期間を指定します。値は次のとおりです。

月次: 1か月ごと

四半期: 四半期ごと

年次: 1会計年度ごと

## 繰返し割当の設定

この項では、繰返し割当の設定の概要とその設定方法について説明します。

### 繰返し割当の設定について

繰返し割当を指定したら、コストの割当をいつ停止するかを決めるために、最大繰返し回数または繰返し実行最低残高のどちらかを指定する必要があります。

最大繰返し回数を指定する場合、収益性分析固定情報プログラム(P1609)で指定した最大繰返ししきい値以下の値を入力する必要があります。固定情報に指定した数値より大きい値を入力すると、固定情報の最大繰返ししきい値に変更されます。

また、繰返し回数を指定しても、指定した回数になる前に配賦元の勘定残高がゼロになった場合、割当は停止されます。

繰返し実行最低残高を指定して、固定情報に指定した最大繰返し回数になるまでに残高がこの値に達した場合も、割当は停止されます。

### 繰返し割当の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
割当て定義の入力/改訂	W1610C	「割当て」(G1623)、「割当ての定義」 「割当ての定義」フォームで、「追加」をクリックします。	繰返し割当を設定します。

### 繰返し割当の設定

「割当て定義の入力/改訂」フォームにアクセスします。

繰返し割当を設定するには、次の手順に従います。

1. 「割当て定義の入力/改訂」フォームの「相互割当て」チェックボックスを選択します。
2. 次のどちらかを実行します。
  - 「繰返し回数」オプションを選択して、最大繰返し回数を入力します。
  - 「繰返し実行最低残高」オプションを選択して、最低残高を入力します。

3. 「OK」をクリックして、割当の設定を続けます。

## 最大繰返ししきい値の指定

この項では、最大繰返ししきい値の概要とその指定方法について説明します。

### 最大繰返ししきい値について

繰返し割当を設定する前に、収益性分析固定情報プログラム(P1609)で最大繰返し回数のしきい値を指定する必要があります。収益性分析固定情報プログラムに入力した数値が、割当の定義プログラム(P1610)における最大繰返し回数のデフォルト値になります。また、この値は割当の最低残高が指定されている際にも使用されます。入力した最低残高に割当後の金額が到達しない場合、この最大繰返ししきい値に到達した時点で割当が停止されます。最大繰返ししきい値を設定すると、割当が無限ループに入るのを防ぐことができます。

### 最大繰返ししきい値の指定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
収益性分析固定情報の入力/変更	W1609A	「システム・セットアップ」(G1641)、「収益性分析固定情報」	最大繰返ししきい値を指定します。

### 最大繰返ししきい値の指定

「収益性分析固定情報の入力/変更」フォームにアクセスします。

最大繰返ししきい値を指定するには、次の手順に従います。

1. 「最大繰返ししきい値」フィールドに値を入力します。  
「収益性分析固定情報の入力/変更」フォームのこのフィールドに、ゼロより大きい値を入力する必要があります。
2. 「OK」をクリックします。

## コスト・オブジェクト照合の使い方

この項では、コスト・オブジェクト照合の概要と、コスト・オブジェクト照合を使用した割当の設定方法について説明します。

### コスト・オブジェクト照合について

コスト・オブジェクト照合は、割当タイプの1つです。コスト・オブジェクト照合も他の割当と同様、活動との因果関係を明確にすることのできない費用および収益を再配賦する方法です。コスト・オブジェクト照合を使用する場合は、割当設定時に次の計算タイプを選択できます。

- 変数配賦
- レート計算

• レート基準

コスト・オブジェクト照合を使って割当を設定すると、特定のコスト・オブジェクトの配賦元と基準の各項目が一致した場合にのみ計算が行われます。項目とは、元帳タイプ、主科目、補助科目などです。

たとえば、2つのビジネスユニットの勘定科目から活動コストを配賦するとします。そのためには、コスト・オブジェクト照合を使って割当を設定する際に、ビジネスユニットを照合します。

## コスト・オブジェクト照合を使用した割当の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
割当て定義の入力/改訂	W1610C	「割当て」(G1623)、「割当ての定義」 「割当ての定義」フォームで、「追加」をクリックします。	コスト・オブジェクト照合を使用して割当を設定します。

## コスト・オブジェクト照合を使用した割当の設定

「割当て定義の入力/改訂」フォームにアクセスします。

「割当て定義の入力/改訂」フォーム

コスト・オブジェクト照合を使用して割当を設定するには、次の手順に従います。

1. 「割当て定義の入力/改訂」フォームにある「入力/改訂」タブの「割当て」フィールドと「順序記述」フィールドに値を入力します。
2. 次のいずれかの計算タイプを選択します。
  - 変数配賦

- レート基準

- レート計算

コスト・オブジェクト照合を使用する場合は、インデックス計算を選択しないでください。

選択する計算タイプによっては、次のステップのオプションおよびフィールドが該当しない場合もあります。オプションまたはフィールドが有効でない場合は、次のステップに進んでください。

3. 「配賦元(ソース)」領域で、「コスト・アナライザ」または「ドライバ」のどちらかのオプションを選択します。
4. 「配賦元(ソース)」領域の「バージョン」フィールドにバージョンを入力します。
5. 「基準」領域にある次のオプションのいずれかを選択します。
  - コスト・アナライザ(基準)
  - ドライバ(基準)
  - レート
6. 「基準」領域の「バージョン」フィールドにバージョンを入力します。
7. 「日付定義」タブにある「配賦元」領域の「期間範囲」(開始/終了)、「会計年度範囲」(開始/終了)の各フィールドに値を入力します。
8. 「基準」領域の「期間範囲」(画面では「開始期間」)(開始/終了)、「会計年度範囲」(開始/終了)、「有効日付」の各フィールドに値を入力します。
9. 「配賦先」領域の「期間範囲」(開始/終了)、「会計年度範囲」(開始/終了)、「有効日付」の各フィールドに値を入力します。
10. 次の割当頻度オプションのいずれかを選択します。
  - 月次
  - 四半期
  - 年次
11. 「配賦先」タブで、コスト・オブジェクト照合を適用する項目に「一致」オプションを選択します。

「配賦先」タブの各項目で、「配賦元」、「基準」、「一致」、「指定」のいずれかのオプションを選択する必要があります。選択するオプションは、計算タイプによって異なります。デフォルトは「配賦元」です。
12. 「OK」をクリックします。

---

## コスト割当の改訂

コスト割当計算を設定したら、割当を実行して、割当監査証跡の作成、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)またはレート・マスター見出しテーブル(F1642)の更新を行うことができます。監査割当の照会プログラムを使用すると、割当取引を確認できます。

この項では、コスト割当計算の改訂方法について説明します。

## コスト割当計算の改訂

割当計算を実行する前に、コスト割当定義を確認および編集できます。たとえば、ビジネス・ニーズに応じて、割当順序を有効化または無効化できます。また、既存のコスト割当計算データをコピーして、新しい割当を作成したり、変更したりできます。

## コスト割当計算の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
割当ての定義	W1610A	「割当て」(G1623)、「割当ての定義」	コスト割当計算を改訂します。

## コスト割当計算の改訂

「割当ての定義」フォームにアクセスします。

コスト割当計算を改訂するには、次の手順に従います。

1. 「割当ての定義」フォームで、割当番号の左にあるプラス(+)記号をクリックして、すべての割当順序を表示します。
2. レコードを選択してから、「ロー」メニューの「有効/無効」を選択して、割当順序を有効または無効にします。
3. レコードを選択して「選択」をクリックし、計算データを編集します。
4. 必要に応じて、「割当て定義の入力/改訂」フォームの3つのタブの各項目を変更し、「OK」をクリックします。

### 関連項目:

第 21 章、「割当の処理」、「割当の設定」、178ページ

---

## コスト割当計算の実行

この項では、割当の計算プログラムの概要と次の方法について説明します。

- 割当の計算プログラム(R16103)の実行
- 割当の計算の処理オプションの設定

## 割当の計算プログラムについて

割当の計算プログラム(R16103)を実行する際に、単一または複数の割当、複数の割当順序を選択できます。この場合、有効な順序のみが実行されます。

一度に、1つのコスト・アナライザ・ビューに対する割当のみが実行されます。コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)、またはレート・マスター見出しテーブル(F1642)とレート・マスター明細テーブル(F16421)にコスト・データを作成するためには、割当の計算プログラム(R16103)の処理オプションでビューを適切に設定する必要があります。

基準にコスト・アナライザ残高テーブルを選択した場合、このテーブルの勘定残高に基づいて計算が実行されます。基準にドライバ残高テーブルを選択した場合は、ドライバ残高に基づいて計算が実行されます。テスト・モードまたは最終モードで割当の計算を実行できます。

モード	定義
テスト・モード	コスト・アナライザ残高は更新されません。エラーが発生した場合、適当な段階で処理が停止され、割当計算レポートにエラー・メッセージが出力されます。頻度に基づく日付定義は更新されません。
最終モード	最終モードで割当を実行する場合、処理オプションで、頻度に応じて日付定義が自動的に更新されるように設定できます。たとえば、割当頻度を四半期に指定した場合、日付定義が次の四半期に更新されます。割当データが作成されます。割当計算レポートを印刷できます。

最終モードで割当を実行すると、割当レコードが作成されます。処理オプションで、コスト計算取引テーブル(F1611)に監査証跡を作成するかどうか、また、割当頻度に応じて日付定義を更新するかどうかを設定できます。たとえば、処理オプションで日付定義を更新するように設定し、割当頻度を四半期に設定した場合、期間範囲(開始)に11、会計年度範囲(開始)に05が指定されていると、それぞれ2と06に更新されます。

監査証跡を残すことにより、割当前の残高(転記額)および割当後の残高(正味残高)を取引ごとに確認できます。「勘定科目別コスト・アナライザの照会」フォームでは、次の項目を確認できます。

- 当初残高(取引明細テーブル(F0911)から取り込まれた情報)
- 加算処理された割当金額合計
- 減算処理された割当金額合計
- 正味残高(当初残高 + 加算取引および減算取引)

## 割当の計算プログラム(R16103)の実行

「割当て」(G1623)の「割当ての計算」を選択します。

## 割当の計算(R16103)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)のレコードの読取/書込に使用するビュー番号を入力してください。この処理オプションは必須です。
 

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10の番号で指定します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。

たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。
2. 計算の処理モードを入力してください。
 

イベントの処理タイプを指定します。

- 3. 計算の頻度に基づいて イベントの処理タイプを指定します。  
日付を増加していく場合、  
"1"を入力してください。こ  
のオプションが"1"で、最  
終モードで計算を実行し  
た場合にのみ、日付が  
増加されます。
- 4. コスト計算取引テーブル Everestイベント・ポイントの処理フラグ04を指定します。  
(F1611)にレコード書き込  
んで監査証跡を作成する場  
合は、"1"を入力してくださ  
い。ブランクの場合、レコー  
ドはF1611テーブルに書き  
込まれません。

### 印刷

- 1. ゼロ金額を印刷しない場 データの大文字と小文字を区別するよう指定します。  
合、"1"を入力してください。

## コスト割当取引の確認

この項では、コスト割当取引の確認の概要と、その確認方法について説明します。

### コスト割当取引の確認について

監査割当の照会プログラムを使用すると、割当取引を確認できます。たとえば、「割当て履歴」フォームで、コストの配賦先勘定科目と配賦元勘定科目のいずれかまたは両方を確認できます。また、コスト・オブジェクト、品目番号、あるいは補助元帳タイプごとに配賦の割当を確認することもできます。

監査証跡を照会すると、コスト計算取引テーブル(F1611)の取引が表示されます。割当取引を確認するには、割当の計算プログラムを実行する際に、監査証跡を作成するように処理オプションで設定する必要があります。

### コスト割当取引の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
割当て履歴	W1611A	「割当て」(G1623)、「監査割当ての照会」	コスト割当取引を確認します。

### コスト割当取引の確認

「割当て履歴」フォームにアクセスします。

監査割当ての照会 - 割当て履歴

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) ツール(T)

オプション コスト・オブジェクト・タイプ 日付

ビューNo. \*

配賦元情報 配賦先情報

元帳タイプ \* 元帳タイプ \*

勘定科目コード 勘定科目コード

レコードが取込まれていません。 グリッドのカスタマイズ

割当て No.	割当て 順序	割当て バッチNo.	期間	会計 年度	割当て タイプ	配賦値

「割当て履歴」フォーム

**ビューNo.**

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10までの番号で入力します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。

たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

**元帳タイプ**

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)を入力します。JD Edwards EnterpriseOne一般会計内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引に監査証跡を設定できます。

**勘定科目コード**

JD Edwards EnterpriseOne一般会計の勘定科目を指定する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。

標準勘定科目コード(ビジネスユニット.主科目.補助科目または任意形式)。

第3勘定科目(最大25桁)。

略式ID。8桁の数字です。

スピード・コード(AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。

最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。

**コスト・オブジェクト・タイプ1**

コスト・オブジェクトおよび編集のタイプを指定するコードを入力します。タイプはコスト・オブジェクト・タイプ・テーブル(F1620)に保存されており、コスト・オブジェクト・タイプ・プログラム(P1620)を使用して追加または変更できます。

**会計年度**

会計年度を示す数値を入力します。通常、このフィールドに数値を入力することも、ブランクにして「会社の設定」フォームで定義した現行会計年度を使用することもできます。

会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。

#### 期間範囲(開始)、期間範囲(終了)

現行会計期間を示す番号を入力します。この番号と、会社固定情報テーブル(F0010)および一般会計固定情報テーブル(F0009)を組み合わせて使用することで、14までの会計期間を定義できます。総勘定元帳日付を参照してください。過去期間および未来期間の警告メッセージは、この現行会計期間の番号によって決まります。また、財務レポートを準備する際のデフォルトの会計期間としても使用されます。

---

## 割当計算レポートの確認

この項では、割当計算レポートの概要と、その確認方法について説明します。

### 割当計算レポートについて

コスト割当計算プログラムを実行すると、割当計算レポートを作成できます。コスト割当計算プログラムをテスト・モードで実行すると、再割当取引を作成する前に割当結果を確認できます。割当計算レポートで、次のデータを確認できます。

- コスト・アナライザのビュー番号
- 割当番号、名前、および順序番号
- 割当計算タイプおよび割当頻度
- 繰返し割当の回数
- 配賦元
- 基準
- 配賦先

このレポートを監査証跡として使用すると、割当を実行する前に残高を確認できます。多階層の割当の場合は、各割当の取引レベルも確認できます。当初残高を確認することにより、更新時の集計に合わせて JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の金額を調整できます。

テスト・モードで計算を実行すると、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)、レート・マスター見出しテーブル(F1642)、レート・マスター明細テーブル(F16421)は更新されません。この場合、レポートの右上に“テスト・モード”と出力されます。最終モードで計算を実行すると、レポートには“最終モード”と出力され、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)、またはレート・マスター見出しテーブル(F1642)とレート・マスター明細テーブル(F16421)のどちらかが更新されます。

### 割当計算レポートの確認

「割当て」(G1623)の「割当ての計算」を選択します。

## 第 22 章

# 収益性分析のための収益性分析財務レポートの検討

この章では、収益性分析のための収益性分析財務レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別収益性レポートの検討
- コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの検討
- コスト・オブジェクト別試算表レポートの検討
- コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの検討

---

## 収益性分析財務レポートについて

この項では、収益性分析財務レポート、複数プロジェクトの収益性の比較、および事前設定について説明します。

### 事前設定

この項で説明されているタスクを実行するには、コスト・アナライザ残高への転記プログラム (R1602) を実行して、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) を更新する必要があります。

### 収益性分析財務レポート

JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析では、コスト・オブジェクトを使った収益性分析および財務報告に使用できるレポートが4種類提供されています。レポートは次のとおりです。

- コスト・オブジェクト別収益性分析レポート (R16023)
- コスト・オブジェクト別損益計算書レポート (R16024)
- コスト・オブジェクト別試算表レポート (R16025)
- コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポート (R16026)

これらの財務レポートの形式は、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムのその他の財務レポートとよく似ています。通常の財務レポートは会社やビジネスユニット別に実行するのに対し、収益性分析の財務レポートはコスト・オブジェクト別に実行できる点が異なります。

4つのレポートともコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) の情報を取り込んでレポートが出力されます。そのため、レポート実行前にこのテーブルを必ず更新してください。コスト・アナライザ残高への転記プログラム (R1602) を実行すると、コスト・アナライザ残高テーブルが更新されます。

## 複数プロジェクトの収益性の比較

複数のプロジェクトの原価をすべて設定したら、原価を結合してプロジェクトごとに収益性を計算し、複数のプロジェクトの収益性を比較できます。たとえば、自転車製造業の場合、最も基本的な自転車から最も高価な競技用自転車まであらゆるモデルの収益性を比較できます。

コスト・オブジェクト別に収益性を比較するには、JD Edwards EnterpriseOne 収益性分析の財務レポートを使用します。この例の場合、自転車の各モデルがコスト・オブジェクトとなります。

---

## コスト・オブジェクト別収益性レポートの検討

この項では、コスト・オブジェクト別収益性レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別収益性レポートの実行
- コスト・オブジェクト別収益性 (R16023) の処理オプションの設定

### コスト・オブジェクト別収益性レポートについて

このレポートは、特定の製品ライン、顧客、ビジネスユニット、その他のコスト・オブジェクトの収益性の測定に使用します。階層からコスト・オブジェクトの組合せを選ぶと、その組合せについて収益性レポートが出力されます。

このレポートでは、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) の情報を取り込んでコスト・アナライザ・ビューごとに出力されるため、レポート実行前にこのテーブルを必ず更新するようにしてください。コスト・アナライザ残高への転記プログラム (R1602) を実行すると、F1602 テーブルが更新されます。

#### 関連項目:

[第 16 章、「コスト・アナライザ残高の使い方」、「コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記」、105 ページ](#)

### コスト・オブジェクト別収益性レポートの実行

「レポート」メニュー (G1625) の「コスト・オブジェクト別収益性」を選択します。

### コスト・オブジェクト別収益性 (R16023) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

1. レポートの対象の期間と会計年度を入力してください。ブランクの場合、財務報告日付が使用されます。財務報告日付が同じ会社が複数ある場合は、会社またはビジネスユニットでソートしてください。

#### 期間

現行会計期間を示す番号を指定します。この番号と、会社固定情報テーブル (F0010) および一般会計固定情報テーブル (F0009) を組み合わせて使用することで、14 までの会計期間を定義できます。総勘定元帳日付を参照してください。過去期間および未来期間の警告メッセージは、この現行会計期間の番号によって決まります。また、財務レポートを準備する際のデフォルトの会計期間としても使用されます。

#### 会計年度

会計年度を識別する4桁の番号を指定します。このフィールドには数値を入力することも、空白にして現行会計年度(「会社の設定」フォームで定義)を使用することもできます。会計期間が終了する年度ではなく、最初の期間が終了する年度を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。

## 2. 空白のコスト・オブジェクト

1: 印刷しない。空白: 印刷する。

### コスト・オブジェクト

1. コスト・オブジェクトを印刷する順序を入力してください。レポートに印刷しないコスト・オブジェクトは空白にしてください。

コスト・オブジェクト1  
コスト・オブジェクト2  
コスト・オブジェクト3  
コスト・オブジェクト4  
品目番号

2. コスト・アナライザ残高テーブルのコスト・オブジェクトに使用するビュー番号を入力してください。

取引明細テーブル(F0911)のレコードをコスト・アナライザ残高テーブル(F1602)に転記する方法を1から10の番号で指定します。この番号により、F0911テーブルのどの管理会計転記コード(PM01からPM10)を転記済に更新するかも指定されます。たとえば、ビュー番号が1の場合、F0911レコードが転記対象として設定されていると、PM01がPに更新されます。

## コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの検討

この項では、コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの実行
- コスト・オブジェクト別損益計算書(R16024)の処理オプションの設定

### コスト・オブジェクト別損益計算書レポートについて

このレポートでは、特定のコスト・オブジェクトについて収益、費用、当期利益または当期損失をトラッキングできます。レポートの形式は、JD Edwards EnterpriseOneの他の損益計算書レポートに似ています。レポートは、特定のコスト・アナライザ・ビューを対象に実行することも、すべてのビューを対象に実行することもできます。

レポートの情報は、勘定科目マスター(F0901)、ビジネスユニット・マスター(F0006)、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)から取り込まれます。コスト・オブジェクト別損益計算書レポートを実行する前に、コスト・アナライザ残高への転記プログラム(R1602)を実行してF1602テーブルを更新する必要があります。

#### 関連項目:

[第 16 章、「コスト・アナライザ残高の使い方」、「コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記」、105 ページ](#)

## コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの実行

「レポート」メニュー(G1625)の「コスト・オブジェクト別損益計算書」を選択します。

## コスト・オブジェクト別損益計算書(R16024)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

1. 期間  
レポートを作成する期間を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の財務報告期間が使用されます。
2. 会計年度  
レポートを作成する会計年度を指定します。この処理オプションを空白にすると、現在の財務報告年度が使用されます。

### 印刷

1. 詳細レベル  
レポートに出力する最下位(最も詳細なレベル)にある勘定科目詳細レベルを指定します。
2. 符号の反転  
レポートに出力する金額の符号を反転するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
0: 反転しない。金額は当初の借方/貸方形式で出力されます。  
1: すべての勘定タイプで符号を反転する。収益はプラス、費用はマイナスで出力されます。  
2: 収益勘定のみで符号を反転する。収益と費用がプラスで出力されます。
3. 当期利益の計算  
当期利益を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 計算しない。  
1: 計算する。
4. 見出し  
見出しの出力方法を指定します。値は次のとおりです。  
空白: 最初のページにのみ見出しを出力する。  
1: 各ページにページ番号と日付を含む見出しを出力する。  
2: 各ページに、日付を含む見出しを出力する。ページ番号は出力しない。
5. 日付タイトル  
見出しに出力する日付タイトルのタイプを指定します。空白にすると、日付タイトルは出力されません。

### コスト・オブジェクト

1. コスト・オブジェクト/品目番号  
レポートに使用するコスト・オブジェクトを指定します。コスト・オブジェクトのかわりに品目番号を使用する場合は、処理オプションの値を5にする必要があります。有効値は次のとおりです。  
1: コスト・オブジェクト1  
2: コスト・オブジェクト2  
3: コスト・オブジェクト3  
4: コスト・オブジェクト4

	5: 品目番号
<b>2. コスト・オブジェクト・タイプまたは品目番号タイプ</b>	レポートに、コスト・オブジェクト・タイプまたは品目番号タイプのどちらを使用するかを指定します。コスト・オブジェクト・タイプを使用する場合は、ビジュアル・アシストでタイプを指定します。品目番号タイプの有効値は次のとおりです。
	1: 略式品目番号
	2: 詳細品目番号
	3: 第3品目番号
	<b>注意:</b> 品目番号タイプのいずれかを選択する場合は、処理オプション1の値に5を指定する必要があります。
<b>3. コスト・オブジェクト、4. 品目番号</b>	レポートに使用するコスト・オブジェクトまたは品目番号を指定します。
<b>5. ビュー番号</b>	レポートに使用するビュー番号を指定します。ゼロの値を入力すると、有効なすべてのビュー番号が使用されます。

## コスト・オブジェクト別試算表レポートの検討

この項では、コスト・オブジェクト別試算表レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別試算表レポートの実行
- コスト・オブジェクト別試算表 (R16025) の処理オプションの設定

### コスト・オブジェクト別試算表レポートについて

個別の勘定科目残高や元帳全体の正確性を検証するには、コスト・オブジェクト別試算表レポート (R16025) を使用します。また、特定のコスト・オブジェクトについて借方合計と貸方合計を分析することもできます。レポートの形式は、JD Edwards EnterpriseOneの他の試算表レポートとほぼ同じです。

コスト・オブジェクト別試算表レポートでは、取引明細テーブル (F0911) とコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) のどちらから情報を取得するかを指定できます。F1602テーブルから情報を取得する場合は、R16025を実行する前にコスト・アナライザ残高への転記プログラム (R1602) を実行する必要があります。F1602テーブルは、コスト・アナライザ残高への転記プログラムを実行した場合にのみ更新されます。

#### 関連項目:

[第 16 章、「コスト・アナライザ残高の使い方」、「コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記」、105 ページ](#)

### コスト・オブジェクト別試算表レポートの実行

「レポート」メニュー (G1625) の「コスト・オブジェクト別試算表」を選択します。

### コスト・オブジェクト別試算表 (R16025) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 期間

### 会計年度

試算表を出力する会計年度の下2桁を指定します。たとえば、2008年の場合は「08」と入力します。この処理オプションを設定した場合、「期間番号」処理オプションで終了期間も指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の会計年度が使用されます。

### 期間番号

試算表を出力する期間を指定します。この処理オプションを設定した場合、「会計年度」処理オプションで最後の期間の会計年度も指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の現行期間が使用されます。

## 印刷

### 1. 勘定科目コード形式

出力する勘定科目コードの形式を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 標準勘定科目コード(デフォルトは、ビジネスユニット.主科目.補助科目)
- 2: システムによって割り当てられた略式ID
- 3: 第3勘定科目(勘定科目設定時に割当可能)

この処理オプションを空白にすると、標準勘定科目コードが使用されません。

### 2. 残高ゼロの勘定科目

指定期間における残高がゼロの勘定科目を出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 残高がゼロの勘定科目を出力する。

- 1: 残高がゼロの勘定科目は出力しない。

---

**注意:** 転記編集コード「N」が割り当てられた勘定科目は、この処理オプションを「1」に設定した場合も出力されます。転記編集コードが「N」の勘定科目は見出し勘定科目のため、残高はありません。

---

### 3. 改ページ

ビジネスユニット番号が変わるときに改ページする場合は、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、改ページされません。

## 詳細レベル

### 1. 最下位詳細レベル

レポートに出力する詳細レベルの最下位値を指定します。出力する詳細レベルには、1から9の値を入力できます。たとえば、最も詳細なレベルに7を指定すると、勘定科目表にレベル8と9の勘定科目がある場合、これらの勘定科目はレベル7の勘定科目に集計され、レベル8と9の勘定科目は出力されません。

この処理オプションを空白にすると、すべての詳細レベルがレポートに出力されます。

---

**注意:** 詳細レベルを省略して勘定科目表を作成すると、詳細レベルをロールアップする際に合計が正しく計算されない場合があります。

---

## 元帳

### 1. 元帳タイプ

元帳のタイプを指定します。元帳タイプのUDCテーブル(09/LT)に設定されている値を指定する必要があります。この処理オプションを設定しない場合は、元帳タイプAA(実績金額)の金額が出力されます。

---

**注意:** 指定した元帳タイプが「CA」(外貨)で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## 補助元帳

### 1. 補助元帳

補助元帳のある勘定科目の金額を出力するかどうかを指定します。次の選択肢があります。

特定の補助元帳番号を入力します。

\*を入力します。レポートにすべての補助元帳が出力されます。

この処理オプションは空白にします。補助元帳を使用していない勘定科目のみがレポートに出力されます。

この処理オプションを設定した場合、「補助元帳タイプ」フィールドにも値を入力する必要があります。

補助元帳タイプは、直接値を入力することも、「補助元帳タイプ」フィールドの「ユーザー定義コードの選択」フォームから選択することもできます。

### 2. 補助元帳タイプ

補助元帳番号が含まれるテーブル(システム00/タイプST)を指定します。たとえば、補助元帳タイプAは、住所録マスター(F0101)を示します。

この処理オプションを指定した場合、「補助元帳」フィールドにも値を入力する必要があります。

## 通貨

### 1. 通貨コード

通貨別に勘定残高を転記する際に、レポートに記載する通貨を指定します。レポートに記載する金額を特定の通貨に限定するには、通貨のコードを入力します。このフィールドには、通貨コード・テーブル(F0013)に設定されている値を入力する必要があります。すべての通貨の金額を含めるには、「\*」(アスタリスク)を入力します。通貨別転記を行わない場合は、空白にします。

---

**注意:** 「元帳タイプ」処理オプションで指定した元帳タイプが「CA」で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、ここで通貨コードを指定しないと合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## コスト・オブジェクト

### 1. レポートに印刷するコスト・オブジェクト・コード

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクトを指定します。有効なコスト・オブジェクト・コードを入力してください。特定の品目番号をレポートに出力することもできます。特定の品目番号を出力するには、「5」を入力します。

### 2. コスト・オブジェクト・タイプ

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクト・タイプを指定します。有効なコスト・オブジェクト・タイプを入力してください。コスト・オブジェクト・コードの処理オプションで特定の品目番号を出力するように指定した場合は、品目番号の形式を入力します。値は次のとおりです。

- 1: 略式品目番号
- 2: 第3品目番号
- 3: 詳細品目番号

### 3. コスト・オブジェクト

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクトを指定します。有効なコスト・オブジェクトを入力してください。コスト・オブジェクト・コードの処理オプションで特定の品目番号を出力するように指定した場合は、品目番号を入力します。特定の品目番号を出力する場合、品目番号の形式はコスト・オブジェクト・タイプの処理オプションで指定した形式と一致する必要があります。すべてのコスト・オブジェクト・タイプを出力するには、「\*」(アスタリスク)を入力します。

#### 勘定科目情報を取り込むテーブル

レポートの出力時に使用するソース・ファイルを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 取引明細テーブル (F0911)

1: コスト・アナライザ残高テーブル (F1602)

#### コスト・アナライザ残高のコスト・オブジェクトに使用するビュー番号

レポートの出力時に使用するコスト・アナライザ・ビューを指定します。有効なコスト・アナライザ・ビューの番号を入力してください。この処理オプションをブランクにするか、または「0」を入力すると、すべてのコスト・アナライザ・ビューについてレポートが出力されます。

---

## コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの検討

この項では、コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの実行
- コスト・オブジェクトの主科目別試算表 (R16026) の処理オプションの設定

### コスト・オブジェクト別試算表レポートについて

このレポートを使って、個別の勘定科目残高および元帳全体の正確性を検証できます。このレポートには、複数のビジネスユニットの主科目を集計した金額が出力されます。

このレポートでは、取引明細テーブル (F0911) とコスト・アナライザ残高テーブル (F1602) のどちらから情報を取得するかを指定できます。

コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) から情報を取得する場合は、コスト・オブジェクトの主科目別試算表を実行する前に、コスト・アナライザ残高への転記プログラム (R1602) を実行する必要があります。コスト・アナライザ残高への転記プログラムを実行すると、コスト・アナライザ残高テーブル (F1602) が更新されます。

#### 関連項目:

[第 16 章、「コスト・アナライザ残高の使い方」、「コスト・アナライザ残高テーブルへの仕訳の転記」、105 ページ](#)

### コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの実行

「レポート」メニュー (G1625) の「コスト・オブジェクトの主科目別試算表」を選択します。

## コスト・オブジェクトの主科目別試算表(R16026)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 期間

#### 会計年度

試算表を出力する会計年度の下2桁を指定します。たとえば、2008年の場合は「08」と入力します。この処理オプションを設定した場合、「期間」処理オプションで終了期間も指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の会計年度が使用されます。

#### 期間

試算表を出力する期間を指定します。この処理オプションを設定した場合、「会計年度」処理オプションで最後の期間の会計年度も指定する必要があります。この処理オプションを空白にすると、「会社の設定」フォームでJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに定義されている会社固定情報テーブル(F0010)の現行期間が使用されます。

### 印刷オプション

#### 1. 勘定科目名を取り込むモデル・ビジネスユニット

勘定科目名を取り込むモデル・ビジネスユニットを指定します。有効なモデル・ビジネスユニットを入力してください。

#### 2. 残高ゼロの勘定科目

指定期間における残高がゼロの勘定科目を出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 残高がゼロの勘定科目を出力する。

1: 残高がゼロの勘定科目は出力しない。

---

**注意:** 転記編集コード「N」が割り当てられた勘定科目は、この処理オプションを「1」に設定した場合も出力されます。転記編集コードが「N」の勘定科目は見出し勘定科目のため、残高はありません。

---

### 詳細レベル

#### 1. 最下位詳細レベル

レポートに出力する詳細レベルの最下位値を指定します。出力する詳細レベルには、1から9の値を入力できます。たとえば、最も詳細なレベルに7を指定すると、勘定科目表にレベル8と9の勘定科目がある場合、これらの勘定科目はレベル7の勘定科目に集計され、レベル8と9の勘定科目は出力されません。

この処理オプションを空白にすると、すべての詳細レベルがレポートに出力されます。

---

**注意:** 詳細レベルを省略して勘定科目表を作成すると、詳細レベルをロールアップする際に合計が正しく計算されない場合があります。

---

### 元帳

#### 1. 元帳タイプ

元帳のタイプを指定します。元帳タイプのUDCテーブル(09/LT)に設定されている値を指定する必要があります。この処理オプションを設定しない場合は、元帳タイプAA(実績金額)の金額が出力されます。

---

**注意:** 指定した元帳タイプが「CA」(外貨)で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## 補助元帳

### 1. 補助元帳

補助元帳のある勘定科目の金額を出力するかどうかを指定します。次の選択肢があります。

特定の補助元帳番号を入力します。

「\*」を入力します。レポートにすべての補助元帳が出力されます。

この処理オプションは空白にします。補助元帳を使用していない勘定科目のみがレポートに出力されます。

この処理オプションを設定した場合、「補助元帳タイプ」フィールドにも値を入力する必要があります。

補助元帳タイプは、直接値を入力することも、「補助元帳タイプ」フィールドの「ユーザー定義コードの選択」フォームから選択することもできます。

### 2. 補助元帳タイプ

補助元帳番号を含むテーブルを識別するユーザー定義コード(システム00/タイプST)を指定します。たとえば、補助元帳タイプAは、住所録マスター(F0101)を示します。

この処理オプションを指定した場合、「補助元帳」フィールドにも値を入力する必要があります。

## 通貨

### 1. 通貨コード

通貨別に勘定残高を転記する際に、レポートに記載する通貨を指定します。レポートに記載する金額を特定の通貨に限定するには、通貨のコードを入力します。このフィールドには、通貨コード・テーブル(F0013)に設定されている値を入力する必要があります。すべての通貨の金額を含めるには、「\*」(アスタリスク)を入力します。通貨別転記を行わない場合は、空白にします。

---

**注意:** 「元帳タイプ」処理オプションで指定した元帳タイプが「CA」で、CA元帳タイプに多通貨の金額が含まれている場合、ここで通貨コードを指定しないと合計が正しく計算されない可能性があります。

---

## コスト・オブジェクト

### 1. レポートに印刷するコスト・オブジェクト・コード

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクトを指定します。有効なコスト・オブジェクト・コードを入力してください。特定の品目番号をレポートに出力することもできます。特定の品目番号を出力するには、「5」を入力します。

### 2. コスト・オブジェクト・タイプ

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクト・タイプを指定します。有効なコスト・オブジェクト・タイプを入力してください。コスト・オブジェクト・コードの処理オプションで特定の品目番号を出力するように指定した場合は、品目番号の形式を入力します。値は次のとおりです。

1: 略式品目番号

2: 第3品目番号

3: 詳細品目番号

**3. コスト・オブジェクト**

レポートの出力時に使用するコスト・オブジェクトを指定します。有効なコスト・オブジェクトを入力してください。コスト・オブジェクトの処理オプションで特定の品目番号を出力するように指定した場合は、品目番号を入力します。特定の品目番号を出力する場合、品目番号の形式はコスト・オブジェクト・タイプの処理オプションで指定した形式と一致している必要があります。すべてのコスト・オブジェクト・タイプを出力するには、「\*」(アスタリスク)を入力します。

**4. 勘定科目情報を取り込むテーブル**

レポートの出力時に使用するソース・ファイルを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 取引明細テーブル (F0911)

1: コスト・アナライザ残高テーブル (F1602)

**5. コスト・アナライザ残高のコスト・オブジェクトに使用するビュー番号**

レポートの出力時に使用するコスト・アナライザ・ビューを指定します。有効なコスト・アナライザ・ビューの番号を入力してください。この処理オプションをブランクにするか、または「0」を入力すると、すべてのコスト・アナライザ・ビューについてレポートが出力されます。



## 第 23 章

# 残高調整のための収益性分析監査レポートの検討

この章では、収益性分析のための収益性分析財務レポートの概要と次の方法について説明します。

- コスト・オブジェクト別収益性レポートの検討
- コスト・オブジェクト別損益計算書レポートの検討
- コスト・オブジェクト別試算表レポートの検討
- コスト・オブジェクトの主科目別試算表レポートの検討

---

## 収益性分析監査レポートについて

活動基準原価計算(ABC)を採用している企業がかかえる問題の1つは、一般会計原則(GAAP)による財務レポートとABCによる財務レポートの残高を一致させるための調整です。GAAPとABCでは原価の捉え方が異なります。

ABCの場合、製品への原価の配賦方法が従来の方式とは2つの点で異なります。まず、製品とサービス間で原価が再配賦されます。次に、間接費の製品原価への分配が行われます。結果として、会計期間によって異なる原価が計上されることとなります。

伝統的な会計基準やGAAPに基づく会計処理をABCに調整するには、標準原価と活動原価の両方の観点から開始残高と終了残高を調整する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムでは、2つの会計処理を調整するための監査レポートを4種類提供しています。

- 履歴レポート - 資源から活動レポートの表示
- 履歴レポート - 割当別レポートの表示
- 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト・レポートの表示
- 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト・レポートの表示

4つのレポートではすべて、原価計算取引テーブル(F1611)という監査ログ・ファイルから情報が取り込まれます。割当の計算プログラム(R1610)の処理オプションで、監査ログ・ファイルが作成されるように指定する必要があります。

---

## 履歴レポート - 資源から活動レポートの検討

この項では、次の方法について説明します。

- 履歴レポート - 資源から活動レポートの実行

- 履歴レポート - 資源から活動 (R16111) の処理オプションの設定

## 履歴レポート - 資源から活動レポートの実行

「割当て」(G1623) の「履歴レポート - 資源から活動」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計の勘定残高を活動基準の残高に調整するには、資源を活動基準残高に調整する必要があります。この処理には履歴レポート - 資源から活動レポートを実行します。このレポートにより、資源 (勘定科目) を配賦先の活動に分配できます。

このレポートは、原価計算取引テーブル (F1611) という監査ログ・ファイルから情報が取り込まれ、出力されます。割当の計算プログラム (R1610) の処理オプションで、監査ログ・ファイルが作成されるように指定する必要があります。

監査ログ・ファイルからレポートに出力するレコードが選択される際、活動コード・フィールドと配賦先活動コード・フィールドが検証されます。活動コード・フィールドが空白で、配賦先活動コード・フィールドに値が指定されているレコードのみが選択されます。

履歴レポート - 資源から活動レポートでは、勘定科目マスター (F0901) から情報も取得され、出力されます。これにより、勘定科目カテゴリ・コード・フィールドなどの勘定科目マスター (F0901) のフィールドをデータ選択で使用できます。

## 履歴レポート - 資源から活動 (R16111) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. ビュー データ選択基準に使用するビュー番号を指定します。この処理オプションを空白にすると、「1」が使用されます。

---

## 履歴レポート - 割当別レポートの検討

この項では、次の方法について説明します。

- 履歴レポート - 割当別レポートの実行
- 履歴レポート - 割当別 (R16112) の処理オプションの設定

## 履歴レポート - 割当別レポートの実行

「割当て」(G1623) の「履歴レポート - 割当て別」を選択します。

このレポートは、特定の割当内の勘定残高を調整する必要がある場合に使用します。特定の勘定科目に対する割当対象の活動がすべて表示されます。

このレポートは、原価計算取引テーブル (F1611) という監査ログ・ファイルから情報が取り込まれ、出力されます。割当の計算プログラム (R1610) の処理オプションで、監査ログ・ファイルが作成されるように指定する必要があります。

また、勘定科目マスター (F0901) から情報も取り込まれるため、勘定科目カテゴリ・コード・フィールドなどのこのテーブルのフィールドをデータ選択で使用できます。

## 履歴レポート - 割当別 (R16112) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. ビュー データ選択基準に使用するビュー番号を指定します。この処理オプションを空白にすると、「1」が使用されます。

---

## 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト・レポートの検討

この項では、次の方法について説明します。

- 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト・レポートの実行
- 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト (R16113) の処理オプションの設定

### 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト・レポートの実行

「割当て」(G1623) の「履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト」を選択します。

このレポートを使用して、資源をコスト・オブジェクトの勘定残高に調整できます。また、資源 (勘定科目) を配賦先の様々なコスト・オブジェクトに1つの割当内で分配することもできます。

このレポートは、原価計算取引テーブル (F1611) という監査ログ・ファイルから情報が取り込まれ、出力されます。割当の計算プログラム (R1610) の処理オプションで、監査ログ・ファイルが作成されるように指定する必要があります。

監査ログ・ファイルからレコードが選択される際、配賦先コスト・オブジェクト・フィールドが検証されます。配賦先コスト・オブジェクト・フィールドに値が指定されているレコードのみが選択されます。

このレポートは、勘定科目マスター (F0901) から情報も取得され、出力されます。これにより、勘定科目カテゴリ・コード・フィールドなどの勘定科目マスターのフィールドをデータ選択で使用できます。

### 履歴レポート - 資源からコスト・オブジェクト (R16113) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. ビュー データ選択基準に使用するビュー番号を指定します。この処理オプションを空白にすると、「1」が使用されます。

---

## 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト・レポートの検討

この項では、次の方法について説明します。

- 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト・レポートの実行

- 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト (R16114) の処理オプションの設定

## 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト・レポートの実行

「割当て」(G1623)の「履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト」を選択します。

このレポートにより、活動をコスト・オブジェクト勘定残高に調整できます。特定の割当内で活動を配賦先のコスト・オブジェクトに分配できます。

このレポートは、原価計算取引テーブル (F1611) という監査ログ・ファイルから情報が取り込まれ、出力されます。割当の計算プログラム (R1610) の処理オプションで、監査ログ・ファイルが作成されるように指定する必要があります。

監査ログ・ファイルからレポートに出力するレコードが選択される際、活動コード・フィールドと配賦先コスト・オブジェクト・フィールドが検証されます。活動コード・フィールドと配賦先コスト・オブジェクト・フィールドに値が指定されているレコードのみが選択されます。

このレポートは、勘定科目マスター (F0901) から情報も取得され、出力されます。これにより、勘定科目カテゴリ・コード・フィールドなどの勘定科目マスターのフィールドをデータ選択で使用できます。

## 履歴レポート - 活動からコスト・オブジェクト (R16114) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

1. ビュー データ選択基準に使用するビュー番号を指定します。この処理オプションを空白にすると、「1」が使用されます。

## 第 24 章

# 顧客収益性レポートの検討

この章では、収益性分析顧客収益性レポートの概要と次の方法について説明します。

- 顧客収益性レポートの実行
- 顧客収益性レポート(R16028)の処理オプションの設定

---

## 顧客収益性レポートについて

この項では、顧客収益性レポートの概要と事前設定について説明します。

### 顧客収益性レポート

サプライチェーン全体に渡って、様々な管理レベルで顧客または製品、もしくはその両方についての収益性を判断するツールが必要とされます。経営陣にとっては、収益性が高く、よりよいサービスを提供する高価値な顧客を見極める情報が必要です。顧客収益性レポート(R16028)では、このような情報を提供できます。

顧客収益性レポートは4つのセクションに分かれています。

- 収益
- 経費(費用)
- 活動原価
- その他の間接費および間接利益

収益セクションと費用セクションには、収益と費用のAAI範囲内の勘定科目コードが表示されます。

- 活動原価

活動原価セクションには次の項目が表示されます。

- 活動に割当済の勘定科目
- 顧客に割当済の勘定科目
- GLG 9 AAIの範囲より大きいコードを持つ勘定科目
- その他の間接費および間接利益

その他の間接利益および間接費のセクションには次の項目が表示されます。

- 収益と費用のAAI範囲外の勘定科目(GLG 9 AAIより大きい)
- 顧客に割当済の勘定科目
- 活動に割り当てられていない勘定科目

すべてのニーズに対応することは困難なため、このレポートは基本テンプレートとして設計されています。使用する際は必要な設定を行ってください。設定には、JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のセットアップが反映されます。処理オプション、データ選択、簡単なコード変更により、レポートを柔軟に設定および処理できます。

処理オプションの「選択」タブで、レポートに使用するコスト・アナライザ・ビュー、会計年度、開始期間、終了期間、元帳タイプを選択できます。「詳細」タブでは、さらに勘定科目の詳細レベルおよび活動の範囲を指定できます。

---

**注意:** このレポートは、詳細レベル5から9の処理用に設計されています。顧客収益性に関する正確なデータを入手するためには、詳細レベル処理オプションでこの範囲から選択する必要があります。

---

顧客収益性レポートでは、収益性分析レポート(R16028A)という内部UBEが使用されます。レポートを正常に実行するためには、この内部UBEのスペックをサーバーにチェックインする必要があります。

このレポートには、コスト・アナライザ残高テーブル(F1602)の情報が取り込まれ、出力されます。コスト・アナライザ残高への転記プログラム(R1602)を実行してコスト・アナライザ残高テーブルを更新する必要があります。

---

**注意:** このレポートは複雑で処理に長時間かかることがあります。このため、データ選択で処理するレコードを絞り込み、レポート作成は夜間に実行することをお勧めします。たとえば、1、2社だけを対象にレポートを実行できます。

---

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- GLG AAI(自動仕訳)を設定します。
- FS04 AAIを設定します。
- 収益性分析固定情報の活動基準原価計算を選択します。

参照: [第 2 章、「収益性分析の設定」、「固定情報の設定」、11ページ](#)

---

## 顧客収益性レポートの実行

「レポート」(G1625)の「顧客収益性レポート」を選択します。

---

## 顧客収益性レポート(R16028)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 選択

#### 1. ビュー

レポートのデータ選択基準に使用するビューを指定します。有効なコスト・アナライザ・ビューの番号(1から10)を入力します。この処理オプションをブランクにすると、「1」が使用されます。

2. 会計年度(4桁) レポートのデータ選択基準に使用する会計年度を指定します。レポート出力対象の会計年度の下2桁を入力します。たとえば、2008年の場合は「08」と入力します。空白にすると、会社の設定プログラム(P0010)で定義した現行会計年度が使用されます。
3. 開始期間 レポートのデータ選択基準に使用する開始期間を指定します。有効な期間を入力してください。空白にすると、期間1が使用されます。
4. 終了期間 レポートのデータ選択基準に使用する終了期間を指定します。有効な期間を入力してください。空白にすると、期間12が使用されます。
5. 元帳タイプ レポートのデータ選択基準に使用する元帳タイプを指定します。UDC 09/LT から有効な元帳タイプを入力してください。この処理オプションを空白にすると、元帳タイプAAが使用されます。

## 詳細

1. 勘定科目の詳細レベル レポートに表示する最も詳細な勘定レベルを指定します。1から9の番号を入力してください。空白にすると、レベル9が表示されます。
2. 活動範囲 - 開始 レポートに含める開始活動コードを指定します。有効な活動コードを入力してください。空白にすると、「活動範囲 - 終了」処理オプションで指定した範囲までのすべての活動が含まれます。「活動範囲 - 終了」処理オプションも空白にすると、すべての活動が含まれます。
3. 活動範囲 - 終了 レポートに含める終了活動コードを指定します。有効な活動コードを入力してください。空白にすると、「活動範囲 - 開始」処理オプションで指定した活動コード以降のすべての活動が含まれます。「活動範囲 - 開始」処理オプションも空白にすると、すべての活動が含まれます。



# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne 供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。  JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne 買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。  “ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで使用される、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます(在庫照会、作業オーダー発注など)。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック(Credit Check)や在庫照会(Item Availability)などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール(NER)”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど(他にもある)の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

<b>ビジネス・サービス・フレームワーク</b>	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
<b>ビジネス・サービス・ペイロード</b>	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ</b>	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール</b>	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ</b>	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化</b>	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・キー</b>	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用されるユーティリティAPIです。
<b>ビジネス・サービス・プロパティ値</b>	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
<b>ビジネス・サービス・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
<b>ビジネス・サービス・サーバー</b>	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
<b>ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の一つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート</b>	Cビジネス関数で使用される、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
<b>ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ</b>	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
<b>ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト</b>	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
<b>ビジネス・ビュー</b>	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOneテーブル(複数可)から、特定の列を選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定の行を選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
<b>セントラル・オブジェクトのマージ</b>	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
<b>セントラル・サーバー</b>	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。

<b>チャート</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
<b>チェックイン・リポジトリ</b>	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
<b>コネクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間でロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
<b>相殺/相手勘定</b>	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
<b>コントロール・テーブル・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
<b>コントロール・テーブルのマージ</b>	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
<b>関連データ</b>	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
<b>コスト割当</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
<b>原価要素</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
<b>資格証明</b>	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
<b>相互参照ユーティリティ・サービス</b>	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
<b>通貨再換算</b>	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
<b>cXML</b>	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
<b>データベース資格証明</b>	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
<b>データベース・サーバー</b>	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

<b>データ・ソース・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>期間パターン</b>	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
<b>指定通貨</b>	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
<b>デプロイメント・アーティファクト</b>	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
<b>デプロイメント・サーバー</b>	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
<b>明細情報</b>	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
<b>ダイレクト接続</b>	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
<b>DNT (Do Not Translate)</b>	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
<b>2重価格設定</b>	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
<b>重複した公開ビジネス・サービス承認レコード</b>	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
<b>埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス</b>	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
<b>編集コード</b>	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
<b>編集モード</b>	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
<b>編集ルール</b>	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
<b>電子データ交換 (EDI)</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
<b>埋込みイベント・ルール</b>	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
<b>従業員ワーク・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
<b>エンタープライズ・サーバー</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBjがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストにตอบสนองするサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロン BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロン BPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数 (MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

<b>出力ストリーム・アクセス(OA)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>パッケージ</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
<b>パッケージ・ビルド</b>	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
<b>パッケージ・ロケーション</b>	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下のサブディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
<b>パッケージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
<b>パスコード・ディレクトリ</b>	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
<b>パターン</b>	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
<b>計画ファミリ</b>	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
<b>優先プロファイル</b>	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
<b>プリント・サーバー</b>	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
<b>プリステイン環境</b>	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
<b>処理オプション</b>	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィール

	ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。
<b>本稼働用環境</b>	ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。
<b>本稼働レベルのファイル・サーバー</b>	品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。
<b>本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。
<b>プログラム一時修正 (PTF)</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。
<b>プロジェクト</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。
<b>プロモーション・パス</b>	ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。  11>21>26>28>38>01  このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。
<b>プロキシ・サーバー</b>	企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。
<b>公開ビジネス・サービス</b>	EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。
<b>公開ビジネス・サービス識別情報</b>	関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。
<b>公開ビジネス・サービスのWebサービス</b>	J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。
<b>パブリッシュ済テーブル</b>	マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。
<b>パブリッシュ</b>	パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。
<b>プル・レプリケーション</b>	JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先マシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクリイバとしてセットアップされます。プル・サブスクリイバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクリイバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会)の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
<b>シリアライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architectureの略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

<b>スペックのマージ</b>	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
<b>スペック</b>	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
<b>スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
<b>SSL証明書</b>	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
<b>オフライン処理</b>	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
<b>サブスクリバ・テーブル</b>	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシュ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリバ・マシンの識別に使用されます。
<b>スーパークラス</b>	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樫や榆のスーパークラスであるといえます。
<b>補足データ</b>	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
<b>テーブル・アクセス管理(TAM)</b>	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
<b>テーブル変換ディレクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル変換</b>	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>テーブル・イベント・ルール</b>	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
<b>ターミナル・サーバー</b>	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
<b>3ステップ処理</b>	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理(TP)モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です(開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション(電子データ交換の標準ドキュメント)です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのとよく似たように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開(公開ビジネス・サービスで使用)か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエンリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成品と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス(ワークフロー)では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
<b>XML CallObject</b>	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLディスパッチ</b>	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLリスト</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLサービス</b>	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
<b>XMLトランザクション</b>	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
<b>XMLトランザクション・サービス(XTS)</b>	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
<b>Zイベント</b>	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
<b>Zテーブル</b>	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
<b>Zトランザクション</b>	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

## AAI

- 原価要素別AAIの設定 20
- 製造原価明細 20
- 設定の概要 11

## AAI(自動仕訳)

- 設定 19
- 定義 20

## AAI(自動仕訳)の設定 19

- Customer Connection Webサイト xviii
- PeopleCodeの表記規則 xx

## あ

- アプリケーションの基礎 xvii

## い

- 一般会計
  - コスト・オブジェクト情報のオフライン処理 67
  - コスト・オブジェクトのトラッキング 47
- 一般会計システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 47

## う

- 売掛管理
  - コスト・オブジェクトのトラッキング 51
- 売掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 51
- 運賃 44

## お

- オフライン
  - コスト・オブジェクトのトラッキング 67
  - 仕訳 68
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報
  - 仕訳のアップロード 70, 71
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報
  - 仕訳バッチ処理 71
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報
  - 伝票入力 71
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報
  - 伝票のアップロード 72
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報
- オフライン処理によるコスト・オブジェクト・トラッキング 67
- オーダー見出し 86

## か

- 買掛管理
  - コスト・オブジェクト情報のオフライン処理 68
  - コスト・オブジェクトのトラッキング 59
- 買掛管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 59
- 外部コスト・アナライザ残高 134
- 概要
  - コスト・オブジェクト・トラッキングの処理 16
  - ドライバ計算の処理 35
- 活動
  - 概要 39
  - 確認 163
  - 活動グループの定義 39
  - 資源 212
  - 設定 39
  - 設定の概要 11
  - ドライバ 35
- 活動グループの定義 39
- 活動原価 215
- 活動の確認 163
- 活動の設定 39
  - グループの定義 39
- 活動マスター・レポート
  - 処理オプション 167
- 監査レポート 211
- 監査ログ 212, 213, 214
- 監査ログ・ファイル 211
- 勘定科目残高 203, 206
- 勘定残高 213, 214
- 管理会計と活動基準原価計算 31
- 関連ドキュメンテーション xviii

## き

- 基準 172
- 共通フィールド xxii

## け

- 警告 xxi
- 原価プール
  - 設定の概要 11
- 原価要素
  - AAIの設定 20

原価要素別AAIの設定 19, 20

## こ

ご意見 xxii

購買オーダー

コスト・オブジェクト情報の入力 85

入荷 87

関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力

ワークベンチ 88

関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力

購買オーダー入力時のコスト・オブジェクト情報の入力 85

購買オーダー・ワークベンチへのコスト・オブジェクト情報の入力 88

購買価格差異 44

顧客売上更新プログラム(R42800)

仕訳バッチ 96

顧客収益性レポート 216

コスト・アナライザ

コスト・オブジェクト別収益性の検討 116

残高の除去 115

取引明細残高の表示 108, 113

品目別収益性レポート 116

コスト・アナライザ残高 109

コスト・アナライザ残高の除去 115

コスト・アナライザ残高の表示 105

コスト・アナライザ情報の更新

コスト・アナライザ・テーブルへの仕訳の転記 105

コスト・アナライザ・テーブル

仕訳の転記 105

コスト・アナライザ・テーブルへの仕訳の転記 105

コスト・アナライザ取引明細の照会(P16200) 108, 113

コスト・アナライザ・ビュー

設定 26

コスト・アナライザ・ビューの設定 26

コスト・オブジェクト

運賃差異のトラッキング 45

運賃の割当 44

購買価格差異のトラッキング 44

設定の概要 10

プロジェクト予算 44

有効化 12

コスト・オブジェクト情報

オフライン仕訳 68

オフライン仕訳のアップロード 70

オフライン仕訳バッチ処理 70

オフライン伝票入力 71

オフライン伝票のアップロード 72

コスト・オブジェクト・タイプ

設定 16

コスト・オブジェクト・トラッキングの処理概要 16

コスト・オブジェクトの主科目別試算表 206

コスト・オブジェクトの設定 16

コスト・オブジェクトのトラッキング 43

コスト・オブジェクトの有効化 12

コスト・オブジェクト別試算表 203

コスト・オブジェクト別収益性 200

コスト・オブジェクト別損益計算書 201

コスト・オブジェクト編集コード

設定 14

設定の概要 10

コスト・オブジェクト編集コードの設定 14

コスト割当

2階層 179

単一 178

コスト割当計算 193

レポート 198

コスト割当計算の改訂 194

コスト割当計算の実行 194

固定情報

設定 11

設定の概要 9

固定情報の設定 11

ご要望 xxii

## さ

差異

記録 12

在庫評価

総勘定元帳更新 99

作業オーダー

コスト・オブジェクト情報の入力 78

作業オーダー時のコスト・オブジェクト情報の入力 78

作業場

差異の記録 12

## し

「事業所固定情報」フォーム 13

資源 213

活動 212

- 試算表 203
  - 自動ドライバの定義 36
  - 収益 201
  - 収益性 200
  - 収益性分析
    - 概要 1
    - 機能 2
    - 設定 9
    - ユーザー定義コード 27
  - 「収益性分析固定情報の入力/変更」フォーム 13
  - 受注オーダー
    - コスト・オブジェクト情報の入力 96
  - 受注オーダーへのコスト・オブジェクト情報の入力 96
  - 受注管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 93
  - 手動ドライバの定義 38
  - 処理オプション
    - P0901(ビジネスユニット別勘定科目) 16
    - 活動マスター・レポート 167
    - コスト・アナライザ取引明細の照会(P16200) 114
  - 仕訳
    - コスト・オブジェクト情報の入力 48
    - システムでの識別 48
    - バッチ 96
  - 仕訳入力時のコスト・オブジェクト情報の入力 48
- す**
- スピード請求書
    - コスト・オブジェクト情報の入力 53
    - 入力 54
  - 「スピード請求書入力」フォーム 54
  - スピード請求書へのコスト・オブジェクト情報の入力 53
  - スピード伝票
    - コスト・オブジェクト情報の入力 61
  - スピード伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力 61
- せ**
- 請求書
    - スピード 53
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力
    - スピード入力 54
- 定期 55
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力
  - バッチ 54
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力
  - バッチ請求書情報の確認 54
  - バッチ請求書の改訂 54
  - 標準 51
    - 関連項目: コスト・オブジェクト情報の入力
  - 請求書の入力 52
  - 製造会計における原価情報の更新 78
  - 製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 75
  - 製造管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキングの使い方 75
  - 製造原価明細
    - 有効化 13
  - 製造原価明細の有効化 13
  - 製品ガイド
    - 注文 xviii
  - 前提知識 xvii
- そ**
- 総勘定元帳
    - コスト・オブジェクト情報の更新 47
  - 総勘定元帳更新 99
  - 総勘定元帳の更新 99
  - 総勘定元帳のコスト・オブジェクト情報の更新 47
  - 相互参照 xxi
  - 損益計算書 201
- ち**
- 注意 xxi
  - 注意事項 xxi
  - 調整 211
  - 調達管理システムにおけるコスト・オブジェクトのトラッキング 81
  - 調達管理システムにおけるコスト管理について 82
- つ**
- 追加ドキュメンテーション xviii
- て**
- 定期請求書
    - コスト・オブジェクト情報の入力 55

定期請求書へのコスト・オブジェクト情報  
の入力 55

定期伝票

コスト・オブジェクト情報の入力 65

定期伝票へのコスト・オブジェクト情報  
の入力 65

伝票

アップロード 72

照合方法 89

スピード 61

関連項目: コスト・オブジェクト情報  
の入力

定期 65

関連項目: コスト・オブジェクト情報  
の入力

入力 71

標準 59

関連項目: コスト・オブジェクト情報  
の入力

複数会社 62

関連項目: コスト・オブジェクト情報  
の入力

複数伝票 64

関連項目: コスト・オブジェクト情報  
の入力

陸揚費用に対する作成 84

伝票照合時のコスト・オブジェクト情報  
の入力 89

伝票照合方法 89

データ・モデル

製造管理システムにおけるコスト管  
理 75

## と

当期利益 201

ドキュメンテーション

関連 xviii

最新版 xviii

ダウンロード xviii

ドキュメンテーションのダウンロード xviii

特殊な除去の実行 147

ドライバ

概要 35

計算の実行 144

自動 36

手動 38

設定 35

設定の概要 11

選択 143

ドライバ計算の実行 144

ドライバ残高の更新 139

ドライバ情報の入力 139

ドライバ計算

実行 144

ドライバ計算の実行 144

ドライバ計算の処理

概要 35

ドライバ残高の計算 139

ドライバ残高の検討 146

ドライバ情報の入力 139

ドライバの設定 35

ドライバの選択 143

取引明細残高

コスト・アナライザでの表示 108, 113

## に

入荷確認時のコスト・オブジェクト情報  
の入力 87

任意勘定科目

設定 23

設定の概要 11

定義 24

任意勘定科目の設定 23

## は

配賦先 173

配賦元(ソース) 171

バッチ請求書

コスト・オブジェクト情報の入力 54

処理 54

バッチ請求書へのコスト・オブジェクト情  
報の入力 54

## ひ

ビュー

設定の概要 10

費用 201

表記規則 xx

標準請求書

コスト・オブジェクト情報の入力 51

標準請求書へのコスト・オブジェクト情  
報の入力 51

標準伝票

コスト・オブジェクト情報の入力 59

標準伝票入力 60

標準伝票へのコスト・オブジェクト情報  
の入力 59

品目収益性レポート 116

## ふ

## フォーム

- AAIの処理 20
- ABCワークベンチ 40
- オフライン仕訳の改訂 69
- 勘定科目の改訂 21
- コスト・アナライザ・ビューの処理 26
- コスト・アナライザ・ビューの入力 26
- コスト・オブジェクト・タイプの処理 16
- コスト・オブジェクトの入力 16
- 収益性分析固定情報の入力/変更 12
- 仕訳入力 49
- 仕訳入力の処理 48
- スピード請求書入力 54
- スピード伝票入力 62
- 選択したテーブルのデータ項目の処理 17
- 伝票入力 - 支払情報 60, 66
- 「ドライバ・ボリュームの改訂」フォーム 142
- 複数伝票の入力 65
- 未処理入荷と伝票の照合 91
- 複数会社伝票
  - コスト・オブジェクト情報の入力 62
- 複数会社伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力 62
- 複数伝票
  - コスト・オブジェクト情報の入力 64
- 複数伝票へのコスト・オブジェクト情報の入力 64
- プログラム
  - P16200(コスト・アナライザ取引明細の照会) 108, 113
- プログラムとID
  - P03B11SI(スピード請求書入力) 54
  - P041017(複数伝票の入力) 65
  - 関連項目: 「複数伝票の入力」フォーム
  - P0411SV(スピード伝票入力) 62
  - P0411(標準伝票入力) 60, 66
  - 関連項目: 「伝票入力 - 支払情報」フォーム; 「伝票入力 - 支払情報」フォーム
  - P0911Z1(オフライン仕訳) 69
  - 関連項目: 「オフライン仕訳の改訂」フォーム
  - P0911(仕訳入力) 48, 49

- 関連項目: 「仕訳入力の処理」フォーム; 「仕訳入力」フォーム
- P1603(コスト・アナライザ・ビューの設定) 26
- 関連項目: コスト・アナライザ・ビューの入力; コスト・アナライザ・ビューの処理
- P1609(収益性分析固定情報) 12
- 関連項目: 収益性分析固定情報の入力/変更
- P1620(コスト・オブジェクト・タイプ) 16
- 関連項目: コスト・オブジェクトの入力; コスト・オブジェクト・タイプの処理
- (P1632)ドライバ・ボリュームの改訂 142
- P1690(アプリケーション別使用可能機能) 17
- 関連項目: 選択したテーブルのデータ項目の処理
- P1691(コスト・オブジェクト規則設定方法) 25
- P40950(AAI(自動仕訳)) 20, 21
- 関連項目: AAIの処理; 勘定科目の改訂
- P4314(伝票照合) 91
- 関連項目: 「未処理入荷と伝票の照合」フォーム
- (R16103)コスト割当計算 194
- プロジェクト予算 44

## へ

- 変数配賦  
例 181

## ゆ

- 輸送管理システムにおけるコスト・オブジェクト・トラッキング 97
- ユーザー定義コードの設定 27

## り

- 陸揚費用
  - コスト・オブジェクト情報の入力 84
  - 伝票の作成 84
  - 入力 87
  - 明細行の確認 85
- 陸揚費用へのコスト・オブジェクト情報の入力 84

流通管理システムにおけるコスト管理  
について 93  
履歴レポート - 活動からコスト・オブジェ  
クト 214  
履歴レポート - 資源から活動 212  
履歴レポート - 資源からコスト・オブジェ  
クト 213  
履歴レポート - 割当別 212

## れ

連絡先情報 xxii  
レート  
設定 176  
レートの設定 176

## わ

割当 212, 214  
2階層のコスト割当 179  
概要 169  
基準の入力 172  
計算の選択 170  
コスト割当計算(R16103) 194  
コスト割当計算の実行 193  
コスト割当の改訂 194  
設定 178  
単一 178  
配賦先の入力 173  
配賦元(ソース)の入力 171  
日付定義の入力 172  
レポート 198  
割当順序の定義 170  
割当活動 212  
割当計算レポートの確認 198  
割当て定義の入力/改訂 192  
割当て履歴 197